
超次元学園へようこそ！！『スマハツストーリー』

鳴神 ソラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超次元学園へようこそ！！『スマハツストーリー』

【Nコード】

N5885X

【作者名】

鳴神 ソラ

【あらすじ】

真王さんから許可を貰い書きます「超次元学園へようこそ！！」のスマハツバージョンです！！主に、マリオや空達がメインになります！真王さんの本家やなめ猫さんが書かれてるアナザーストーリーと平行して進んで行けたら良いなと思います

第1話：ハートレス退治と新たな転校生（前書き）

と言う訳で始まりました！『超次元学園へようこそ！！』のスマハ
ツバージョン！！

マリオ「最初の話はなめ猫が書いてるアナザーストーリーの13話
「スパイダー！！！！」と平行したお話だ」

ルイージ「それでこっちのキャラをね」

第1話：ハートレス退治と新たな転校生

マリオ「とあっ！！」

飛び掛るハートレスの集団をマリオは蹴り飛ばした後にファイアーボールで飛ばす。

リュウケンドー「いきなり過ぎるよな！！」

ソロ「まっただな！」

ゲキリュウケンとキーブレードを振るいながらポッドスパイダーを倒すリュウケンドーの後ろでソロがウルトラゼロランスとゼロライザーを振るいながらソロがリュウケンドーの言葉に同意する。

スネーク「それにしてもマザーはどこにいるんだ！」

ルカリオ「今探してる所だ！！」

ネオス「なるべく早くお願いします！！」

ネクサス「……………同じく」

ロケットランチャーでポッドスパイダーを吹き飛ばして聞くスネークにルカリオはそう言い、明久が変身したネオスが急かし、ムッツリーニが変身したネクサスがそう言う。

そんなメンバーとは別に外では…

???「おお、此処が超次元学園か！」

超次元学園の校門前で身長はベールと同じ位で髪が膝まで伸びていて色は青色、目も青色で服装は上は東方の文の服をベースにアレンジした感じで腋や肩が露出しており、東方の霊夢の様に白い袖を虹色の紐で括り付け、下はミニスカートで青い生地の上に雪の結晶が描かれて、首に白いマフラーが巻いている女性がいた。

腰には6本の剣を差している。

???2「それは良いが…何やらハートレス反応が出てるようだぞ
チルノ」

左手首からした声に女性、チルノは右手首を顔の前に持って行く。

その手首には龍型のアクセサリーがついていた。

チルノ「そうなのヒヨウリュウケン？んじゃあ他の皆と合流しますか！」

そう言うと同時に右手首にあった龍のアクセサリーが光り、その後チルノの左手にゲキリュウケンの青の部分を水色に染めた剣、ヒヨウリュウケンが握られていた。

チルノ「んじゃああたいの超次元学園での初めての大量れと行きま
すかー!!」

そう言うと同時にチルノは駆け出す。

リュウケンドー「チヨイサー!!」

もどつて「こちらはあらかたポッドスパイダーを倒し、リュウケンドーはふいふいと顔の汗をぬぐう動作をする。

ソロ「これであらかた倒したな」

ネス「それで後のマザーはいる？」

ルカリオ「もう少し……！大型のが1体こちらに向かって来ている！」

オリマー「もしやそれがマザー？」

周りを見て言うソロにネスはルカリオにそう聞き、感知したルカリオは叫び、オリマーがそう言うと同時に後ろにポッドスパイダーを引き連れて歩くポットセンチビートが現れた。

ソロ「あいつがマザーか？」

マリオ「後ろからどんどん生み出して切り離してるからそうだろうな……」

それ見て呟くソロにマリオはポットセンチビートを見て言う。

ルイーダ「どうする？」

マリオ「そりゃあ勿論、速攻で倒すぞ」

????「それならあたいがやってやるよ……」

そう言うと同時にマリオ達の間を駆け抜けて言ったのは…

リュウケンドー「チルノ!？」

ソロ「何で此処に!？」

マリオ「ああ、俺が真王理事長に頼んでな」

驚くリュウケンドーとソロにマリオがそう言うのとチルノはダッシュした後にジャンプしてヒョウリュウケンの代わりにバスタードチルノソードを下に向け…

チルノ「剣技!クライムハザード!!別バージョン!!」

ダッシュの勢いでポットセンチビートを後ろにいたポッドスパイダーごと一刀両断する。

チルノ「あたいつてばサイキョーね!!」

そう言うてチルノは残ったポッドスパイダーをヒョウリュウケンで切り裂いた後にきめ台詞を言う。

リュウケンドー「よう!チルノ!」

ソロ「まさかお前も来るとはな」

チルノ「へへん」

マリオ「そっぴや…文や白蓮、早苗に大妖精とレティも呼んだ筈だが?あいつ等は?」

駆け寄るリュウケンドーとソロにチルノは鼻を擦る中、マリオが周りをチルノLOVEズ&チルノの保護者を思い浮かべて見て聞く。

チルノ「レティは少し遅れてさ…文や白蓮に早苗は何か喧嘩してて大ちゃんは後で行くからで3人の喧嘩を仲裁してるよ」

マリオ「それにしても…何か遠くから別の気配があるな…」

ルカリオ「何やらハートレスとはまた違う波動だ…近くにカイト達の波動も感じる」

チルノ「ようし！なら早く行こう！」

リュウケンドー「だな！」

ソロ「ああ！」

マリオとルカリオの後にチルノの言葉にリュウケンドーとソロが答えた後に駆け出す。

ルイージ「そう言えばフォックスは？」

スネーク「どこに行ってるんだあいつは？」

ちなみにその途中でマリオ達はスパイダーの真のマザーとぶつかるのは別の話

第1話：ハートレス退治と新たな転校生（後書き）

ネス「と言う訳で作者なりの超次元学園へようこそ！！の第1話でした！」

ルイーダ「フォックスはどこに…」

クツパ「まあ、なめ猫の所で分かるのだ」

ピット「だね」

ソニック「感想を待ってるぜ」

第2話・食堂のおでん屋ガノン（前書き）

フォックス「思いつきりタイトル通り」

リンク「ですね」

ワリオ「始まるぞー！」

第2話：食堂のおでん屋ガノン

ハートレス騒ぎ終わった後に来たチルノLOVEズとレティの挨拶が終わった翌日

早苗「チルノちゃん！一緒に食べましょう！」

文「いえ！私と！」

白蓮「私とませんか？」

大妖精「チルノちゃん！一緒に食べよう！」

チルノ「そんなに焦らなくても大丈夫だと思うよ」

昼食の時間と共にわいわいとチルノに集まるチルノLOVEズ、それにレティはくすくすと見ている。

カイト「…何か凄いですね」

銀時「そうだな」

ソロ「そうか？」

空「普通通りだよな」

それを見てカイトと銀時はそう言い、ソロと変身を解いた空が言う。

その言葉に2人はホントに鈍いと思った後に先生陣が集まってる事

に気づく。

カービィ「何か先生陣が集まってるね」

スネーク「なんでも、新しい職員が来たそうだよ」

ソニック「それ誰なんだろうな」

同じく気づいたカービィが呟き、スネークが言った後にソニックが言うつと…

ガノン「ハイ、大根お待ち」

リンク「チクワもOKですよ」

ツッコミトリオ「お前からかよー！」

ガノンとリンクが出て来た事にスマハツでのツッコミトリオがツッコミを入れる。

マリオ「おっ、来たんだな」

ガノン「ああ」

ネプテューヌ「またマリオさんが呼んだの？」

マリオ「ああ、真王理事長にまた言ったな」

挨拶するマリオにガノンは答え、ネプテューヌの問いにマリオはそう言うつ。

ガノン「俺の部屋の隣はカウンセリング室を兼ねてるからもし相談事があるなら来てくれ」

神楽「と言つか何でおでんを出してるネ」

ガノンが言った後に神楽が聞く。

ガノン「そりゃあ今の俺の本業だしな」

リンク「私はその手伝いですよ…ちなみにこれ以外では皆さんと一緒に勉強しますので」

ピット「と言うか…あんた大丈夫なんですか？」

ガノンの後のリンクにピットが訝しげに聞く。

新八「何かあるの？」

ピット「実践しましょう…レーティアさんとリンク以外は離れて…レーティアさんは魅力のオーラをやっちゃってください」

レーティア「えっ…ええ…」

新八の言葉にピットはそう言い、指名されたレーティアは戸惑った後にリンクを除いた全員が離れたのを確認した後に魅力のオーラを出す。

その瞬間…

リンク「はっ、はっ…ばぐっしゅい…!!」

学園内に響く程のくしゃみをする。

リンク「ばくしゅん!うえくしゅん!!ほっくしゅん!!…!!ばくしゅん!!」

銀八「レーティアストップストップ!!」

レーティア「あっ、はい」

大きいくしゃみを連発するリンクを見て銀八が叫び、レーティアも止めて数秒後にくしゃみは止まり、リンクははあ…と息を吐く。

ピット「この通り、本人は魅力系を感じるべくしゃみしちゃう。魅力系アレルギーなんですよ」

新八「どんなアレルギー…!!!」

ティアナ「どうやったらそうなるんですかあああ!!?」

ルイージ「それが不明なんだよね…」

ドクター「私達でも分かんないのだよ」

ため息をついて説明するピットに新八とティアナは叫び、ルイージとドクターやスマハツメンバーはため息を吐く。

超次元学園にまた新たな生徒と職員が加わったのであった。

…その後、時たまりリンクのくしゃみが響いたのであった。

第2話：食堂のおでん屋ガノン（後書き）

リンク「此処で出しますか！」

フォックス「頑張れリンク」

明久「ファイトです！」

ファルコ「だな」

リンク「うわぁ…色んな意味で不安たっぷり！」

第3話：マリオ達の修行（前書き）

明久&ムッツリーニ「（ガタガタブルブル）」

ルイージ「ご愁傷様…」

スネーク「頑張れ」

第3話：マリオ達の修行

マリオ「400、401、402」

今日も元気に修行しているマリオ

ちょっと違うのは…

カイト「400、401、402」

カイトもやっついていて…離れた場所で明久とムツツリーニが特訓をしていた。

明久「ホントは悪くは言いたくは無いけど叫びます…なめ猫さんの馬鹿あああああああ!!!」

ムツツリーニ「……………師父の練習メニューを勝手に増やさないで欲しい」

綱の上で弾丸の雨しのぎながら明久は叫び、ムツツリーニも避けながら文句を言う。

ミリア「あの2人もやるんだね」

マリオ「まあ、あの2人が俺と同じ修行をしたっていうことから…ちなみに俺は5歳の時、あいつ等は8歳の時にやっているぞ」

カイト「そりゃまた…」

ミリア「凄いね」

マリオの言葉にカイトとミリアはそう言う。

こなた「いや〜こっちも凄いけどあっちも凄いね〜」

かがみ「そうね…」

見ていたこなたはマリオから視線を外して別の方向を見て、かがみも同意してその方向を見る。

ソロ「デアッ！」

空「はっ！」

チルノ「うりゃあ！」

3人がそれぞれ自分の武器や相棒を振るって練習している。

それぞれ一方を2人同時にしたり、別々にぶつかりあってる。

離れた場所でチルノLOVEズがそれを見てる。

レティ「やってるわね」

そこにレティも来る。

ちなみに普段は原作の服だが今回はアドチルの服を着ていた。

レティ「それじゃあ私も行きますか」

そう言うと同時にカードを取り出し、前面に翳すと地面から剣が現れ、それを掴み取る。

レティ「Lingerling!」

そう言うと同時に覆っていた鞆部分が吹き飛び、その刃を見せる。

そして駆け出すと共に空に剣を振り下ろす。

空「うおっ!」

それに空は慌てて防いだ後に吹き飛び、着地する。

レティ「私も混ぜらせて貰うわ」

チルノ「うわぁ…!」

ソロ「厄介だな」

空「確かに」

剣を構えて言うレティに合流したチルノとソロ、空は警戒する。

レティ「はっ!」

ソロ「くっ!」

先ず、レティはソロに剣を振り下ろし、ソロはゼロライザーで防ぐ。

そして左方向から来るチルノをレティは左足で蹴り飛ばすと共に…

レティ「三季と百花を覆う白銀の六花…フラワー」

ソロを吹き飛ばし、反対方向から来た空のお腹に右手を付け…

レティ「ウエザラウェイ!!」

空「うわー!!」

吹き飛ばす。

カイト「やるな…」

マリオ「まあ、レティはあいつ等の師匠の様な存在だからな」

それを終えたカイトが呟き、マリオがそう言う。

数分後

レティ「はい、終わり」

目の前でぐでーとなっている3人にレティは笑顔で言う。

空「やっぱレティつええ…」

ソロ「だな…」

レティ「あらあら、5%しか何時も出してない究極の力を持つ魔弾
剣士さんと光の巨人さんが何言ってるの」

ぜえせえと息を吐く空とソロにレティは苦笑して言う。

チルノ「うう…ホントにレティは強いよね…」

レティ「大丈夫よ、いつかは越えられるわ」

チルノ「そのいつかってどれ位かな…」

チルノの呟きにレティはそう言い、チルノがそう言うのとレティは頭を撫でていつかよと言う。

チルノ「LOVEズ」……………」

カイト「（指を啜えて羨ましい顔でレティさんを見る…）」

ミア「（そんなに好きなんだね）」

その様子を見ているチルノ「LOVEズ」にカイトとミアは冷や汗を掻いたのであった。

ちなみに…

明久「き、きつかった…」

ムッツリーニ「……………同じく」

2人はちゃんと乗り越えられたのであった。

第3話：マリオ達の修行（後書き）

リュカ「今回は修行の風景だね」

ネス「後半はレティさんのターンって感じだったけど」

スネーク「そうだな…」

クッパ「明久とムッツリーニも大変だったのだ…」

第4話：敵に渡すな！キーKEYキープ！（前書き）

スネーク「今回は真王のリクエストに答えてのお話だ」

リンク「それですね…」

ルイージ「また内のキャラ登場」

マリオ「だな」

第4話：敵に渡すな！キーKEYキープ！

とある日の事…

ネプテューヌ「あれ？」

歩いていたネプテューヌは一回り大きいカギが墜ちていた。

ネプテューヌ「何だろこれ？」

首を傾げながらネプテューヌはその鍵を拾ってジロジロと見る。

すると…

????「貰った!!！」

謎の男達がそのカギをネプテューヌ奪い去って行く。

ネプテューヌ「何あいつ等！」

むかつときたネプテューヌは真王に知らせに走る。

真王「困ったな…どこに行ったんだ…」

ネプテューヌ「あれ？どうしたの理事長？」

理事長室に入ると困った顔をしている真王がいて、ネプテューヌは話しかける。

真王「ネプテューヌか…困った事があってな…そっちはどうしたんだ？」

ネプテューヌ「あのね、いらつとする事があつたんだよ！大きい力ギを見つけてさ、見ていたらいきなり知らない男達に取られたんだよ！」

その言葉に真王はまさか…と呟いた後に写真を取り出す。

真王「ネプテューヌ…もしやその力ギはこれか？」

ネプテューヌ「ん？…ああ！これこれ！」

写真を見てネプテューヌは指差す。

真王「やばいぞ！」

ネプテューヌ「やばいつて？」

真王「それは超次元学園の超金庫の力ギだ！」

鬼気迫る真王にネプテューヌは聞くとそう返される。

ネプテューヌ「ええ！？」

真王「やばいな…そいつ等に金庫の全てを奪われたら学園崩壊の危機だ！」

ネプテューヌ「それじゃあ早く見つけて取り返さないと…！」

真王の言葉にネプテューヌがそう言ってる頃

ソロ「何だこのカギ？」

空「見た事ないカギだな？」

チルノ「と言うか…超次元学園のマークが入ってるね」

ソロ達がカギを取り返していた。

ちなみにぶちのめした理由が何かしようと言うのが顔に出ていたから

男「そのカギ渡せ！！」

男2「あの学園の倉庫の中身で俺たちは儲かるんだ！！」

男3「馬鹿！何目的話しちやってるんだよ！！」

それに叩きのめされていた男達はガバツと起き上がって言う。

空「聞いたか？」

ソロ「ああ、なおさら渡せないな！チルノはそれを持って逃げる！
お前両手塞がってるし！！」

チルノ「分かった！！」

それぞれキーブレードとウルトラゼロランスを構え、空とソロは男達と戦い、チルノは逃げる。

その後ろを空とソロを無視した男達が来るが…

マリオ「おりゃあ！」

ルイーダ「とうー！」

フォックス「はっ！」

スネーク「ふん！」

マリオ達が現れ、男達を妨害する。

チルノ「皆！」

銀時「チルノ！それを絶対に渡すなよ！」

ネプテューヌ「運命がかかってるからね！！！」

チルノ「分かった！」

銀時とネプテューヌの言葉にチルノは頷いた後に駆け出す。

追いかけてよとする男達だが銀時たちにより先に行けない。

大丈夫と思った時に…

男4「いたぞ！」

チルノ「うわっ！？」

目の前の別の集団が現れる。

慌ててチルノは止まり、どうしようかと思った時…

ヒュウウウウウウ…

何かの落下音に集団とチルノが上を見ると…

ドオオオオオン！！！！

集団「ぎゃああああああああ！！！！」

集団が落ちて来たそれに潰された。

チルノ「あれ？キュレム？」

落ちて来たそれ、寝ているキュレムにチルノは目を丸くする。

片付けたマリオ達も寝ているキュレムに目を丸くする。

カイト「寝てるな…」

ミリア「落ちて来たのに…」

ファルコ「もしやこいつは…」

????「悪い事をする奴は許さないぞ！！」

カイトとミリアが言った後にキュレムを見たファルコが感づいた瞬

間にキュレムの頭に1人の少女が乗る。

銀時「おい、何かフェイトを小さくした奴だな」

レティ「あらあら」

少女「レヴィ「悪い事をする奴をぶった切る！雷刃の襲撃者！レヴィ・ザ・スラツシャー！参上！！」」

????2「何やってるんですかあなたは？」

????3「まったく…」

銀時の言葉の後にレティは困った顔をし、少女、レヴィはビシッと決めると空中から2人の少女が降りて来る。

ファルコ「ロードにシュテル、お前らも来てたのか…」

ビビ「えっ？知り合い？」

ふうと息を吐くファルコにビビは聞く。

レヴィ「ヤッホー、主にチルノあ！戻れキュレム！」

シュテル「私たちも来ました」

ロード「うむ、呼ばれたので来たのだ」

ファルコとチルノに挨拶してキュレムをスーパーボールに戻すレヴィを横目で見た後にシュテルとロードはファルコに言う。

ビビとグレイが驚いている間にさらに凄い速さで2つの影がファルコに抱き付く。

空「フランにお空も呼んだのか？」

マリオ「ああ、何でも来たかったらしいからまた頼み込んでな」

フラン「不動」

お空「うにゅ」

ファルコ「お前ら…突撃で来るな…」

ファルコに抱き付くフランとお空を見て空は聞き、マリオはそう言っている…

フォックス「これは…さらに楽しくなるな」

ネス「そうだね」

起き上がるつとする集団を気絶させながらフォックスとネスはそう言う。

こうしてカギは真王の元に戻り、学園崩壊の危機は免れたのであった。

その後、チルノとレヴィのぶつかり合いが良く見かけられるようになり、ガノンの所で相談するファルコの姿があったのであった。

第4話：敵に渡すな！キーKEYキープ！（後書き）

ネス「と言う訳で真王さんどうでしたか？」

リュカ「ファルコさん…大変だよね！」

スネーク「だな」

クツパ「うむ」

ワリオ「次回を楽しみにしとけよ」

第5話：強襲！！ギガレッジ！（前書き）

スネーク「真王のリクエストだ！」

フォックス「それと同時になめ猫のリクエストにも答える様だ」

ピット「けどなめ猫さんの最初のはギャグだよな？」

第5話：強襲！！ギガレック！

レヴィ達が来た翌日

????」（シクシクシクシクシク）

空「ファルコ〜泣くなよ〜」

カービィ「そうだよ〜ほとんど女神化されての登場だったんだし…
ってか幻想卿では女性姿がデフォだったんだし諦めようよ〜」

体育座りして泣いてる女性に空とカービィがそう言う。

泣いてる女性はファルコン・ハート、ファルコが女体化＋女神化された姿なのだ。

なぜこうなっているかと言うとフランとお空…と言うかフランの姉、レミリアとお空の主、さとりからの伝言であった。

レミリア「フランがいるんだし、将来は幻想卿で住むんだから女性姿でいなさい」

さとり「あなたが男性だとは分かってますが…やはり女性姿の方がしっくり来るので」

ちなみにそれにフォックスや一部が笑った。

カイト「ファルコさん…大変だな…」

ミリア「そうだね。」

こなた「えゝあの姿はなかなか萌えますな。」

かがみ「それが泣いてる原因でしょうが!！」

ファルコン・ハートを見て、カイトとミリアは冷や汗流しながら同情し、こなたの言葉にかがみは頭を叩く。

ソロ「やれやれ…ん？」

それに肩をすくめるソロだったがふと、上を見る。

するとメガレッグを4本足にしてもっと大きい姿にしたギガレッグが落ちて来た。

チルノ「何あれ!？」

レヴィ「デカイぞ!」

現れたギガレッグにチルノとレヴィが驚いた後にギガレッグの体に付いたキラー砲台からキラーが発射される。

ロード「撃つて来たぞ!」

ソロ「迎撃だ!！」

ロードの後のソロの言葉に遠距離攻撃が出来るメンバーがキラーを倒して行く。

そこに…

ドーン「ファルコ！頼まれた物が出来たであーる！」

ファルコン・ハート「ホントか！」

東「ばつちりだよ」

源外「お前さんの依頼通りに作つたぞ！」

ルイージ「何か作つてたの!?!」

現れたドーン、東、源外の言葉にルイージが驚いた後にドーンが代
表でポチツとなと懐から取り出したボタンを押す。

フォックス「うおっ!?!」

神楽「ぬおっ!?!」

沖田「おっ?」

ヤルオ「おっwwwwww」

フォックスや上の3人の他1部がマジックハンドに掴まれると現れ
た人数分の砲台に入れられる。

入れられたのはレミリアとさとのりの言葉を聞いて笑つた者達であつ
た。

ドーン「これぞ！『ファイアーフォックスをしてくたばりなクン』

であるー!!」

新八「うおおおおおい!! 思いつきり恨み晴らしたる!」

ファルコン・ハート「笑った奴は…」

ドーンの言葉に新八がツツコミを入れてる間に大砲から出ようとしてるが出れないメンバーにファルコン・ハートは渡されたボタンを持って言う。

ファルコン・ハート「ファイヤーフォックスやってくたばれ」

神楽「死ぬアル! 思いつきり死ぬアル!」

ザック「マジすいませんでした!」

黒い笑顔で言うファルコン・ハートに神楽とザックが代表で言った後…

ファルコン・ハート「安心しろ、ギャグだからしなねえよ ポチツとな」

フォックスを除いた入れられた一同「メタ過ぎや ああああああああああああ!」

フォックス「ファイヤー!!!」

ギガレッグに向かって発射され、フォックスを先頭に炎に包まれた一同はギガレッグを貫くと…

ドカーーーーーーン!!

ファルコン・ハート「きたねえ花火だったぜ」

ギガレッグは爆発し、飛ばされたメンバーが落ちてくる中、ファルコン・ハートを見てスマハツメンバー以外は思った。

一同「（絶対に怒らせない様にしよう…）」

離れた場所で

????「なっ、なんなんだよあいつ等!？」

????2「ギガレッグを簡単に倒すってありか!？」

慌てて走る集団がいた。

集団はギガレッグを使って超次元学園を倒して覇者になろうと考えていたがそれがあっさり破られたのに驚き、逃げているのだ。

マリオ「待ちな」

ギルシア「此処から先はいかせねえ」

ピット「ですね」

銀時「蹴りを付けさせて貰うぞ」

そんな集団の前に北斗の気に目覚めた様な気を纏ったマリオ、ギルシア、ピット、銀時がいて、集団は冷や汗を流した後…

マリオ&ギルシア&ピット&銀時「あたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた
たたたたたたたたたたたたたたたたたたたたおわたっ！！」

集団「ひでぶっ！！」

4人のマシンガンの様なパンチを受けて集団の野望は途絶えた。

その後、弾丸になったメンバーはドクターによりすぐに回復したの
であった。

第5話・強襲！！ギガレック！（後書き）

リュカ「と言う訳でこう言う感じに終わりました。」

ピット「ファルコさん、大変ですね。」

リンク「ですね」

クツパ「次回を待ってるのだ！！」

第6話：消えた楓 前編（前書き）

スネーク「ユートピアからのリクエストだ！」

フォックス「ってか…楓ホントにコラボで普通に過ごした所を見た事ないんだけどな」

ネス「それには同意」

第6話：消えた楓 前編

マリオ「今日も平和だな」

ルイーダ「そうだね」

ギガレッグの一件から2日経った日、外を見ながらマリオとルイーダがそう言う会話をしていると…

バン！！

いきなりの音に全員がした方を見るとげえげえと荒い息を吐いた椀がいた。

空「どうした椀？そんなにあわ「楓のいる場所を知らない！？」うえっ！？」

空が代表で話し掛け、迫った椀の問いに驚いた後に首を横に振る。

椀は他のメンバーを見るが誰も分からないと答える。

椀「そんな…」

ソロ「どうしたんだ？楓に何があつたんだ？」

落胆する椀にソロは聞く。

椀「帰って来てないのよ…」

マリオ「昨日からか？」

その言葉に椀は頷き、マリオはふむ…と顎を摩ると椀を見る。

マリオ「よし、楓探しをやるか」

銀時「じゃあねえな…」

ネプテューヌ「探そう!!」

マリオの後に銀時とネプテューヌが続き、他のメンバーもそれぞれ同意する。

真王に事情を話した後にマリオ達は楓の探索に出る。

ネス「と言うわけでやるよ」

リュカ「うん」

もし楓が学校に来たらの事で待機組の中のネスの言葉にリュカは頷いた後に目を瞑る

ネスとリュカは仮面ライダーWを受け継いでおり、それによりリュカはフィリップと同じ様に地球の本棚に入れるのだ。

ネス『キーワード言うよ、1つは音梨 楓』

そう言うと同時に本棚が減るがまだ多い

リュカ「次はどうする？」

ネス『うーん…音梨 椀』

次のキーワードにさらに絞られるがまだ明確なものが見つからない。

ネス『まだ見つからないか…』

悩むネスだったが椀の事である事を思い出して言う。

ネス『ナンパ』

その言葉について1つの本が残り、リュカはそれを取って見る。

空「見つからないな…」

ソロ「そうだな…」

ルカリオ「……」

上のメンバーで楓を探し歩いている。

ソロ「おっ？マリオから連絡か」

携帯が振動し、それにソロは出る。

ソロ「もしもし？」

マリオ『朗報だ。どうやら楓をナンパした男を椀がボコボコにした

事から楓行方不明が始まった様だ』

空「あゝ…」

ソロ「楓を大事にしているからな…」

ルカリオ「（それ以外に好きだからだな）」

マリオの情報に空とソロはそう言い、ルカリオは心の中で呟く。

マリオ『もしかしたら椀へ痛い目に合わせたい為の人質にされてるかもしれない』

空「そうか…」

ソロ「それだったら楓がやばいな…」

マリオ『推測だからな…だがもしもあるから早く探すぞ』

そう言った後にマリオとの通話を終えると目を閉じていたルカリオは目を開く。

ルカリオ「音梨 楓の波動を見つけた」

こっちだとルカリオは走り、空とソロも後を追う。

楓の行方は…

第6話・消えた楓 前編（後書き）

リユカ「と言う訳でユートピアさんのリクエスト前編です」

フォックス「ホントな…こつ言つ関係が多いな…」

リンク「大変ですよね…」

第7話：消えた楓 後編（前書き）

スネーク「ユートピアのリクエスト後編だ」

ネス「都合上、その前にあった人のは後回しにする事になりました

m () m

リンク「それで…」

ソロ「いきなりだったから驚いたぜ」

ルカリオ「うむ…」

変身を解いて楓を解放する栞を見ながら空とソロ、ルカリオはそう言う。

栞「ごめんね楓」

楓「はい？」

マリオ達と別れての帰りの道を歩く途中、栞の突然の謝罪に楓は栞に顔を向ける。

栞「ほら、ああなったのも私があいつ等をボコボコにしたからさ…だから」

その言葉に楓は栞を優しく抱き締めたのであった。

翌日

マロ「……………」

ジーノ「これは……………」

マリオが真王に許可を貰ったので超次元学園に来たマロとジーノは

冷や汗を掻く。

椀「さあ！誰が次にやられたいのかしら？」

DMとなった不良達に椀はビリーザロッドを弄びながらそう聞く。

マロ「弦太朗さんに見せられない！」

ジーノ「普通にそうだね。」

先代を思い浮かべて言うマロにジーノはそう言う。

マリオ「やれやれだぜ」

楓「椀！」

近くでマリオが肩を竦め、楓は目の前の状況に冷や汗を流すのであった。

第7話：消えた楓 後編（後書き）

リュカ「と言う訳でユートピアさんのリクエストでした」

スネーク「と言っかなぜにフォーゼにしようと思ったんだろっな」

フォックス「うんうん」

クツパ「次回を楽しみにしているのだ！」

第8話：こなたとかがみの探求心（前書き）

スネーク「今回はなめ猫のリクエストだ」

フォックス「萌えか…」

ネス「だね」

第8話：こなたとかがみの探求心

こなた「と言う訳で学園で1番萌えるのは誰なのかを探そうと思うのだよかがみん！」

かがみ「いきなりねあんた；」

カメラ目線でそう言うこなたにかがみは呆れる。

かがみ「んで…何でそんな事を？」

こなた「此処には色んな人がいるからね」と言う訳で行くよかがみ
「！」

かがみ「はいはい」

と言う訳で2人は其の場にいたルイージとジーノを巻き込んで皆を見まわって学園で1番萌えるのは誰なのかを追求に向かうのであった。

ルイージ「んで、誰から行くの？」

こなた「此処はやっぱり最近入ったチルノからだね」

かがみ「けど、どこにいるのか分かるの？」

諦めたルイージがそう聞くとこなたの言った事にかがみは聞く。

こなた「さっきレティさんに聞いたからこつちだよ」

ジーノ「はいね」

かがみ「こなたは決めた事には行動的ですからね」

駆け出すこなたにジーノはそう言い、かがみはそう答える。

チルノ「あれ？皆どうしたの？」

部屋に入ると遊戯王のブリザードプリンセスの服を着たチルノがいて、その周りでは鼻血を流して倒れる文と早苗を介抱しながら文のカメラで写真を取ってる大妖精と白蓮に服を作ったムツツリー二とジャンヌがいた。

なぜか文は指先に悔いはないですと血文字を書いていた。

かがみ「何か2名が死に掛けてるうううう!!!」

ルイージ「ドクタアアアアアア!!」

こなた「いや、まさか鼻血を流してるのを別の人のを見るとはね」

かがみ「まあ、確かにね……」

運ばれて行く文と早苗を見ながらこなたはそう言い、かがみは冷や汗を掻く。

ジャンヌ「いやあ、まさかあんなには思いもしなかったわ……」

チルノ「ねえねえ白蓮、何で2人は倒れたの？」

白蓮「それ程似合ってるって事ですよ。だから是非…」

早苗&文「やらせはしませんよ！！」

かがみ「復活はやっ！！」

ジャンヌが頭を掻き、首を傾げるチルノに白蓮は連れ込もうと声をかけようとして死にかけていたのもう起きてる2人にかがみは驚く。

その後、こなたとかがみ、ルイージとジーノは回って行く。

こなた「いや〜皆中々の萌えだよ〜」

かがみ「んで…誰があんた的に一番萌えなの？」

こなた「ノンノンかがみ、まだ見てない人いるじゃん」

ルイージ「それって誰？」

かがみの問いにこなたは指を振ってそう言つとルイージが聞く。

こなた「ファルコさんこと現ファルコン・ハートさん！」

かがみ「流石に止めなさい！」

ルイージ「そうだよこなたちゃん…」

こなたの言った事にかがみとルイージがそう言う。

こなた「大丈夫大丈夫、フランちゃんとお空ちゃんを見る名目で行くから」

ルイージ&かがみ「（大丈夫かな…）」

お気楽なこなたの言葉にルイージとかがみは不安げになる。

こなた「着いた着いた…んじゃあ」

かがみ「ちよっ、ノックはしなさいよ！」

平然と開けるこなたにかがみがそう言った後に…

パタン

閉めた。

こなた「いや〜お忙しい所でしたな〜」

あははと笑うこなただがその額には汗が流れていた。

かがみ「何を見たのよ…」

こなた「かがみ…ニヤンニヤンです」

かがみ「分かった。その一言で今部屋でされてるのが分かったわ」

疲れた顔で聞くかがみにこなたはそう言い、理解したかがみはそう

言う。

ルイーダ「んで…誰が1番萌えだったの？」

こなた「誰もが良かったけど…」

ルイーダの問いにこなたはそう言った後にかがみに抱き付く。

こなた「やっぱり私の嫁のかがみだね」

かがみ「ちょ!?!」

ルイーダ&ジーノ「(うすうす分かってた)」

笑顔で言うこなたにかがみは顔を真っ赤にしてルイーダとジーノはそう呟く。

ちなみにその後、こなたはファルコン・ハートにアイアンクローを1発貰ったのであった。

第8話：こなたとかがみの探求心（後書き）

ファルコン・ハート「こなたの野郎…」 扉の方を向いていたので分かった。

お空「うにゅ？」 キスしていたので分かってない。

フラン「？」 吸血していたので同じく。

チルノ「次回を待っててね!!!」

第9話：大奪還！モンスター博物館！（前書き）

スネーク「待たせたな！真王からのリクエストだ！」

フォックス「何かスマハツ出張版がコラボ受付休止になったらこっちのリクエストが増えたな」

ネス「はい言わないお約束」

第9話：大奪還！モンスター博物館！

ある日の事…

マリオ「さて、今日のニュースは…」

銀時「ってか何で教室にテレビ置かれてるんだ？」

新八「そこはツツコムのは止めましょう銀さん…」

テレビを見るマリオに銀時はツツコミ、ツツコミ役の新八はきりがないのか諦めていた。

ちなみに作者がいた中学校では普通に教室にテレビがあつた。

するとマリオの見ている番組でモンスター博物館とある強盗チームに占拠されるというニュースが入った。

タバネ「え〜あそこが占拠されたの？」

ソロ「知ってるのか？」

驚くタバネにソロは聞く。

タバネ「あそこにはね〜様々なモンスターの情報が入ってるんだよ」

マリオ「それを悪用されたらダメだから早めに行くぞ」

チルノ&レヴィ「お〜〜!!」

と言う訳でマリオ達はいち早く強盗チームを捕獲する為にモンスター博物館へ向かった。

リユカ『検索の結果、相手はブラックソルジャーと言う職業の集団のようです。後、バットショットを飛ばして中を見るとドロイドやストレイドもいるようです』

マリオ「分かった」

リユカの言葉にマリオは電源を切ると後ろにいるマロ、ソロ、空、チルノに振り返った後に進む。

それぞれ分かれて行動し、入り口以外で入れる場所からモンスター博物館へ侵入したのだ。

周りを見てマリオはモンスター博物館の中へ入り、マロ、ソロ、空、チルノも入る。

マリオ「さて…行くぞ」

ソロ&空&チルノ「おう！」

マロ「はい！」

その声の後にメンバーは駆け出し、襲い掛かるブラックソルジャーやドロイドにストレイドを早く倒していく。

長引かせると相手の攻撃や自分達の攻撃で備品を壊してしまう恐れがあると考えてである。

マリオ「ふう…これであらかた倒したな」

空「そうだな」

倒れたブラックソルジャーを縛って破壊したドロイドやストレイドをゴミ袋に纏めてマリオは汗を拭い、箒とチリトリで小さな塵を取りながら空が同意する。

マリオ「他はどうなってるのやら…」

ドカーン!!

マリオが呟いた瞬間、壁を破壊して何かが現れた。

マロ「何ですか!?!」

いきなりの事にマロは驚くとマリオの携帯が鳴り、それに出る。

マリオ「どうした?」

ネプテューヌ『聞いてマリオさん! 此処にあったキラーマシンを強盗団が何らかのことをしちやって動き出しちゃった!』

マリオ「それならこっちに来てるぞ」

ネプテューヌの連絡にマリオはそう言うと同時にキラーマシンの攻撃を受け止める。

マリオ「マロ! フォーゼのエレキの力でこいつをショートさせる!」

マロ「わっ、分かりました」

マリオの言葉にマロはそう言うと擬人化し、フォーゼドライバーを装着し、トランススイッチをONにする。

ちなみにマロの擬人化姿はネプテューヌ位の身長で頭にピンクのメッシュが入った白い髪に水色のボウダーが入った半そでに水色のズボンを履いてピンクの靴を履いた少年である。

フォーゼドライバー「3、2、1……」

マロ「変身！」

レバーを引くと同時にマロは右手を上へ上げると共にその体は仮面ライダーフォーゼになる。

フォーゼ「宇宙キターー！！！」

腕をバツと広げた後にすかさずロケットをエレキに変えて、ONにする。

フォーゼドライバー「エレキ！エレキ・オン」

それと同時にエレキステイツになると今度はレーダーをウインチに変えてONにする。

フォーゼドライバー「ウインチ！ウインチ・オン」

音声と共に左腕にウインチモジュールが装着され、フックをキラ

マシンの胴体に巻きつけた後にレバーを再度引く。

フォーゼドライバー「エレキ・ウインチ・リミットブレイク!!」

フォーゼES「ライダースタンウィップ!!」

音声と必殺名の後にエレキスイッチの電気エネルギーがウインチモジュールのフックとワイヤーロープを伝ってキラーマシンに行く。

それによりキラーマシンに電撃が伝わった後にキラーマシンは停止した。

ソロ「止まったな」

チルノ「やったね!」

ソロとチルノの言葉の後にフォーゼESは変身を解く。

その後、強盗団は逮捕されて連行されたのであった。

第9話：大奪還！モンスター博物館！（後書き）

スネーク「と言っ訳で真王のリクエスト話だったな」

フォックス「何気にオリジナル技出してな…」

ネス「次回を待ってね」

第10話：強襲！ウルトラロボット怪獣！（前書き）

スネーク「光を継ぐ者からのリクエスト話だ」

フォックス「ウルトラ怪獣のロボット参上」

第10話：強襲！ウルトラロボット怪獣！

博物館の事件から翌日

ルイーダ「今日も良い天気だね」

新八「ホントですね」

こなた「こんな日に何か起きそうだね」

かがみ「止めなさいよ」

授業をのんびり受け、会話するルイーダと新八の後ろでこなたがのほほんとそう言い、かがみが注意した時…

大地が割れて、突如ウエポナイザー1号と2号が現れ、空からキングジョーとキングジョーブラックが現れた！

こなた「も〜かがみがああ言うから出て来たじゃんか」

かがみ「私のせいかな！私のせいなんか！！」

ソロ「キングジョーとキングジョーブラック！それに確かウエポナイザー1号と2号…資料で見たのより微妙に違うな…」

マリオ「何者かの改造を受けている様だな…」

現れたウルトラ怪獣にこなたはそう言い、かがみはツッコミ、ソロとマリオはそう言った後に明久とムッツリーニ、ソロが前になる。

ソロ「デュワ！」

明久「ウルトラマン！ネオオオオオオオス！！！」

ムツツリーニ「……………ネクサス！」

それぞれウルトラマンゼロ、ウルトラマンネオス、ウルトラマンネクサスとなるとウエポナイザー1号と2号、キングジヨーとキングジヨーブラックに構えると…

ウルトラマンティガ「ジユワ！」

続いてウルトラマンティガが現れる。

ウルトラマンゼロ「光か！」

ウルトラマンティガ「ソロさん、久しぶりです！」

ウルトラマンネオス「知り合い？」

ウルトラマンネクサス「……………別世界のティガか…」

ウルトラマンティガ「あっ、初めまして…自己紹介は目の前のを対処してからにしましょう」

現れたティガにゼロはそう聞き、ティガはそう言い、ネオスとネクサスは話しかけ、ティガは頭を下げた後にウエポナイザー1号と2号、キングジヨーとキングジヨーブラックを見て構える。

それに3人共同意した後にそれぞれ駆け出す。

ウルトラマンゼロ「デアッ!!!」

キングジョーブラックにゼロは挑み、パンチを繰り返すが…

ガン!!

ウルトラマンゼロ「かつてええええ…」

ぶんぶんとパンチを出した右手を振ってキングジョーブラックを見る。

同じくキングジョーに挑んでいるティガは装甲が同じ様に硬かった様でパワータイプで挑んでいる。

ウルトラマンネオス「ジユワ!!」

ウルトラマンネクサス「フン!!」

一方、ウエポナイザー1号と2号と戦うネオスとネクサスは苦戦していた。

本来ならばウエポナイザー1号と2号は動きがそんなに速くないのだが今戦ってるのは普通に動けるまでに速くなっているのだ。

胸には中性子爆弾リミッターの代わりに黄色い器官がある。

ウルトラマンネオス「強い…けど負けるか!!」

ウルトラマンネクサス「……………同じく」

ネオスの言葉にネクサスが同意した後にウルトラマンノアになるとネオスはスターダストとホープを呼び出す。

その際、ノアになったネクサスにティガは驚いていた。

ネオス「デアッ！」

ネオスがマグネシウム光線を放つと同時にスターダスト・ドラゴンもシューティングソニックを放つとその前に立ったホープは2つの光線を双剣で受け止めるとそれぞれ光り輝く。

ウルトラマンネオス「切り裂け！ホープ剣マグネシウムソニック！
！」

ホープ「トアッ！！」

ネオスの言葉とともにホープは双剣でウェポナイザー1号を十字に切り裂く。

ウルトラマンノア「デアッ！！」

ノアはウェポナイザー2号を投げ飛ばすとライティング・ノアを放つ。

それと同時に2体は爆発する。

ウルトラマンティガPT「この！」

ウルトラマンゼロ「デアッ！」

そしてこちらはキングジョーとキングジョーブラックを投げ飛ばし、1箇所を集める。

ウルトラマンゼロ「ティガ！此処はステップショット戦法だ！」

ウルトラマンティガPT「ステップショット戦法？」

ゼロの言葉にティガPTが疑問詞浮かべてる間にゼロはマイクロ化する。

ウルトラマンゼロ「俺を奴等目掛けてデラシウム光流を放せ！」

ウルトラマンティガPT「危険過ぎだよ！」

ゼロの言った事にティガはそう言う。

ウルトラマンゼロ「早くしろ！」

ウルトラマンティガPT「……………分かった！行くよゼロ！」

起き上がるキングジョーとキングジョーブラックを見て叫ぶゼロにティガPTは頷いた後に両腕を左右から上にあげ、胸の前に高密度に集めた超高熱の光エネルギー粒子をゼロへと放つ。

ウルトラマンティガPT「行くよ！デラシウム光流！」

撃ち出されると同時にゼロは一気に巨大化し、その勢いでキングジョーとキングジョーブラックを貫く。

ドカーーン!!

ゼロが着地すると共にキングジョーとキングジョーブラックは爆発する。

空「よっしゃあ!!」

チルノ「やったね!」

それに空とチルノはガッツポーズする。

ウルトラマンティガ「やりましたね」

ウルトラマンゼロ「ああ!…しかしこいつ等はデニーによって改造されたのか?」

ティガの言葉にゼロは頷いた後に爆発後を見て呟く。

その後、ティガは変身を解き、光の姿になると全員に自己紹介する。

光「また何かあった時は駆けつけます」

ソロ「俺も、お前のピンチには助太刀に行くぜ」

そう言って2人は硬く握手する。

こなた「美しき友情だね」

その後、光は元の場所に戻ったのであった。

第10話：強襲！ウルトラロボット怪獣！（後書き）

リユカ「と言う訳で光を継ぐ者さんのリクエスト話でした」

ネス「ホントにね」

クツパ「次回を楽しみにしているのだ！」

第11話：勃発、幽霊騒動！！ 前編（前書き）

スネーク「ユートピアからのリクエスト話だ」

フォックス「今度は…」

リンク「ですね」

第11話：勃発、幽霊騒動！！ 前編

楓「はうう……」

夜中、楓は震えながら学園内を歩いていた。

歩いている理由は忘れ物をしてしまい、取りに来たのだ。

楓「これなら椀や他の人とくればよかったな……」

歩きながら楓は愚痴をぼやき、忘れ物のある場所へ向かっていると……

……

楓「ふえっ？」

後ろから声が聞こえ振り替えたが誰も居らず、楓はまた歩き出した
がさっきの事が気になり後ろを振り返ると……

着物の女性が立っていてすぐに消える。

楓「きゃあああああああ……！！……あっ……」

楓は思わず叫びそのまま気を失った。

翌日

ソロ「着物を着た女の幽霊？」

チルノ「うん、何でもアーカードさんがさ、警備していた時に叫び声かしてした方に行くと楓が気絶してたんだって、それで聞いて見ると忘れ物を取りに行く途中でその幽霊を見たんだって」

空「一体何なんだろうな？」

チルノ「気になるよね」

ソロとチルノ、空が昨日の楓が見た幽霊の事を話していると…

椀「ちよつと！何人か手伝いなさい！！」

そこに椀が来る。

銀時「おいおい、いきなりどうした？」

新八「もしかして昨日の幽霊騒ぎの件ですか？」

椀「そうよ！手伝いなさい！さもないと…」

ジャンプを読んでいた銀時が顔を上げ、新八が聞くと椀はそう言つてフォーゼドライバー（エレキ、チェーンソー、スパイク、ウインチ）を取り出す。

それを見た銀時と新八は楓誘拐の事を思い出して顔を青くして了承する。

その後、自主的にソロ、チルノ、空、ソニック、ネプテューヌ、ネプギア、こなた、かがみが立候補し、椀のフォーゼ乱用の心配したマロも立候補し、マリオとジーノがその幽霊について調べる為に別

行動するとの事

椀「待つてなさい幽霊…！」

ネプテューヌ「燃えてるね」

こなた「いや〜凄いな〜」

銀時「何も起こんなきゃあ良いんだがよ…！」

ソロ「幽霊出てる時点で起きてるだろ」

燃えてる椀にネプテューヌとこなたが言った後に銀時は不安げに呟き、ソロがそう言う。

第11話：勃発、幽霊騒動！！ 前編（後書き）

リユカ「と言う訳でユートピアさんのリクエスト話です」

ネス「出て来た着物の女性の幽霊とは…」

クツパ「次回を待ってるのだ！」

第12話：勃発、幽霊騒動！！ 後編（前書き）

スネーク「ユートピアのリクエスト後編だ」

ネス「どうなるのやら」

リンク「始まります」

第12話：勃発、幽霊騒動！！ 後編

椛フォーゼES「ああもう！どこにいるのよ！」

フォーゼES「落ち着いてください椛さん！」

幽霊を探すが見つかる訳がなく椛は段々苛立ちフォーゼエレキステイツになりビリーザロッドを持つが同じく変身したマロのフォーゼESに止められる。

空「しっかし幽霊いないな」

銀時「ばっ、ばっきゃろう、ゆっ、幽霊なんていねえよ」

Zウルトラマン「震えてるぞ」

頭を掻く空の隣で銀時は震えながら怒鳴り、Zウルトラマンになってウルトラ透視光線で周りを見ながらソロは指摘する。

そのまま椛は変身したまま探し歩くが見つからない。

新八「どうします？もう時間的にも…」

ネプギア「確かにこのままいると…」

かがみ「そうよね…そろそろ…」

椛フォーゼドライバー「スパイク・オン、ウインチ・オン」

権フォーゼES「何？」

新八&ネプギア&かがみ「何でもないです」

今日は帰ろうと言う3人の意見を権フォーゼESはスパイク、ウインチを装備しビリーザロッドで脅し、そのまま搜索が続行させられる。

チルノ「大体の所は調べたよ」

こなた「調べてないのは屋上だね」

ネプテューヌ「それじゃあ行く？」

権フォーゼES「行くわ」

大体の所を調べ終わった後にチルノが言った後にこなたが言い、ネプテューヌの問いに権フォーゼESは即答した後に一同は屋上に向かう。

銀時「ん？誰かいるぞ」

フォーゼES「聞いて見ます？」

新八「ですね…あの…」

屋上に着くと生徒が居て、新八が話しをしようと近付くと生徒はゾディアーツスイッチを取り出して押しカメレオンゾディアーツになり、更にダミーメモリを取り出す。

Zウルトラマン「大体分かった。カメレオンの特性で隠れ、ダミーメモリの能力で幽霊に化けたって事か」

椛フォーゼES「そう言う事ね…楓を驚かせた罪は高いわよ」

それを見て大体見当が付いて言うZウルトラマンの隣で椛フォーゼESがウインチでカメレオンゾディアーツを縛り。ビリーザロッドで電流を流しスパイクで何度も蹴る。

椛フォーゼドライバー「チェーンソー・オン」

チェーンソーモジュールを出して斬る。

フォーゼES「椛さん！離れてください！」

フォーゼドライバー「ドリル・オン」

頃合いと感じ取り、フォーゼESがそう言つとジャンプしてドリルモジュールを装着した後にその先をカメレオンゾディアーツに向けてレバーを引く。

フォーゼドライバー「エレキ・ドリル・リミットブレイク！！」

フォーゼES「ライダー電光ドリルキック！！」

椛フォーゼESが離れた後に電撃を纏ったドリルがカメレオンゾディアーツを貫く。

その後にZウルトラマンが飛んで来たダミーメモリを掴むと握り潰す。

そしてフォーゼESもゾディアーツスイッチをOFFにする。

マリオ「おお、もう終わってたのか」

ジーノ「らしいね」

こなた「遅かったですな」

そこにマリオとジーノが来て、こなたが言う。

マリオ「ちよつとな、その奴にメモリとスイッチを渡した奴を探してたんだよ」

ジーノ「逃げられたけどね」

肩を竦める2人を尻目に椀は変身を解いた後にポキポキを鳴らす。

椀「さて、楓を怖がらせた罪…払って貰うわよ」

その後、生徒は椀にボコられ、楓にボロボロな顔で謝ったのであった。

第12話：勃発、幽霊騒動！！ 後編（後書き）

リュカ「と言う訳でユートピアさんのリクエスト話でした。」

リンク「いや〜凄かったですね」

ネス「ホントだね」

クツパ「次回を待ってるのだ！」

第13話：猫猫猫猫…（前書き）

フォックス「なめ猫からのリクエスト話だ！」

スネーク「タイトル通り猫日常だな」

ネス「だね」

第13話：猫猫猫猫…

マリオ「今日は冷えるな」

ルイーダ「そうだね」

教室に入ってさっきまでの外の寒さにマリオとルイーダは話していると女子が集まっているのに気づく。

マリオ「何してるんだ？」

ピーチ「あっ、マリオ見てみて！猫よ猫！」

近寄って聞くマリオにピーチが気づいてそう言う。

覗いていると1匹の猫がミルクを飲んでいた。

ルイーダ「どうしたんですかこの猫？」

こなた「いや、ネプテューヌが寒がっていたこの子を連れて来たんだよ」

ネプテューヌ「凍えてたしあんな所で置いとく訳に行かなかったんだよね」

同じく覗き込んだルイーダの問いにこなたが答え、ネプテューヌが頭を掻いてると…

ソロ「うい…さみい…」

かがみ「あつ、ソロ…ってなんじゃそりゃあ!？」

続けて入って来たソロの姿にかがみは叫ぶ。

今のソロの姿は仮面ライダーゼロイド・ゼロ・グレンフォームになって沢山の防寒着を身に纏っていて…その上に沢山の猫が張り付いていた。

隣で空とチルノが苦笑していた。

かがみ「何その重武装!?!」

ZゼロGF「寒いんだよ!?!めっちゃ寒いんだよ!?!」

空「ソロは寒さに弱いんだよな」

チルノ「冬の際はコタツに入ってるよね」

カイト「どんだけ弱いのだ」

ZゼロGF「親父も寒さに弱いから遺伝かね?」

ミリア「そうなんだ」

光の国

セブン「くしゅん!」

ウルトラマン」「どうしたセブン？」

メビウス「風邪ですか？」

セブン「いや、ゼロに噂された気がしてな……」

タロウ「あつちでは冷えてるからゼロにはきついですね」

セブン「あいつは俺と似てるのか、寒いには慣れてないからな」

戻って超次元学園

かがみ「ってかその猫達どうしたの？」

チルノ「歩いてる途中でグレンフォームの熱さに引かれたみたいでさ」

カイト「確かに……ってか凄く暑くないか？」

ZゼロGF「俺にはこれが丁度良いんだよ……」

かがみの問いにチルノがそう言い、カイトは本人に聞くとそう返される。

その数分後……

こなた「いや〜凄い光景だね〜」

さつきより倍の猫に埋もれてるZゼロGFを見てこなたはそう言う。

かがみ「それよりもどうするのこの猫の大群？」

ZゼロGF「なんとかしてくれ」

空「そうだよな……」

チルノ「変身を解くのは…無理か」

銀時「いや、暖房器具を入れて貰えよ」

フォックス「だよな」

その後、ソロは暖房器具を入れて貰って寒くなくなった。

ソロ「はあ…マシになった…」

かがみ「けど、まだくっ付かれてるわね」

変身を解いて安堵の息を吐くソロを見ながらかがみはそう言う。

未だにソロは猫に包まれていた。

こなた「いや〜懐かれていますな〜」

ソロ「幻想卿でもマヨヒガで良く猫にくっ付かっていたな…」

カイト「そうなんだ」

ミリア「けど、この猫ちゃん達どうする？」

マリオ「そうだな…飼い猫も混ざってるし、それ等も送り届けて後は…そうだな…此処で預かって育てるか…」

困った顔をするミリアにマリオはそう言う。

その後、手分けして飼い猫を飼い主に渡して行き…他の猫は学園で預かって育てるのであった。

第13話：猫猫猫猫…（後書き）

リユカ「と言う訳でなめ猫さんのリクエスト話でした！」

フォックス「ホントに寒がりだなソロは…」

ソロ「うっせえ…」

クツパ「次回を待ってるのだ！」

第14話：トリック・オア・トリート（前書き）

ルイージ「今回はリクエスト話じゃなくて季節話です」

フォックス「リクエストは次回やるからちょっと待っててくれよ」

ネス「スタート」

第14話：トリック・オア・トリート

チルノ&レヴィ「トリック・オア・トリート」

ネス「お菓子くれないと、PKスターストーム当てるよ」

ルイージ「ちょ！物騒な始まり方しないで！！」

ブリザード・プリンセスの服を着たチルノと大きくなる前のチルノの服を着たレヴィの後の吸血鬼なネスの言葉にルイージがツツコミを入れる。

ちなみにルイージはお菓子をあげる側なので仮装していない。

レティ「はい、2人共」

チルノ&レヴィ「うわ〜い」

お菓子を渡すレティにチルノとレヴィは喜ぶ。

後ろで同じ様にお姫様な大妖精が微笑んでいる。

チルノ「そんじゃあお菓子を沢山貰いに行くぞ！」

レヴィ「負けないぞ！」

大妖精「あつ、待ってよ2人共！」

そう言うと3人は駆け出す。

その後を同じ様にコスプレした早苗と文、白蓮が後を追う。

空「美味しいな」

ソロ「そうだな」

お菓子を食べる吸血鬼コースの空にウルトラ警備隊の隊員服を着たソロが同意する。

ソロ自体ZAPの隊員服を着てるので隊員服を変えただけじゃ…とジャンヌは心の中で呟いた。

ピーチ「はいパンプキンケーキ出来たわよ」

そこにピーチとパンプキンケーキの乗った台を押してマリオとクッパが来る。

ちなみに内のピーチはケーキとお菓子以外の料理は見た目は良いが味は全然ダメで、彼女の手作りをマリオやマリオと同じ位胃が丈夫じゃないと倒れてしまう程の××料理人なのだ。

明久「それにしてもデカイね」

ピーチ「そりゃあ大人数ですもの」

目の前のパンプキンケーキを見て冷や汗を掻く明久にピーチは笑ってそう言う。

その後、パンプキンケーキに食べてメンバーはハロウィンを過ごし

たのであった。

第14話：トリック・オア・トリート（後書き）

マリオ「と言う訳でハロウィン話だな」

ルイージ「そうだね」

フォックス「ピーチ姫の料理が出なくて良かったな」

ネス「だね〜」

クッパ「次回を待っているのだ！」

第15話：宇宙の振り子とアスレチック（前書き）

スネーク「真王からのリクエスト話だ」

フォックス「アスレチックか…」

ネス「だね」

第15話：宇宙の振り子とアスレチック

マリオ「此処が真王理事長の言っていたアスレチックか…」

空「凄いな…」

ソニック「やりがいがあるな！」

目の前のアスレチックを見て言うマリオの隣で空が眩き、ソニックはワクワクした顔で言う。

真王からの情報で宇宙に時計の振子を足場にしたアスレチックがあるとの事でマリオはソニック、空、ソロ、チルノ、カービィ、ジーノ、マロと共にそのアスレチックに来たのだ。

マリオ「それじゃあ早速行くか」

空「おう！」

ソロ「頂上に何があるんだろうな」

カービィ「レッツゴー！」

チルノ「お〜」

マリオの言葉の後に一行はアスレチックに挑戦した。

空「よっ！」

ソニック「ほっ！」

左右に動く振り子にメンバーは順番にタイミング良く渡り歩いて行く。

段差もあるがそれもクリアしてメンバーは上へと進んで行く。

チルノ「とうちゃく〜く！」

カービィ「最後の所まで来たね」

元気良くチルノが行った後にカービィがそう言う。

ジーノ「結構広いね…」

マロ「そうですね…」

周りを見てそう呟くジーノにマロが同意した時…

ジリリリリリリリリリリ！！

一同「！」

突如目覚まし時計の鐘の音が鳴り響き、マリオ達が驚く。

????「マリオダ！」

????2「マリオダ！」

マリオ「！この声は！」

マロ「ええ!？」

ジーノ「まさかこんな所にリンリンとメビウスがいるとはね…」

鐘の音が鳴り終わった後の其の声にマリオとマロは気づき、ジーノが頭を掻く。

ソロ「へっ?」

チルノ「何でミライの名前が出るの?」

マロ「あゝ実はと言うと僕達が戦った敵にいたんですよ同じ名前の敵が…」

それにソロはきょんととしてチルノは指を頬に当てて首を傾げるとマロがそう言う。

ソニック「んであの大時計と星の絵が描かれた鐘がそうか?」

数m先を見てソニックはそう言う。

すると、ソニックの見る先に大きな目覚まし時計があった。

リンリン1「マリオヲタオセ!!」

リンリン2「マリオヲタオセ!!」

ジリリリリリリリリリリリリ!!

音と共にリンリン1が光ると上から大きい黒い星が落ちて来る。

マリオ「散開!!」

その言葉と共に全員が散らばる。

マロ「危なかったですね」

ソロ「そうだな」

ソニック「ああ言うの出せるんだな」

ジーノ「皆無事か!!」

それぞれ避けた後にそう言った後にジーノが聞くと…

カービィ「キノコになってます」

空&マリオ「カカシになった」

チルノ「(ぶー)」

反対側でキノコになったカービィとカカシになった空とマリオがいて、同じ方向に避けていたチルノはそれに吹いた。

マリオ達スマハツメンバー(アーカードや銀次除く)は別の世界での状態異常や病気、洗脳や魅力を受けない様にマスターハンドから加護を受けているが自分の世界の状態異常は効くのである。

…一部、それによりアレルギーになってる者がいるが…

マリオは能力があるが自分に害がなければ本人の意思で受け入れられるのだ。

ジーノ「あー…それリンリンのでなったね」

ソロ「回復アイテムは…ないな」

マロ「空がいるから魔力回復のエーテルともしもの為の復活ドリンクしかないですね」

ジーノ「ピーチ姫なら良いけど…」

状況を理解したジーノは頭を掻き、ソロは持って来たアイテム入れを見て言い、もしもの回復で空がするのでその為のエーテルと復活ドリンクしか持って来なかったのだ。

マリオ「だがこの状態でも技は出せる!!」

空「成る程!!」

ソロ「それじゃあ一気に決めろぜ!!」

マリオの言葉に空が納得した後にソロはライドブッカーを取り出しガンモードにする。

マリオ「ウルトラファイア!!」

空「燃える!!」

マロ「カミナリドツカン!!」

ジーノ「ジーノブラスト!」

チルノ「氷龍符!アイシクルドラゴン!!」

ソニック「てやっ!」

カービィ以外のマリオ、空、マロ、ジーノ、チルノが必殺技を放った後にソニックが縦一閃に切り裂くとリンリンとメビウスは消滅する。

マリオ「ふう」

空「やったな!」

カービィ「やっと戻った」

3人が元に戻った後に空はリンリン&メビウスがいた場所に時計の針があるのを見つけ、それを拾う

空「これは戦利品でもって行くか」

ゲキリュウケン「だな」

その後、メンバーは学園に戻ったのであった。

第15話：宇宙の振り子とアスレチック（後書き）

リュカ「と言う訳で真王さんのリクエスト話でした！」

ネス「時計の振り子だけに時計つながりでか〜」

クツパ「さて、次はどうなるのやら」

ワリオ「次回を待ってるよ!~!」

第16話：暴走のジャッジ（前書き）

フォックス「龍の骨からのリクエスト話だ！」

スネーク「今回は上のを止める話だな」

クツパ「後、亀鳥虎龍からのゲストも出るのだ！」

ワリオ「と言う訳で始まるぞ」

第16話：暴走のジャッジ

マリオ「こつちだ！爆音はこつちからするぞ！」

ルイーダ「いきなりすぎるよね！」

ネオス「ホントですね」

逃げる人々の間を走りながらマリオ達は爆発の起こる場所へ向かっていた。

謎のアーマーを纏った何者かが街で暴走していると聞いて真王の指示の元、マリオ達は街に出たのだ。

すると、リュウケンダーとゼロイドは走っていて、自分と同じ方向に走っているセイタに気づく。

リュウケンダー「セイタ！」

ゼロイド「お前も来ていたのか！」

セイタ「えっ？ソロさんに空さん？」

話しかけられた本人は顔を向けて驚き、近寄る。

ビビ「知り合い？」

W^{ネス}「まあね〜」

W^{リュカ}「けど何で此処に？」

銀時「この先で暴れてるのと何か関係あるのか？」

セイタ「あつ、はい、それを止める為に来たんです」

ビビの問いにネスが答え、銀時の問いにセイタはそう答える。

マリオ「成る程、その途中の今、俺たちと偶然会った訳だ」

ゼロイド「んじゃあ一緒に行こうぜ」

セイタ「はい！」

セイタを入れた一同は目的の場所へ向かう。

銀時「ん？誰か戦ってるぞ？」

ネプテューヌ「ホントだ」

目的の場所に近づく中、銀時が前方を見て言い、ネプテューヌも気づく。

そして近づくとWとジョーカー、エターナル、アクセル、オーズが明らかに暴走しているジャッジと戦っていた。

W^{ネス}「ありゃあ？」

こなた「Wがもう1人いるね」

W^{リュカ}「別世界のW？」

銀時「まあ、そう言うのはあの暴走してる奴を止めるぞ」

セイタ「ちなみに名前はジャツジです」

神楽「審判あるか？」

新八「名前だからね…」

それにWの後に銀時がそう言って飛び出し、セイタが名前を言った後に神楽のボケに新八がツツコミを入れた後に銀時が一発ジャツジに入れる。

W「銀さん!？」

銀時「あっ?」

ジャツジを吹き飛ばした銀時に戦っていたWは驚いて声が漏れ、いきなり呼ばれた銀時はあっけに取られた後にジャツジは起き上がり、銀時に向かって行く。

W^{ネス}「危ないよ」

ダブルドライバー「ソニック!マリオ!!」

その言葉と音声と共に銀時の前にネスとリュカが変身したWが現れてジャツジを炎を纏ったパンチで殴り飛ばす。

ちなみに分かる様にネスとリュカの変身するWは右側が『音速のハリネズミの記憶』のソニックメモリの青色に、左側は『爆熱の勇者の記憶』のマリオメモリの赤色になった。仮面ライダーW・ソニックマリオ』になったのだ。

ジョーカー「Wがもう1人!？」

エターナル「誰だ？」

WSM^{ネス}「聞く前にあいつを倒した方が早いよ」

アクセル「そうだな」

オーズ「後で聞かせくれよ」

驚いてるジョーカーの隣でエターナルが聞き、WSMがそう言うとき、アクセルとオーズも同意した後にグラディエーターアーマーを装着したセイタがジャッジとぶつかり合う。

ソロ「おりゃあ!」

空「はっ!」

そこをソロと空が切り裂いた後にたじろくジャッジをアクセルとエターナルがそれぞれの武器で追撃し…

WSM^{リュカ}「オマケです!」

W「食らえ!」

オーズ「はっ！」

ジョーカー「おりゃあ！」

銀時「ほわたっ！」

上記の5人が攻撃してジャッジは吹き飛ばす。

ジャッジ「うう…」

吹っ飛んだジャッジは起き上がった瞬間に戦場全体に冷気が走り、ジャッジは氷の棺に閉じ込められた。

チルノ「牢獄符！『アイスプリズン』！今だよ！！」

アクセル「よし！」

エンジンブレード「エンジン！マキシマムドライブ！！」

エターナル「やらせて貰うぞ」

エターナルエッジ「ヒート！マキシマムドライブ！！」

スペルカードを構えたチルノの言葉にアクセルはエンジンブレードを、エターナルはエターナルエッジにヒートメモリを入れてそれぞれ炎の斬撃を放つ。

それを受けたジャッジは後ずさる。

ジャッジ「うぐう…」

WSM^{ネス}「んじゃあ4人同時のライダーキック行きますか」

ダブルドライバー「マリオ！マキシマムドライブ！！」

オーズ「ああ！」

オーズドライバー「スキヤニングチャージ！」

W「行くぞ！」

ジョーカー「ええ！」

ダブルドライバー&ロストドライバー「ジョーカー！マキシマムドライブ！！」

それぞれ必殺技の体制に入った後に飛び上がり、足先にエネルギーを収束させ…

WSM&オーズ&W&ジョーカー「フォースライダーキック！！」

4人のキックをジャッジはジャッジソードで防ぐが押さえきれずにダメージを受ける。

それにセイタはジャッジのアーマーの耐久力がわずかになったのを確認した後に必殺ファンクションを出す。

セイタ「必殺ファンクション！」

『アタックファンクション パワースラッシュ』

グラディウスの刃先から光の球体が出る。

セイタ「フアアアイナルブレイー……ク……!!!!!!!!!!」

叫びと共に居合い斬りをするように衝撃波を放ち、ジャツジを吹き飛ばす。

ジャツジ「うわぁ……!!!!!!!!!!」

それを受けたジャツジは吹き飛ぶ途中でアーマーは砕け、一人の少年、灰原ユウヤへと戻ると共に倒れる。

空「よし」

ソロ「んじゃあ聞く為に連れて行くか……」

空とソロがユウヤへ近寄ろうとするがその途中でデクーエースのアーマーを装着をした少女が現れ、ユウヤを抱え、煙幕を出すところかへ去って行く。

ソロ「くそ」

空「連れて行かれちゃったな……」

それに空とソロは消えた場所を見て言う。

銀時「んで？お前等何？俺知らないよ？」

終わった後に銀時がWを見て聞く。

それにW達は変身を解く。

アクセルは浜面、エターナルは一方通行、オーズは士郎、ジョーカ―は御坂、Wは上条に戻ると離れた場所からユーノとアंकが現れる。

銀時「えっ？何でユーノ？」

ネス「つまり、Wの右側はユーノさんでしょ？」

ユーノ「うん、そうだよ」

アंक「たくつ、いきなり知らない場所に飛ばされたと思ったらいきなり戦いとはな……」

頷くユーノの後にアंकがぼやくと上条達を世界の壁が包み込んで元の世界に戻す。

銀時「色々と…変わった奴等だったな」

そう言った後にセイタと別れ、空達は学園に戻ったのであった。

第16話：暴走のジャッジ（後書き）

リユカ「と言う訳で龍の骨のリクエスト話でした」

スネーク「チルノはチルノで新しいスペルカード作ってるな」

フォックス「だな」

クツパ「次回を待っているのだ！

第17話：椀のはらはら料理&ルイージの特別指導（前書き）

スネーク「ユートピアのリクエスト話だ」

フォックス「椀…絶対な…」

ネス「タイトルにね」

第17話：椛のはらはら料理&ルイーダの特別指導

椛「あんだ達、手伝いなさい」

いきなり、椛が入って来て、その場にいたルイーダ、ネプテューヌ、ネプギア、銀時、新八、カイト、ミア、マロ、ジーノにそう言う。

銀時「んで、何手伝えって言うんだよ」

断れば脅して来るのが目に見えてるので諦めて銀時が代表で聞く。

椛「料理よ」

カイト「料理？」

椛の言った事にカイトが呟いた後椛は理由を言う。

どうやら楓には内緒で料理を作り、驚かそうと考え、今いるメンバーを巻き込んだ様である。

そんな訳で料理を作る事になったのだが…

椛フォーゼES「さてやるわよ」

ツッコミメンバー「待て待て待て…!!」

変身した椛フォーゼESにツッコミメンバーは停止をかける。

椛フォーゼES「何よ？」

銀時「何よ？じゃねえよ！何でライダーに変身してやるの！？」

新八「普通にいらぬよね！？ってかライダーの力使い所間違ってるだろ！今の所！」

カイト「普通に料理出来ないのか！」

椀フォーゼES「うるさいわね…」

銀時、新八、カイトの猛烈ツツコミに椀フォーゼESは耳を押さえる。

ミリア「と言うか何を作るの？」

ネプテューヌ「それを聞かないと手伝えないよ」

マロ「ミリアさんとネプテューヌさんの言う通りですよ」

冷や汗掻いて聞くミリアとネプテューヌに椀フォーゼESはそうね…と呟いた後に考え…

椀フォーゼES「無難にハンバーグにしようかしら」

ジーノ「成る程…確かに無難だね」

ネプギア「（大丈夫かな？…）」

椀フォーゼESの言葉にジーノは頷いた後にネプギアは不安がり…それは当たった。

椛フォーゼドライバー「チェーンソー・オン」

椛フォーゼES「はっ！」

銀時「その為かあああ!!！」

新八「包丁だる使うのは!!！」

具材を切るのにフォーゼのチェーンソーを使おうとするし…

椛フォーゼドライバー「スパイク・オン」

椛フォーゼES「えい!!！」

マロ「それ潰すであってハンバーグは練るですよ!!！」

ネプギア「それじゃあハンバーグじゃなくて普通に肉潰しですよ!!！」

潰すのはスパイクでしてマロとネプギアがツツコミを入れる。

椛フォーゼES「さあ、焼くわよ」

カイト「待て待て待て！ビリーザロッドで焼くな!!！」

銀時「と言うかそれなら別のスイッチじゃね?」

ジーノ「言ってる場合じゃないよ」

ビリーザロッドを使って焼こうとする椛フォーゼESにカイトがツ

ツコミ、銀時がそう言ってジーノがツツコミを入れる。

新八「ホント…楓さんの事だと全開ですよ」

椀フォーゼES「そりゃあそうでしょ楓はね…」

ルイージ&新八以外のメンバー「（新八（さん）のばか…）」

新八「（すいません）」

新八の言葉に椀フォーゼESは椀の楓の自慢話を言い出し、それにルイージを除いたメンバーが新八を見て、新八は謝った後にルイージが一言も喋ってないのに気づき…

新八「どうしましたルイージさ!?!」

話し掛けようとして顔を見て青ざめる。

それに椀以外のメンバーも顔を見て…後悔した。

鬼ルイージ「……………」

形相が鬼の様になっていた。

銀時「（いやあああああああ!!!顔が屁怒紹さんの様にこえええええええ!!!）」

ジーノ「（そう言えば、ルイージは料理を愚弄する様な行為をする
とブチ切れしちゃうの忘れてた…）」

ネプテューヌ「（確かにあれ等はね；）」

銀時は悲鳴を上げ、ジーノは冷や汗を掻き、ネプテューヌは怒っても仕方ないと頷く。

鬼ルイージ「椀ちゃん…」

椀フォーゼES「何よ？」

恐れる中、鬼ルイージは椀フォーゼESに話しかけ、椀フォーゼESは喋ってる途中で止められたので不機嫌な口調で返すが鬼ルイージの顔を見て後ずさる。

鬼ルイージ「ちょっと…O H A N A S H Iしようか？」

その後、椀の悲鳴が響いた。

後日

楓「あつ、美味しいねこのハンバーグ」

椀「でしょ？一生懸命頑張ったのよ」

ハンバーグを食べてそう言う楓に椀は胸を張る。

だが、次の楓の言葉に…

楓「どうやったの？」

椀は振るえ…

椛「すみませんすみませんすみませんすみませんすみません、真面目にしますので許して…」

楓「どうしたの椛!？」

目を虚ろにして壊れたレコードの様に連続で謝った後にそう言い、楓は驚く。

あの場にいたルイージ以外のメンバーは冷や汗を掻き…

ジーノとマロを除いたメンバー「(絶対料理でルイージを怒らせない様にしよう・:))」

そう誓ったのであった。

第17話：椀のはらはら料理&ルイージの特別指導（後書き）

リュカ「と言う訳でユートピアさんのリクエスト話でした。」

フォックス「椀…ご愁傷様だな」

マリオ「ルイージは料理にうるさいからな」

クッパ「うるさい以上なのだ。」

ネス「次回を待ってね」

第18話：森のキノコにご用心（前書き）

フォックス「なめ猫からのリクエスト話だ」

マリオ「キノコ狩りだー!!」

ルイージ「兄さん興奮しすぎ」

クッパ「やれやれ、始まるのだー!!」

第18話：森のキノコにご用心

マリオ「~~~~」

かがみ「凄くご機嫌ね」

こなた「そりゃあかがみ、今日はキノコ狩りだからね」

鼻歌歌つてご機嫌なマリオにかがみはそう言い、こなたがマリオがご機嫌な理由を言う。

今日は学園行事でキノコ狩り。

場所はマリオがよく行くハナチャンの森なんだが、伝説のマツタケがそこに生えたとの情報が入ったが本当かはこの目で見ないと分からない。

ソロ「どういうキノコなのかワクワクするな」

空「そうだな」

チルノ「楽しみ楽しみ」

3人が話した後にローズタウンにちょっと寄り道（主にジーノがトイドーに会う為）した後ハナチャンの森へ着いた。

マリオ「さあ〜てキノコを取りに行くか」

明久「待つてください先生」

笑顔で先に入ったマリオを追いかけて明久とムッツリーニは追う。

銀時「ホントにキノコに目がないな……」

ルイージ「まあ、キノコ見つけたら僕に聞いてよ」

ネプテューヌ「分かった」

そんなマリオの後姿に呆れた口調で言う銀時に苦笑したルイージは
そう言い、ネプテューヌが答えた後にそれぞれキノコを探しに行く。

ネプギア「ルイージさん、これはどうですか？」

ルイージ「それは……フラワーキノコだね。毒じゃないから大丈夫だ
よ」

ネプギア「へ」

新八「ルイージさん、これはどうですか？」

ルイージ「……バリバリキノコだね。これも大丈夫だよ」

新八「変わった名前ですね」

ほとんど見た目は同じキノコだがルイージは良く見て指摘して説明
して行く。

神楽「ルイージ、これ食べれるアルか（モグモグ）」

神楽「あひゃひゃうっさいあひゃひゃひゃこれあひゃひゃ食べるア
ル」

アイエフ「うぐっ!？」

慌てるコンパの隣で呆れた顔で言うアイエフに神楽は自分が食べた
ワライダケを食わせる。

アイエフ「何すんのよあはははははははははは!！」

コンパ「あわわ…アイちゃん:」

なのは「なんとかならないんですか？」

怒りながら笑い出すアイエフにコンパは慌てて、なのはが聞く。

ドクター「大丈夫大丈夫、この薬草を飲みたまえ、キノコの毒を解
毒するから」

神楽「助かったアル:にがつ!？」

フェイト「苦すぎませんこれ!？」

ドクター「カプセルにしようと思ったけど…どうもその薬草はその
ままじゃないと効果が薄いんだよ:」

ギルシア「そりゃあ苦い物が苦手な奴には苦痛だな」

ルイージの代わりに答えたドクターが取り出した薬草を食べて叫ぶ

神楽とフェイトにドクターは頭を掻き、ギルシアはそう言う。

アイエフ「あー…苦かった…ん？」

苦さに顔を顰めていたアイエフは歩いていてあるキノコに気づく。

アイエフ「これって…マツタケ？ラッキー　口直しに良いわね」

そうやってアイエフは来る前に支給で渡されたキノコを焼く為の網付きコンロを出すと付いていた土を取った後に焼く。

コンパ「あれ？アイちゃんそれってマツタケですか？」

アイエフ「そうよ、さっきの口直しにつてね　そろそろ良いかな？」

コンパの問いにアイエフは上機嫌で答えた後に醤油で味付けした後にコンロを止めて、ふーふーした後一口齧る。

アイエフ「うん、美味しい！！」

ドクン！

アイエフ「うっ！？」

舌包み打ってアイエフがそう言った瞬間、突如アイエフの体にシヨツクが走る。

コンパ「アイちゃん！？」

ルイージ「どうしたの！？」

胸を掴んで呻くアイエフに驚くコンパにルイージが駆け付けて聞く。

コンパ「それが…アイちゃんがマツタケを食べたら急に…」

ルイージ「マツタケを食べて…?」

コンパの言葉にルイージはアイエフが食べていたマツタケを注意深く見る。

そして驚く。

ルイージ「これは…マツタケじゃない!毒キノコだ!」

コンパ「ええ!?!」

ピット「危ない!」

叫んだルイージの言葉にコンパが目を開いた後にピットが2人の前
に出て鏡の盾を構えて、アイエフの攻撃を防ぐ。

アイエフ「うがあああああ!」

銀時「おいおいおい!いきなりどうしたんだアイエフの奴!?!」

ルイージ「ヤジユウダケを食べたんだよ」

狼の耳と尻尾が出て野獣の様に吼えるアイエフに銀時は驚き、ルイージが苦い顔で言う。

ノワール「何？そのヤジユウダケって？」

ドクター「聞いた話によると、人を凶暴な動物に豹変させてしまう恐ろしい毒キノコだよ…マツタケに良く似てるが注意深く見ると野獣の様な絵があるのが特徴だよ…しかし、あれの出来る場所は猛獣が出る場所であってハナチヤンの森…と言うかマリオワールドでは生息してない筈なのだが…」

コンパ「あわわ、そんな毒キノコがあるんですか？」

ルイージ「けれどドクターの言う通り、僕達の世界にあるのはありえないし、アイエフちゃんのような耳や尻尾が生えるなんてありえないんだよ」

アイエフ「うがあああああ！！！」

ドクターの説明にコンパは驚き、ルイージがそう補足するとアイエフは吼えた後に光り輝く。

ベール「これは！？？」

ヨッシー「変身！」

ピット「変身！」

デイケイドライバー「カメンライド！」

フォーゼドライバー「3、2、1…」

マロ「変身！」

ディケイドライダー「ディケイド！」

その光にベールが驚いた後にピットと擬人化したヨッシーとマロがそれぞれ、ピットは仮面ライダーディケイド、ヨッシーは仮面ライダー龍騎、マロはフォーゼに変身する。

フォーゼ「宇宙キターーーー！！！」

龍騎「仮面ライダー龍騎！アドベント！」

ディケイド「さて、行きますか」

3人を先頭に警戒すると光が晴れると…

アイエフ「ぐるるるるるー！」

銀髪となり、野獣をイメージするレオタードを纏ったネプテューヌ達が女神化した際に装着するのと同じプロセスを纏ったアイエフがいた。

スネーク「あれはアイエフか？」

チルノ「と言うかあれってネプテューヌ達が女神化した時に装着してるのだよね？」

銀時「おいおい、どう言う事だ？」

ネプテューヌ「アイちゃんが女神化した！？」

その様子にメンバーは驚きを隠せないが…

アイエフ「がうっ！」

龍騎「くっ！」

ドラグバイザー「ガードベント」

駆け出してくるアイエフを龍騎はドラグシールドで防ぐ

フォーゼドライバー「ウインチ！ウインチ・オン」

フォーゼ「この！」

デイケイドライバー「アタックライド！バインド！」

デイケイド「はっ！」

アイエフ「ぐっ！」

すかさずフォーゼはウインチモジュール、デイケイドはライドブッカーGMから放った光の鎖でアイエフの動きを止める。

アイエフ「ぐるあああああ！！！」

ルイージ「コンパちゃん！早く薬草を！」

コンパ「はい！これ食べてアイちゃん！」

なんとか拘束を解こうと身動きするアイエフにルイージがそう言い、

コンパは薬草を持ってアイエフの口の中へ入れる。

アイエフ「キャイン!?!」

コンパ「苦いですけど我慢してください!」

暴れるアイエフにコンパはそう言ってなんとか飲み込ませると…

アイエフ「あつ、あれ?」

野獣の様な感じに暴れていたアイエフはきょとんとした顔で周りを見る。

コンパ「アイちゃん戻ったんですね!」

アイエフ「あれ?コンパ…って何コレ!?!」

拘束を解かれたアイエフにコンパは抱き付き、本人はコンパを見た後に自分の体を見て驚く。

マリオ「どうした!?!」

明久「騒がしいけど何があったの?」

そこに大量のキノコを抱えたマリオと明久、ムツツリーニが来る。

ルイージ「ビーストハート?」

イストワール「はい、アイエフさんがなった姿と野獣で調べて見たら見つかりました」

マリオ「ビースト・ザ・ハード以外に野獣の女神がいたとはな…」

学園に戻った後にキノコ焼き祭りをしている間、ルイージとマリオはイストワールにアイエフの女神化した姿を聞いていた。

イストワール「調べた所、野獣だけが生息する世界に降臨していた女神でその世界に侵略して来た者と戦い続け、最後に自分の持てる力の全てを使い、その世界が侵略されない結界を作り、滅びた様です」

マリオ「セレナのヴォルフレイムハートと似た感じか…」

イストワールの説明にマリオは顎を摩ってそう言う。

ルイージ「けど…何でヤジユウダケにその女神の力が…」

イストワール「アイエフさんが食べたヤジユウダケを調べるとどうもさつき行つた世界に群生していたものでマリオさん達の世界にどう行つたのかはまだ調べてる途中です」

マリオ「全ての力を使って結界を作る際にその力の1部がヤジユウダケに入ったんだろうか…それとも自分の後継者を作るために注いだか…真相はその女神様だけが知るだな」

腕を組むルイージにイストワールは困った顔をし、マリオは推測を言つて頭を掻く。

その後、マリオ達もキノコ焼き祭りに参加したのであった。

第18話：森のキノコにご用心（後書き）

リユカ「と言う訳でなめ猫さんのリクエスト話でした」

スネーク「何かほのぼのの筈が微妙にシリアスは言ったな」

なぜかこうなってしまった；

フォックス「しかも出てきたキノコがマリオRPGの以外にカービイのマンガに出たのを微妙に変えたのだな」

リンク「特にヤジユウダケですね」

ネス「次回を待ってね」

第19話：始動！グレートマリオマンX！（前書き）

スネーク「真王からのリクエスト話だ」

フォックス「これはな…」

ネス「驚きだよね」

第19話：始動！グレートマリオマンX！

銀時「んで、見てもらいたいもんってなんだよ？」

タバネ、ドーンが見てもらいたいものがあるから校庭に来てほしいと言われ、集まったメンバーを代表して銀時が言う。

タバネ「うふふ、良く見て置いてね！」

ドーン「とくと見るのであーる！！」

タバネとドーンがメンバーを前に言った後に2人同時にポチツとなつと取り出したスイッチを押すと目の前の地面が左右に開き…

ルイーダ「はいつ！？」

リンク「ウエツ！？（owo）」

ピット「マジですか」

現れたのにメンバーは驚く。

タバネ「これど！私たちが作ったロボ！」

ドーン「グレートマリオマンX！であーる！！」

それを前にタバネとドーンは自信満々に言う。

マリオ「すっごいな…」

銀時「ってか、良いのか？こんな理事長に言わずに作って？」

真王「その心配は無用だ」

感嘆の声をあげるマリオの隣で銀時が見上げながらそう聞くと真王がやって来て言う。

ネプテューヌ「理事長」

ルイーダ「どう言う事ですか？」

真王「俺が頼んだんだ。学園には守護神的な奴がいるだろう？だからタバネとドーンに頼んでな」

空「んで、何でマリオをモチーフにしたんだ？」

ルイーダの問いに真王が答えた後に空が聞く。

真王「それは…マリオ好きだし」

マリオ「なんか照れるな」

その言葉にマリオは頭を掻く。

ドーン「では詳細を言うのであーる！最初は頭のマリオマンヘッド！コクピットであーる。入口は口から転送ワープで入れるのであーる。帽子をとると髪の毛まで表現されているが、無くなれば力が無くなるであーる」

マリオ「そこまで再現されてるんだな。」

タバネ「次は胸のマリオマンボディ！パーツそれぞれに超合金で構成してて、炎系耐性や防水加工も完ぺきなんだよ。」

スネーク「ほ。」

ドーン「腕のマリオマンアームのグローブは超硬いクリスタル製！手のひらから炎が出せるようになり、得意のファイヤーボールも出せるのである！」

ソロ「凄いな！」

タバネ「次は足のマリオマンフット！総重量100トン以上にも関わらず高いジャンプが出来るんだよ。ちなみにジャンプ後に地震が発生しないように工夫がしてるよ。ちなみにブーツもクリスタル製だよ。」

新八「どう言う工夫なんですか？」

ドーン「そこは秘密である！最後のマリオマンマントは文字通りマントである。素材はマリオが使用しているマントを大きくさせた感じなのである！ウルトラマンの様に飛行が可能である！」

チルノ「空も飛べるんだ。」

レヴィ「おお！凄いぞ！強いぞ！かつこいいぞ！」

タバネとドーンの説明にそれぞれ関心の声を上げた時…

ドドドドーン!!

圭「うわっ!?!」

レナ「何々!?!」

かがみ「あそこ!」

いきなりの攻撃に全員が驚くと気づいたかがみが上を指す。

すると、空からナツクル星人とブラックキングが降りて来た。

銀時「おいおい、いきなりだな!」

ソロ「此処は俺が!」

マリオ「…理事長、グレートマリオマンXは始動できるか?」

真王「…ぶつつけ本番になるが始動出来る」

それを見て銀時が叫び、ソロが出ようとしてマリオが止めて真王に聞くとそう返す。

マリオ「ならば俺が乗ろう」

真王「よし!グレートマリオマンX!始動!」

タバネ&ドーン「了解(である)!!」

マリオの言葉に真王はそう指示して2人は答えた後に別のスイッチ

を取り出して押すとグレートマリオマンXの目が輝いた後に口から転送ワープが出て、タバネとドーンからマニュアルを貰ったマリオはそれに包まれてコックピットへ乗り込む

マリオ「んじゃあ行こうぜ！グレートマリオマンX！」

一通り読んだ後にそう言うと同時にグレートマリオマンXは駆け出す。

ナックル星人「何だあれは！？」

マリオ「マントアタック！」

ナックル星人「ぐおっ！？」

驚くナックル星人にグレートマリオマンXはマリオマンマントを使つてのマントアタックを炸裂させる。

マリオ「続いてマリオマンアップー！」

ナックル星人「ぐあっ！！」

続けざまに昇竜拳なマリオマンアップーでナックル星人を浮かび上げらせるとデフォルトでコインが出る。

ルイージ「そこも細かくしてるのね。」

ドーン「当然である」

それにルイージは冷や汗を掻き、ドーンは胸を張る。

マリオ「今度はお前だ！マリオマンスマッシュュ！！」

続いて来たブラックキングにスマブラの横スマッシュのグレートマリオマンXバージョンのマリオマンスマッシュを叩き込む。

後ずさったブラックキングは口からヘルマグマを放つが…

マリオ「効くか！マリオマンマント返し！」

グレートマリオマンXはマリオマンマントを外してそれによりヘルマグマをブラックキングに返す。

マリオ「んでもう1つお返しのマリオマンファイヤー！」

手に炎を集めて放つグレーとマリオマンXのマリオマンファイヤーでブラックキングを攻撃する。

ナツクル星人「調子に乗るな！！」

マリオ「悪いが調子には乗ってない！勝負は乗り過ぎない方が良くからな！」

駆け出して来るナツクル星人にマリオはそう返すとマリオトルネードのグレートマリオマンX版のマリオマントルネードで跳ね返す。

マリオ「決めるぞ！マリオマンインパクト！」

マリオマンスマッシュより最大限に溜めた後、突進して来るブラックキングのお腹に炸裂させる。

第19話：始動！グレートマリオマンX！（後書き）

リユカ「と言う訳で真王さんからのリクエスト話でした」

スネーク「色々と技を1つ除いて出したな」

フォックス「細かく考えられたからな。そこ等へんは出したいって言う作者の意地だな」

ネス「ってか、何でナツクル星人とブラックキング？」

クツパ「宇宙からの侵略者で白羽の矢が立ったそうなのだ」

ネス「なるゝ…次回を待ってね」

第20話：大演奏！ウルトラセッション！！（前書き）

スネーク「光を継ぐ者からのリクエストだ」

フォックス「演奏会らしいな」

ネス「どうなるのやら」

第20話：大演奏！ウルトラセッション！！

とある日の超次元学園

ソロ「よう光！」

光「久しぶりですソロさん」

校門前でソロと光は握手する。

その後ろで付き添いで来た一夏達が超次元学園の大きさに驚いていた。

一夏「でかつ…」

篤「ホントだな」

鈴「IS学園に負けてないわね…」

シャル「学園も凄いけど…」

セシリア「デカイ…ロボットですわね」

ラウラ「ホントだな」

他にもグレートマリオマンXに驚いていた様だ。

ソロ「なあ、どうせなら演奏会しないか？」

光「演奏会？面白そうだね。それで何を演奏するの？」

一夏達が驚いている間にソロの提案に光はそう言った後に聞くと…

早苗「どうせなら、ウルトラシリーズの歌を演奏して見てはどうでしょうか？」

ソロ&光「うわっ!？」

みよんと出て来た早苗にソロと光が驚いた後にチルノと白蓮、文、大妖精、レヴィ、空、カービィが来る。

チルノ「早苗、いきなりどこか行かないですよ」

早苗「ごめんなさいね」

一夏「ってか？ウルトラシリーズの歌って？」

ぶんぶんするチルノに早苗が謝った後に驚いていた一夏が早苗に聞く。

早苗「これを見れば分かります！」

そう言って早苗が取り出したのは…2枚のDVDであった。

第「ウルトラマン ヒットソングヒストリー？」

鈴「レジェンドヒーロー編にニューヒーロー編？」

光&ソロ「(ってかそれ何?)」

早苗「紫さんに頼んで行った世界で買ったんですよ〜」

チルノ「あたい達も見ようと思った所で光達 came たんだよね〜」

篤と鈴がそれぞれ題名を言った後、光とソロはそれに疑問詞を浮かべ、早苗がそう言い、チルノがそう言う。

その後、光達も交えて見るのであった。

一夏「色々良かったな!」

ソロ「何か…こっぱずかしいな…」

光「(別世界の僕に他のウルトラマン…他の世界でも守り抜いていた人達がいたんだな…)」

鈴「それで、するのは良いけど…楽器どうするの?」

セシリア「私はヴァイオリンは嗜みで出来ませんが…」

ラウラ「…」

数分後に見終え、一夏は興奮して言い、ソロは照れて頭を掻き、光はさっきのティガやウルトラマン、ゼロ以外のウルトラマンを思い浮かべてしみじみと呟いてる隣で根本的な事を言う鈴にセシリアはそう言い、ラウラは無言で目をそらす。

ソロ「練習すれば大丈夫だろう」

空「そうだぜ」

カービィ「それじゃあ僕が…」

空&ソロ「お前は止める」

ヒョウリュウケン「賢明な判断だな」

ゲキリュウケン&ザンリュウジン「それには同意だな」

そんなメンバーにソロと空が言い、カービィが立候補しようとして2人に止められ、ヒョウリュウケンがそう言い、空の魔弾龍、ゲキリュウケンとカービィの魔弾龍、ザンリュウジンは同意する。

その後、一夏と篤はギター、ソロはドラム、光はフルート、セシリアはヴァイオリン、ラウラと鈴はボーカルを勤め、演奏が得意な人達に教えて貰った後に演奏会が始まった。

演奏するのはウルトラマンティガの『TAKE ME HIGH
R』

銀時「やるな」

ネプテューヌ「本当だね」

その様子に銀時は感嘆の声をあげ、ネプテューヌが同意した後に演奏は終わり、大量の拍手が来た。

ソロ「そんじゃあ次のをやるか！」

光「えっ？次は何をやるの？」

ソロの言葉に光は驚いて聞く。

ソロ「今度はウルトラ系ライダーでの演奏会だ！」

マリオ「んじゃあ使えソロ！」

ソロの言葉にマリオはカードを投げ渡す。

それを受け取ったソロはテキストを読む。

ソロ「『ビックバンタイムの始まりだ』」

読み終わると共にソロの腰にゼロバツクルが装着される。

ソロ「KAMENRIDE！」

ゼロバツクル「ライダーアップ」

音声の後にソロは仮面ライダーゼロに変身する。

一夏「それって…」

篤「ウルトラマンゼロ…」

ゼロ「これは俺を元にしたウルトラ系ライダー第1号さ」

ゼロブレスレッド「ウェポンライド！ディエンドライバー！」

驚く一夏と箒にゼロはそう言つとデイエンドライダーを出した後に一枚のカードを装填する。

デイエンドライダー「カメンライド！ウルトラ6兄弟！」

音声と共にデイエンドライダーから光の三原色が出た後にそれ等は6つの姿を出すとそれぞれウルトラ系ライダーのゾフィー、ウルトラマン、セブン、ジャック、エース、タロウのウルトラ6兄弟になる。

ゼロ「光もカードを使え、お前なら変身出来る筈だ」

光「わ、分かった」

ゼロにそう言われ、光はカードを見て集中する。

光「変身」

そして言つと同時にカードが輝き、光の姿は仮面ライダーティガに変身していた。

ティガ「出来た…」

ウルトラマン「それでは演奏会をやるうじやないか」

エース「よっしゃ！熱く行こうぜ！」

ジャック「へマをするなよ」

自分の手を見るティガにウルトラマンは肩を叩いてそう言い、エー

スはギターを持って言い、ジャックが釘を刺す。

そして演奏するのは『ウルトラマン物語〜星の伝説』

それで大いに盛り上がった後、光たちは帰ったのであった。

第20話：大演奏！ウルトラセッション！！（後書き）

ネス「と言う訳で光を継ぐ者さんのリクエスト話でした」

スネーク「ウルトラマンだけにウルトラソングか」

リュカ「良かったですね」

クツパ「うむ…次回を楽しみにしてるのだ！」

第21話：秒殺の皇帝と暗黒のLBX（前書き）

スネーク「龍の骨からのリクエスト話だ」

フォックス「今回はジンと共に…」

ネス「スタート！」

第21話：秒殺の皇帝と暗黒のLBX

ジン「くっ…どこにいるんだ…」

エンペラーM3アーマーを纏う秒殺の皇帝、海道ジンは等身大の暗黒LBX『ダークネス・レイ』を捜していた。

それは殺戮兵器であり、見つけなければ大量の被害が出るのも時間の問題である。

ジン「やはり1人では難しいか…ん？あれは…」

眉を潜めてそう呟いたジンの目に入ったのは…

同時期、空達も街を歩いていた。

空「マリオもくれば良かったのにな」

ルイーダ「そうだね」

ソロ、チルノ、カービィ、チルノLOVEズとレティにレヴィ、シユテル、ロード、ソニック、明久、ムッツリーニと歩きながら空とルイーダはそう会話する。

パンツ泥棒事件があり、早苗、白蓮、文や他の生徒が恥ずかしい事になったので気分直しにと街に繰り出したのだ。

なお…マリオは…

デイケイド^{トビ} 激情態「覚悟は出来てる？」

マグナリユウガンオー^{ファルコ}「てめえら…フランとお空の下着を盗んだ事を後悔しろよ」

洛斗&恋奈「ひいいいいいいいい！！！！」

マリオ&ガノン「やれやれ」

上記2人によりさつきも真王に説教された犯人組がやらなきゃ良かったなと思う程のフルボッコをガノンと共に見ていた。

空「んでどこに行く？」

ソロ「そうだな…」

そんな事を知らないメンバーはどこに行こうかを考えてる時…

ジン「そこの人達」

そんなメンバーの前にジンが現れた。

チルノ「誰あんた？」

ジン「僕は海道ジン、セイタ君の知り合いだ」

空「セイタの？」

チルノの問いにジンは答え、空の言葉にジンは頷いた後本題を言う。

ジン「君達に頼みがあるんだ。僕と共にとある暗黒LBXを探して破壊して欲しい」

そう言うとジンは空達に自分の探しているダークネス・レイの詳細を話す。

外見は『鉄拳6』のアザゼルをモチーフにした様なLBXでどこから作られたかは不明だが、殺戮兵器という事だけは確かであり、武器は両腕についている鉤爪『ブラッディクロー』。

自動で動いている為、放っておけば街の住人の犠牲が出てしまう恐れがあるとの事でさらにダークネス・レイの必殺フアンクションであるキリング・クローブラッドはとても危険で直撃を喰らった者は、致命傷になり、その命は危うくなるとの事…

文「それはやばいですね」

白蓮「確かにほって置けないですね」

ジン「その通りだ…今は探しているんだが…」

シユテル「ならばサーチして見ましょう」

文は眉を潜め、白蓮はそう言い、ジンが同意した後にそう言うとシユテルはサーチをすると周りを調べる。

シユテル「見つけました。調べた範囲で人以外の反応があり…誰かと戦闘中です」

シュテルがサーチした場所で…

リュウセイオー「はっ！」

幽香「サトシ離れなさい！」

天子「当たるわよ！」

サトシが変身したりリュウセイオーが幽香と天子の援護の下、ダークネス・レイと戦っていた。

天子「要石！『カナメファンネル』！！！」

幽香「花符『幻想郷の開花』」

リュウセイオーが離れると共に2人はスペルカードを発動するとダークネス・レイを攻撃する。

ダークネス・レイはそれをブラッディクローで防ぐ。

幽香「なかなか甚振り易い奴ね」

天子「攻撃もサトシの攻撃の方が快感だわ！」

リュウセイオー「何言ってるんだよ2人共！」

セイリュウケン「サトシの教育によるしくないから程々にしてくれないかな！」

幽香と天子の言葉にリュウセイオーとセイリュウケンがツッコミを入れた後に周りの景色が少し変わり、変身した空達が来る。

景色が変わったのはジュネツスフォームになったネクサスがメタフイールドを展開したからだ。

リュウケンドー「サトシ！」

リュウジンオー「お前も来てたのか」

リュウセイオー「皆！」

レテイ「こんにちわ幽香」

幽香「ごきげんようレテイ、それに王様」

ロード「むう…」

レヴィ「ドMもいるのか！」

天子「ドMじゃないわ！快感を感じるのはサトシと幽香だけだからね！」

シュテル「それがドMなんですよ…」

サトシと幽香、天子に気づいたメンバーが話しかける。

ネオス「ジン君、あれが君の言っていた？」

ジン「ああ、ダークネス・レイだ」

ネクススJF「……………これで被害は出ないから全力で行くぞ」

それを尻目にネオスは目の前のダークネス・レイを見て聞き、ジンが頷き、ネクススJFがそう言うってダークネス・レイを見るとダークネス・レイの目が光だし、ブラッディクローが伸びる。

ジン「いけない！奴の必殺ファンクションが来るぞ！」

それにジンが叫んだ後にダークネス・レイは狩るようにブラッディクローを振り回すキリング・クローブラッドがメンバーを襲う。

チルノ「うひゃあ！」

レヴィ「おおっと！」

それぞれ回避するがチルノの服とレヴィのBJが少し破ける。

レティ「ちよつと悪戯過ぎるわよ」

幽香「そうね」

キリング・クローブラッドが終わった後にレティと幽香が剣と傘でダークネス・レイを吹き飛ばした後にそれぞれ先をダークネス・レイに向けスペルカードを取り出す。

幽香「合わせなさい」

レティ「そちらこそ」

そう言ってお互いに笑った後に宣言する。

幽香「元祖『マスタースパーク』」

レティ「吹雪符『ブリザードスパーク』」

その言葉の後にレティは吹雪の光線、幽香は7色の光線を放ち、それが途中で1つとなるとダークネス・レイを飲み込む。

収まった後には、機能を停止したダークネス・レイが火花をバチバチさせていた。

リュウケンドー「さっすが…」

ゼロイド「だよな」

それを見てリュウケンドーとゼロイドは代表で言う。

その後、ジンと別れたメンバーはレヴィがダークネス・レイを連れて帰りたいと言う事でマリオにより生徒で呼ばれたサトシと天子に警備員でお花係の幽香と共に空とソロが運んで学園に戻り…

レヴィ「行くぞ！僕の2番目の相棒レインと新しいフォーム！レイフォームで今度こそ勝つ！」

????『頑張れお嬢！』

チルノ「負けないぞ！」

後日、ドーンとタバネにより、どうやってやったのか分からないが

ダークネス・レイをLBXからユニゾンデバイスへと変え、名前をレインフォース（通称、レイン）に変えてユニゾンしたスプライトフォームにダークネス・レイを模した胸当てと足にアंकレットを装着して、青く染まったブラッディクローを装着したレヴィがチルノと弾幕勝負をしていた。

なお、関係ないが百合な人達が幽香に話しかけ、私はサトシ以外に友達以上の好きはないわと言った幽香によりメッタメタにされたのは些細である。

第21話：秒殺の皇帝と暗黒のLBX（後書き）

ネス「と言う訳で龍の骨さんのリクエスト話でした」

リュカ「と言うか…増えたね」

スネーク「そうだな、そしてレヴィは新しい相棒とフォームを手に入れたな」

フォックス「そうだな」

クツパ「次回を待っているのだ！」

第22話：新緑のハンター（前書き）

スネーク「ちよいとリクエストから外れて真王となめ猫の2人と同
時期長編を始めるぞ！」

ネス「リクエストは終わるまで待っててね〜」

ルイージ「それじゃあ始まります！」

第22話：新緑のハンター

平和な日々を満喫していたある日、学園に革命組織ブレイベルから宣戦布告の書状が送りつけられる。

『表では善意と自由をうたいながら、核を絶対なる力と秩序で固めている権力者とその学園に革命として宣戦布告する。理事長及び多くのハードも含め、その秩序を破壊し、貴殿達の絶対なる力と秩序によって自信と意志をなくした者達への希望を見出す。ただし、これは支配するための戦いではないことだけは伝えておく。覚悟されたし』

総長 ダッシャー・ガルネイバル』

この書状を生徒達に公表した所、カイトとミアアがダッシャーと革命組織を知っていた。彼らは、権力と力をふるって街や人々を食い物にして独裁を続けている者達や組織を倒す者達で、有名ではないがたくさんの人々を助けてきている組織だと言う。カイト達も以前両親と共に、ダッシャー達と知り合って一時期共に戦ったことがあるらしい。そのダッシャー達が、学園に対して革命を宣戦布告することが信じられず、噂を聞いてないはずがないとも言つ。そんな時、革命組織の者達がいたる場所で騒ぎを起こして来たのだが、それに乗じてデニーの傭兵団とエリート学園が合併した運命粛清軍までも悪さをしているという情報が入った。カイト達は悩みながらも、それぞれ騒ぎの阻止に向かうのであった…

……

フォレストパーク

森林で出来たパークで沢山の人で賑わっているのだが、今は革命組織により占拠され、誰もいない。

そこにルイージは、ヨッシー、カービィ、オリマー、ネス、リユカ、フォックス、ピット、オリマー、ルカリオ、スネーク、冥王、ダークエリザベス、ギル、ガノン、リンク、シュテル、ロード、マロ、ジノー、サトシ、天子、幽香に丁度ギルの様子を見に来ていた黒狼とアंक、ショカと共に来ていた。

ルイージ「まったく兄さんは…」

ダークエリザベス『あいつはホントにキノコ好きだよな…』

敵を倒しながらルイージは別の場所にキノコオオオオ！！と叫びながら向かったマリオに頭を抱え、走りながらダークエリザベスが呆れて言う。

オリマー「それにしても…我々、やっとまともな出番だよ…」

ギル「ぷっ？」

冥王「確かに私たちあんまり出てなかったもんね」

ネス「はい、事実だけどメタな発言しない」

リユカ「ネスこそ…」

思わずポツリと言うオリマーにギルは首を傾げ、冥王も同意してネスがツッコミを入れてリユカも入れる。

オーズ「それにしても、此処を占拠してる人はどこにいるんだろうね」

アंक「こつちが知りたいもんだ」

オーズTMC「かつか！」

リンク「アंक、あんまり火を飛ばすなよ、此処だとあつと言う間に火事になりかねないからな」

オーズに変身した黒狼はトラクローを振るってそう呟き、アंकは炎を纏ったパンチで吹き飛ばし、オーズタマシーコンボに変身したシヨカも同意する様に頷くと森の中なのか故郷と同じ口調のリンクがそう注意する。

ルカリオ「…どうやら相手から来てくれた様だぞ」

フォックス「！離れる！」

サトシがいるので擬人化しているルカリオの言葉に上を見ていたフォックスの言葉にメンバーは其の場を飛び去るといった場所に何か大量に刺さる。

ロード「何が起こったのだ!？」

天子「これ…木の枝じゃない？」

幽香「そうね…それがあなたの能力かしら」

驚くロードに天子が刺さっていた奴を抜いてそう言い、幽香が上を見て言う。

すると、メンバーの前にあつた大樹の枝に弓を手に持った草をイメージするワンピースを着たおっとりとした女性が現れた。

女性「流石は噂の方々…坂田 銀時はいないようですね…」

ピット「あなたが此処を占拠した親玉ですか？」

メンバーを見下ろして呟く女性にピットが聞く。

女性 フォレストガール「いかにも、私は革命組織のフォレストガールと申します」

ルイージ「あなたが…」

サトシ「あの！何でブレイベルのボスであるダッシャーって人はこんな事をするんですか！」

自己紹介するフォレストガールにサトシはそう聞く。

フォレストガール「そこは流石に話せませんが…私個人の目的はあなた方と戦い、自分の実力を再確認しようと革命軍に入りました」

スネーク「流石に本命は言えないよな…」

ジーノ「しかも…話し合いも無理そうだね」

フォレストガールの言葉にスネークは頭を掻き、ジーノは腕を組ん

でそう言う。

フォレストガール「では…新緑のハンターと言われた私の実力再確認の為、参らせて貰います」

静かにそう言うのと地面に降り立ち、前に手を置くと付いた所から木が出現し、出現した木から雨の様な木の枝が放される。

フォーゼ「やばい！」

フォーゼドライバー「シールド！シールド・オン」

それにフォーゼに変身したフォーゼはシールドモジュールを出現させるとしゃがんで防ぐ。

冥王はレイジングジャベリン・バーストを回して防ぐ。

他にもシュテルとロードがプロテクトを張って、数人が後ろで隠れる。

リンク「変身！！」

ブレイベックル「ターンアップ」

そしてリンクはブレイベックルから出現したオリハルコンエレメントで守った後に通り抜けてブレイドに変身してフォレストガールに斬りかかる。

それをフォレストガールは避けた後に弓を引いて矢を放つ。

ピット「弓使いはあなただけじゃないですよ！」

その放った矢をピットは神弓から放った矢で打ち落とす。

ガノン「いけ！オリマー！」

オリマー「クツパ君の真似かい！？」

フォレストガール「ぐっ！」

そこにガノンが投げたオリマーがフォレストガールのどてっばらに直撃し、その反動でオリマーはガノンの元に戻った後…

ガノン「もう1回！」

オリマー「分かってたさー！！」

ブレイラウザー「キック、サンダー、ライトニングブラスト！」

ブレイド「ウエエエエエエイ！！！」

オーズドライバー「スキヤニングチャージ！」

オーズ「せいやあああああー！！！」

フォレストガール「がはっ！」

もう1回投げられたオリマーとブレイドのライトニングブラストとオーズのタトバキックが決まり、フォレストガールは背中から地面に落ちる。

フォレストガール「くう…」

幽香「はい、そこまで」

アंक「終わりだ。流石にこの大人数じゃあ相手が悪かったな」

手を地面につけ様とするフォレストガールの腕をアंकと幽香は掴んで立ち上がらせる。

天子「見るからにあんたの能力つて手を付けた所から木を出現させる様だけど、手を捕まれたら使えないみたいね」

フォレストガール「分かりますか…完敗です。私もまだまだですね」

フォーゼ「けど、流石に1人や5人以下じゃあこっちが負けてたと思います」

シュテル「だからあなたの實力は申し分ありません」

天子の言葉にシュテルとロードにバインドをかけられたフォレストガールは苦笑した後、フォーゼとシュテルがそう評価する。

フォックス「まあ、これで此処は制覇したな」

ダークエリザベス『だな』

冥王「それじゃあ戻るの」

スネーク「もちろん、こいつも連れてな」

フォックスが纏めて、冥王とスネークの後にフォレストガールを連れて学園に戻ったのであった。

第22話：新緑のハンター（後書き）

ネス「次はマリオ達の方だよ」

リンク「どうなるんでしょうね」

ガノン「まあ、マリオがな…」

黒狼「次回を待っててください！」

第23話：幻影回遊者（前書き）

ソロ「次は俺たちの方だな」

空「だな」

チルノ「行こう！」

第23話：幻影回遊者

ルイージ達がフォレストパークで戦っている頃、マリオは空、ソロ、ドクター、クツパ、ピーチ、ファルコン・ハート、ソニック、銀次、アーカード、明久、ムッツリーニ、エリア、チルノ、ヒョウリユウケン、お空、フラン、文、白蓮、早苗、大妖精（大ちゃん）、レティ、レヴィ、誠、言葉のメンバーと共にキノコ博覧会に来ていた。

キノコ博覧会

そこには様々な次元や世界に存在するキノコが大量に展示されている建物でキノコマニアには大好評の場所のだが運命粛清軍の傭兵団により占拠されたのだ。

それにより…

マリオ「ごらあああああああああ！！！！貴重なキノコに触ろうとするなああああ！！！！」

その1人であるマリオは大変怒ってました。

誠「すつ、凄い気迫だな…」

言葉「そつ、そうですね…」

敵をばったばったとなぎ倒すマリオにあんまり喋ってない誠と言葉はちよつと引く。

ソニック「さっすがマリオだな」

ソロ「あんまり怒んないが…流石にキノコとなると変わるな」

空「ホントだよな」

ピーチ「ホントマリオはキノコ命よね」

クッパ「うむ」

レティ「あらあら」

ドクター「ホントにマリオ君は…」

スマハツメンバーはそんなマリオに苦笑して進んでいた。

タレ銀「けど、大丈夫かな…」

アーカード「そうだな…」

明久「敵側ですか？」

ムッツリーニ「……………敵側だな」

大妖精「たっ、確かにそうですね…」

エリア「あの様子じゃあ圧倒的じゃないかい？」

文「ですよね」

白蓮「マリオさん、ちゃんと手加減するんでしょうか？」

早苗「無理だと思えますよ…」

チルノ「マリオは練習以外は何でも全力だもんね」

レヴィ「うんうん」

こっちはこっちで敵を心配していた。

誠「あつ、あの有意義に話して良いんですか？」

言葉「そつ、そうですよ」

ファルコン・ハート「んじゃあ聞くが…あの様子を見てマリオがやられると思うか？」

誠と言葉の言葉（駄洒落ではない）にフランとお空に抱き付かれたファルコン・ハートがマリオを指して聞く。

それに2人は見ると…

マリオ「だりやりやりやりやりやりやりやりやりやりやりや…！！」

後ろから襲い掛かる敵もなんのその！と言う感じにマリオは簡単にあしらっていた。

誠&言葉「やられないと思えます」

ファルコン・ハート「だろ？」

お空「うにゅ」

フラン「だね」

異口同音で答えた2人にファルコン・ハートは肩を竦め、お空とフランは同意する。

そして奥に着いた。

そこには白のゴスロリを着た少女がいた。

ソロ「お前が此処を占拠したボスか？」

少女 イリユージョン・マッシュユリア「そうだよ、イリユージョン・マッシュユリアって言うんだ、よろしくね」

マリオ「ならば素直に投降してくれば手荒にしない」

ソロの問いに答えたイリユージョン・マッシュユリアにマリオはボキボキと手の骨を鳴らしながら静かに言う。

それにイリユージョン・マッシュユリアはゾクツとするがそれを振り払う様に首をブンブン振った後に…

イリユージョン・マッシュユリア「いやだもん！こんな楽しい事を止められないもん！」

そう言うといリユージョン・マッシュユリアは数人に分かれた…本人はそうしたと思った瞬間…

イリユージョン・マッシュユリア「あれ？」

何時の間にかマリオに押さえられており、目の前にパンチが迫っていた。

イリユージョン・マッシュユリア「ひっ！？」

それに悲鳴を上げた瞬間、イリユージョン・マッシュユリアの顔のすぐ横に振り下ろされた。

イリユージョン・マッシュユリア「…ひっく…うわあああああああ
ああん！！」

マリオがパンチした腕を引いた後、少し間を空けてイリユージョン・マッシュユリアは恐怖から泣いた。

マリオ「……試合とかならまだいい…だけどな、こんなのは楽しいのじゃないんだよ」

泣いてるイリユージョン・マッシュユリアにマリオは厳しく言う。

そして、膝を付くとイリユージョン・マッシュユリアの頭を撫でる。

マリオ「怖がらせたのは悪かった…だがな、今回の事や人を殺す事は楽しいものじゃないんだよ…それに…楽しみたいのなら、俺たちのある学園に來い、楽しい奴等がいっぱいだ」

イリユージョン・マッシュユリア「…ホントに？」

厳しい顔を止め、優しく言うマリオにイリュージョン・マッシュリアは泣くのを止めてマリオを見る。

マリオは頷き、顔を空達に向け、イリュージョン・マッシュリアも見る。

空「大歓迎だぜ！」

ソロ「だな」

チルノ「同じく！」

レヴィ「ボクもだぞ！」

クッパ「まあ、我輩も」

ピーチ「一緒にいれば楽しい行事たっぷりよ」

タレ銀「俺も良いよ」

アーカード「銀次が言うなら何もないさ」

空達は笑顔で歓迎し、誠と言葉も頷く。

マリオ「さあせと、此処は解放した事だし帰るぞ！」

チルノ「他の皆はどうしてるかな？」

マリオの言葉に全員はイリュージョン・マッシュリアと共に学園に戻ったのであった。

第23話：幻影回遊者（後書き）

ルイージ「ホント兄さんは…」

フォックス「厳しい時は厳しく、甘くする時は甘くだよな…」

スネーク「だな」

カービー「だね」

ヨッシー「まさに飴と鞭ですね」

ネス「次回を待ってね！」

第24話：誠と言葉の決意（前書き）

マリオ「長編はいよいよ終盤だな」

ルイーダ「だね」

フォックス「だな」

第24話：誠と言葉の決意

生徒達の活躍によって、同時に起きた騒ぎは全ておさまった。しかし、その後に事態はさらなる展開を見せていく。傭兵団と運命粛清軍が手を組み、次の動きに出たのだ。

革命組織に運命粛清軍（傭兵団とデニー軍）が接触して手を組んだという情報を受けて、運命粛清軍の工作や謀り事を未然に防ぐべくマリオ達は出撃した。

マリオ「おりゃあ!!！」

運命粛清軍兵「ぐへっ!?!」

パンチで運命粛清軍兵を倒した後にマリオはキックで後ろから襲い掛かるうとする別の兵士を蹴り飛ばす。

ソニック「はあああああ!!！」

その隣でソニックがカリバーンとデルフを振るいて戦う。

フォーゼドライバー「ランチャー・オン、ガトリング・オン」

フォーゼ「この!!！」

ジーノ「ジーノブラスト!!！」

ピーチ「ヒステリックボム!!！」

世界「誠、絶対に私に振り向いて貰うからね」

呟く誠と言葉に世界は笑って言う。

ドクターS「私達の野望の為にも…倒させて貰う」

ソロ「そうはさせるか！」

リュウケンドー「これは誠と言葉、そして彼女の決闘だ！」

チルノ「邪魔はさせないよ！」

誠「3人共…」

武器を構えるドクターSにソロ、リュウケンドー、チルノが前に現れ、そう言う。

リュウケンドー「誠！カイトに聞いたけど途中は俺にはちんぷんかんぷんでわかんなかったけど！過去にけじめを付ける為にも頑張れ！」

ソロ「同じく！」

誠「あつ、ああ！」

リュウケンドーとソロの言葉に誠は彼等が恋愛関係には鈍感だと教えて貰っているので分かんなかったと言うのは恋愛関係部分だなど一瞬考えた後に答える。

世界「行くよ」

言葉「負けません！」

そう言うと同時に2人はぶつかる。

過去にけじめをつけるため、2人は世界達と戦う。

言葉と世界はどちらとも同じ戦法だが言葉は世界の持つ短剣を警戒した。

言葉「（あの短剣、何かありますね…）誠君！短剣には注意してください！」

誠「分かった！」

言葉の注意に誠が頷いたのに世界はギリツと唇を噛む。

世界「本当に…誠は私の物よおおおおお！！！」

言葉「くっ！」

言葉を吹き飛ばして世界は睨むが周りを見る。

マリオ達により残りはもうほとんどいない状態であった。

それに世界は舌打ちした後離れる。

世界「勝負は預けたわ！！！」

そう言うと世界は退却し、ドクターSも煙幕で視界を遮って逃げる。

誠「世界……」

世界がいた場所を見て、誠は悲しい顔をする。

戦いの後、生徒達は一旦学園へ帰還する。

情報交換をした後、決戦に備えてそれぞれの時間を過ごす。

そんな中、誠と言葉は、世界達が悪いとは言え罪悪感を持っていた。

マリオ「どうした？考え事か？」

そこにマリオや数名が来る。

そして誠と言葉を挟んで座る。

誠「あつ、はい」

マリオ「考えてるのは西園寺世界達の事か？」

言葉「はい……分かりますか？」

誠が答え、マリオに当てられたので言葉は顔を伏せ、横目でマリオを見る。

マリオ「見るからにな……」

誠「……元はといえば、世界達がああなったのも俺が悪いんです」

そうやって誠は自分の過去を全て話した。

マリオ「…罪を数えてるなら良いじゃないか」

誠「？罪？」

全てを聞いてのマリオの言葉に誠はマリオを見る。

マリオ「師匠が言っていた。そうやって自分の起こしてしまった過ちを覚えているなら背負って行かなければならない。後悔する位なら引き摺るより背負って前を進めとな…」

言葉「後悔する位なら…」

誠「引き摺るより背負って前を進め…」

空「それに！そうやって今の誠や言葉がいるんだろ！」

ソロ「それに罪悪感あるならまた友達になれば良いんじゃないか？」

言葉「出来ますでしょうか？」

レヴィ「出来るんだって思わなきゃダメだぞ！」

誠「皆…」

マリオ達の励ましを受けて決意を固め、誠は言葉を見る。

誠「言葉、俺はもうお前を裏切らずに愛してる」

言葉「私も、誠君を愛してます」

そしてお互いに二度と裏切らず互いを愛し合うことを誓った。

マリオ「また絆が深まったお前等2人にプレゼントだ」

ルイーダ「(兄さん、堂々と告白してるのに…)」

笑顔で言うマリオにルイーダが顔を抑えてる間に本人は誠と言葉に腕輪を装着させる。

誠「これは？」

マリオ「俺がある世界で出会った絆の女神、キズナハートの腕輪だ」

言葉「女神様の腕輪ですか!？」

マリオの言った事に2人は驚いて腕輪を見る。

マリオ「キズナハートは称号の通り、絆を大切にする女神様でな、もし硬い絆で結ばれてる男女に会ったらこの腕輪を渡して欲しいって頼まれたんだよ…お前達ならそれを持つに相応しい」

マリオの説明に2人はお互いに腕輪を見る。

腕輪を2人を祝福する様に光り輝いた。

第24話：誠と言葉の決意（後書き）

スネーク「なあ…あれ、絆以外の意味あるだろ？」

銀次「実は女神様にはもう1つ名前があつて、愛情を司る女神ラブ
ハートで名前も司るのも愛情が本来なので…鈍感な人には絆の女神の
キズナハートって名乗ってるんだよ！」 同行していたので後で教
えて貰った。

ルイージ「女神様も認める兄さんの鈍感ぶり！」

リュカ「！」

ネス「次回を待ってね！」

第25話：現れし愛と絆の女神（前書き）

フォックス「終盤だああ！！」

スネーク「それで現れるは……」

ネス「だね」

第25話：現れし愛と絆の女神

翌日、学園側からの襲撃で決戦が始まった。

銀時やマリオ達主力部隊は、運命粛清軍を倒すために出撃した。

レヴィ「おりゃあ!!！」

フォックス「はっ!!！」

スネーク「食らえ!!！」

マリオ達はデニー側の敵と遭遇して戦いに挑んでいた。

誠「世界……」

言葉「西園寺さん……」

そして誠と言葉はリュウケンドー、チルノ、ソロ、ルイージ、ネオス、ネクサス、レヴィ、銀次に行く途中で合流した光と共に世界とドクターSに赤屍とヤンナと対峙していた。

リュウケンドー「（なあなあ、アレ誰？）」

誠「（エリート学園にいたヤンナ、厄介な相手だ）」

こそつと耳打ちして聞くリュウケンドーに誠はそう言う。

世界「さあ、今度こそ誠を私の物にさせて貰うわ」

そう言つと世界は何かをした瞬間…

ブレイド「ウェイ！ウェイバクシユン！！ウェイボシユン！！ウェイバシヨイ！！」

デイケイド「あんたまたですか！！誰ですか真面目シリアスな時にこの人のアレルギーを出してる人！！」

戦っていたブレイドが戦いながら大きいくしゃみをしまくり、デイケイドがツツコミを入れて戦いながら叫ぶ。

ルイージ「魅力系アレルギー…」

銀次「うわあ…」

赤屍「おやおや、変わった症状を持ってますね」

誠「…」

世界「なっ、何で効いてないの!?!」

すぐさま察知したルイージが言い、銀次は脱力し、赤屍が笑つてそう言い、誠が冷や汗を掻いてると狼狽した世界が叫ぶ。

ルイージ「あれ？そう言えば誠君、大丈夫なの？言葉ちゃんも」

誠「あつ、そう言えば…」

言葉「大丈夫です」

世界の言った事に気づいたルイージはそう聞き、誠もそう言われて自分の体を見て、聞かれた言葉もそう言う。

G4「あの、その2人の腕輪が光ってるんですけど…」

光「あつ、ホントだ」

G4と光の言った事に誠と言葉はマリオから受け取った女神の腕輪を見ると確かに光っていて、それが2人を包む。

そして光が晴れると誠と言葉の姿が変わっていた。

誠は頭に赤と青の色のハートが刻まれたサークレットを付け、体は赤と青の色が横半分に分かれた装甲鎧に覆われ、腕は右手にビーム機能付きキャノン、左手にガトリング機能付きショットガンを装着し、脚は右足に赤の義足、左足に蒼の義足に覆われていた。

そして言葉は髪は桃色に変わり、目の色が水色で服がラブプロセッサーと言うラブハートに変わっていた。

W^{リュカ}「誠さんと言葉さんの姿が変わった!？」

レティ「もしかして…」

スネーク「マリオ、まさかあれは女神の力が宿っているのか?」

驚くWとレティの隣でスネークが渡したマリオに聞くが…

マリオ「おかしい…」

クッパ「むっ？おかしいとはどうした？」

訝しげなマリオにクッパは聞く。

マリオ「俺が腕輪を渡されて聞いた時、腕輪を持った男女が互いに深く結ばれてるなら1人の女神、愛と絆の女神キズナラブハートになる…善なんだけど…おかしいな…」

龍騎「何か足りないんですか？」

シユテル&ロード&ジーノ&幽香&天子「（と言っか、マリオから愛とかラブが出ると違和感あるな…）」

首を傾げるマリオに龍騎はそう言い、その周りで戦っていた鈍感以外のメンバーはそう心の中で思った。

ラブハート「こっ、これって…」

誠「マジかよ」

ヤンナ「ふん、変わったからって勝てる訳ないわよ！」

ドクターS「その通りです。現れなさい！」

驚くラブハートと誠にヤンナはそう言っているとドクターSが同意して後ろに巨人を召還する。

出たのはアナザーストーリーの21〜22話で登場したイカインダ―田中だが他に出た2人に光とソロは驚く。

光「イーヴィルティガ!?」

ソロ「ダークザギだと!? 何で!?!」

G4「本物ではないですが本物と同じ力を持つてるようです」

ネクサス「……………ダークザギは任せろ」

光「それなら僕もイーヴィルティガを!」

驚く2人にG4はそう言うのとネクサスはそう言い、変身を解き、エボルトラスターを構え、光もカードを取り出す。

ムッツリーニ「……………ネクサス!」

光「ティガ……………!!!!」

ムッツリーニはウルトラマンネクサスへなった後にウルトラマンノアとなり、ティガと共にダークザギとイーヴィルティガと向かい合う。

リュウケンドー「んじゃあ残ったデカブツは任せろ!!!」

そう言ってリュウケンドーはアクセララーを取り出す。

リュウケンドー「ゴーゴービークル発進!!!」

アクセララー「発進シフト・オン!! ダンプ! フォーミュラ! ジヤイロ! ドーザー! マリン! ドリル! ショベル! ミキサー! クレー

ン！ジェット！GO！GO！」

音声の後に数メートル先からゴーゴービークルが現れ、リュウケン
ドローは上空から振ってきたアタツシユケース型コンソールパネル
『ボウケンドライバー』をキャッチするとダンプへと搭乗する。

ドクターS「こけおどしを！やれ！！！」

田中「デュア！！！」

それを見たドクターSがそう言うと田中は光線を放つ。

ゴーゴービークルの手前の地面に直撃すると爆風が起きる。

リュウケンドロー「アルティメットキック！！！」

爆風の中から合体したアルティメットダイボウケンが飛び出し、田
中にキックを炸裂させる。

ドクターS「合体した！？！」

ソロ「お前の相手は俺達だ！」

チルノ「だよ！」

驚いているドクターSにソロとチルノはそれぞれゼロイドドライバー
とヒョウリュウケンを構える。

ソロ「変身！！！」

ゼロイドライダー「カメンライド！ゼロイド！」

音声と共にソロの周りにウルトラ戦士の幻影が現われてソロと重なると共に姿が変わり、顔にカード装甲が差し込まれる。

その姿は顔はディケイドの額をWの額のにして色を黄緑に変え、目の色を黄色にして顔のマゼンタの部分を銀色にした感じ、体はディケイドの胸アーマーのXを消してウルトラマンゼロのプロテクターを付けてカラーリングをウルトラマンゼロのカラーリングへ変えた仮面ライダーゼロイドになった。

チルノ「リュウケンキー！発動！！！」

ヒョウリュウケン「チェンジ！」

チルノ「氷龍変身！」

言霊を言うと同時にヒョウリュウケンから水色の龍が現れ、上空で吼えた後にチルノへと突撃する。

ぶつかった後、チルノの姿はリュウケンドーの胸の鎧がマグナリュウガンオーの鎧と混ざった感じを纏ったスーツの部分が水色の魔弾剣士リュウケンオーに変身した。

リュウケンオー「リュウケンオー！ライジン！」

ドクターS「こしゃくな、目的の為にもお前達を倒す！」

リュウケンオーが名乗り上げた後に2人はドクターSとぶつかる。

赤屍「さて、私達もやり合いましょうか銀次君」

銀次「…あんまり戦いたくないんだけどな…」

笑う赤屍とは対象に銀次は嫌な顔するが気を引き締め、電気的剑を構え、それにほうと赤屍は感嘆の声をあげるとブラッディ・ソードを構える。

ヤンナ「ふふっ、私に2人で挑むとはね…」

レヴィ「僕達は強いんだぞ！」

ネオス「先生達も頑張ってるから負けられないよ！」

不敵に笑うヤンナにレイフォームとなったレヴィとネオスは構える。

ルイージ「2人共、悪いけど、割り込ませて貰うよ」

誠「ルイージさん？」

言葉と誠に断り、ルイージはコスモプラックを取り出し…

ルイージ「コスモース！」

上げ、叫んだ。

するとルイージは光に包まれ、晴れた後には等身大のウルトラマンコスモスがいた。

言葉「何時もと違う…」

誠「けど…何で？」

驚く誠と言葉を尻目にコスモスは両手を上へ上げた後、右手を突き出してフルムーンレクトを放つ。

世界「何これ？『君はそのままが良いの？』！？」

フルムーンレクトの光に疑問を感じる世界の頭にコスモスに変身してるルイージの声が響く。

コスモス『君と誠君達は友達だったんだろ…』

世界「うるさい、知らない奴が口を出すんじゃないわよ！」

コスモスの言葉に世界は叫んだ後にコスモスを攻撃する。

それにコスモスは気にせずフルムーンレクトを世界に照射し続ける。

コスモス『君だって祝福したかったかもしれない。けど、君も誠君を愛していたからこそ、素直に誠君と言葉ちゃんを祝福出来ずに今の状態になっただんでしょ？』

世界「！」

攻撃されながらも訴えるコスモスに世界は動きを止める。

誠「ルイージさん…」

ラブハート「どうして…」

世界と同じ様に聞こえたフルムーンレクトを放ち続けるコスモスを見て誠と言葉は呟く。

そして前日の会話を思い出した。

ソロ『それに罪悪感あるならまた友達になれば良いんじゃないか？』

言葉『出来ますでしょうか？』

レヴィ『出来るんだって思わなきゃダメだぞ！』

誠『まさかルイーザさん…』

ラブハート『西園寺さんと友達になる為に…』

コスモスは世界を救いたいのだ。

そして自分達とまた友達として過ごさせたいから訴えているのだと…

コスモス『恋人とはなれないけど…2人と友達としてやり直せないかい？』

世界『うるさいうるさいうるさい！！私は何も悪くない！！』

コスモスの言葉に世界は頭を振りながら攻撃を再開する。

その間、コスモスのカラータイマーは赤く点滅し、鳴り響く。

普通なら仮面ライダーの方になれば良いが、ウルトラ系ライダーは欠点があり、オリジナルと同じ様に巨大化は出来ず、ライダーの方では技の威力も低くなってるのだ。

だからこそ、ルイージはウルトラマンになったのだ。

その光景に2人はそれぞれの手を握り合う。

誠「俺は…」

ラブハート「私は…」

誠&ラブハート「世界（西園寺さん）を救いたい…」

そう言うと同時に2人は再び光に包まれ、晴れると誠が装着していたラブアーマーをプロセツサーと共に装着したラブハートだけしか立っていなかったが…目を開けた瞬間、右目は誠の色に、左目はラブハートとなっていた。

クツパ「あれは…」

マリオ「あれこそ真の姿！愛と絆の女神！キズナラブハート！」

鈍感メンバー以外「（だから違和感あるな…）」

それを見たマリオが言った時に鈍感以外のメンバーはまた思った。

そして両手から光を放ち、その光はコスモスのカラータイマーに吸収されるとコスモスのカラータイマーは再び青く輝き、そしてコスモスの体が青く輝き、奇跡の姿、ミラクルルナモードへと変わった。

世界「綺麗…」

それに世界は呟いた後、コスモスMLMは構えを取った後に憎しみの心を浄化する青い神秘の光線、ルナファイナルを世界に注ぐ。

世界「わっ、私は…私は…」

頭を押さえ、世界は呻いた後に前のめりに倒れかけ、キズナラブハートが受け止める。

世界「ごめん…なさい…ごめんなさい…2人共…」

キズナラブハート「世界（西園寺さん）…」

気を失いながらも謝罪の言葉を言う世界にキズナラブハートはぎゅっと抱き締める。

コスモスMLMは膝を付きながらもそれを微笑ましく見ていた。

ドクターS「世界…」

ティガ「デアッ！」

ノア「むん…！」

リュウケンドー「アルティメットブラスター…！」

それをリュウケンオーとゼロイドと戦っていたドクターSは戦意喪失し、ドクターSが呼び出した3人の巨人はティガとノア、アルティメットダイボウケンにより倒された。

赤屍「おやおや、どうやら終わりに近づいて来たようですね」

銀次とぶつかり合っていた赤屍はそれを見てそう言うとはっと離れる。

赤屍「それでは銀次君、私は此処でおいとまします。何時かまた戦いましょう」

銀次「それは簡便してくださいとしか良い様がないですよ」

赤屍の言葉に銀次はそう言う。

ヤンナ「役に立たない奴等だね」

レヴィ「何だその言い方！」

ネオス「その通りだ！」

それを見たヤンナは舌打ちし、レヴィとネオスがそう言う。

ヤンナ「そんな事を言う奴は私の女王空間で倒されなさい!!」

そう言うとヤンナとレヴィ、ネオスの周りの風景が変わる。

ヤンナ「いたぶってあげるわ!!」

ネオス「悪いけどそれはご勘弁願うよ！」

ネオスバイザー「サンクチュアリベント」

鞭を構えるヤンナにネオスはそう言つとカードを装填する。

すると女王空間にひび割れがほとばしる。

ヤンナ「なっ！？私の空間にヒビ！？」

それに驚愕するヤンナに気にせず、空間は消滅し、後には光り輝く神殿がある空間へと変わる。

ヤンナ「そつ、そんな馬鹿な……」

ネオス「カオスエクシーズチェーンジ！アクセルシンクロオオオオオ！
！」

呆然とするヤンナにネオスはカードを2枚掲げるとホープとスターダストが現れ、それぞれ、ホープは希望皇ホープレイに、スターダストはシューティング・スター・ドラゴンへと変わる。

ネオス「今まであなたがやってきた事への報いだ！！ホープレイ！
ホープ剣・カオススラッシュ！シューティング・スター・ドラゴン
！スターダスト・ミラージュ！！」

ネオスの言葉と共にホープレイが3回、切り裂いた後にシューティング・スターが幻影の突撃を受けた後にネオスのマグネシウム光線が命中する。

ヤンナ「そんな…私が…」

倒れたヤンナはそう呟くと気絶する。

数分後、ヤンナは理事長の元へ引き渡され、学園へ受け入れられることなどなく地獄の罰で裁かれるにいたった。

世界とドクターSこと刹那は…

世界「ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい」

刹那「世界…」

武器や能力を封じられた後、まだ謝り続ける世界に縛られた刹那は見ていた。

言葉「どうしたんでしょうか？」

マリオ「どうやらコスモスの放ったルナファイナルにより憎しみ以外にも色々と浄化された様だな…だからこそ自分の今までして来た罪に謝り続けてるんだろっ…」

誠「……………」

心配げな言葉にマリオは推測を言い、誠は静かに見ていたが、言葉の肩に手を回す。

気づいた言葉は誠の手が震えているので、優しく、手を置いたので

あった。

マリオ達側の戦いはこれにより終わった。

第25話：現れし愛と絆の女神（後書き）

スネーク「ちなみにマリオ…自分の言っていたキズナラブハートってその女神様の受け売りか？」

マリオ「そうだけど？」

スネーク「はあ…」

リュカ「まあ、マリオさんらしいで良いんじゃないかな…」

ネス「ですな」

第26話：惚れ薬騒動（前書き）

フォックス「ユートピアからのリクエストだ」

ルイージ「戦いの後に起こるは…」

ネス「だね」

第26話：惚れ薬騒動

運命粛清軍と革命組織の戦いから数日が過ぎた。

刹那と世界は生徒として迎えられた。

当初、世界は罪悪感があつて、刹那と共に他の面々から離れていたが誠と言葉に空達が接する事で遠慮がちだが輪に入る様になった。

そんなある日

マリオ「相談したい事？」

椀「ええ、これに関する事でね」

マリオの問いに椀は机にビンを置く。

椀「誰か分かんないけど、これが届いたのよ。中身は何かの薬で分かんないから聞きに来たのよ」

ルイージ「なるほど…けど、それなら僕達よりドクターの方が良いんじゃない？」

ソロ「だよな…あの人は医者だし」

椀「あなた達も知識あると思つて聞きに来ただけど…無理かしら…」

相談していると楓が来たがメンバーは会話していて気づいてない。

楓「（あれ？何か新しい飲み物かな？喉渴いていたから丁度良いや）」

首を傾げた後に楓はそれを飲み干した。

マリオ「んじゃあドクター連れて来るわ」

ルイージ「頼むよ兄さん」

マリオがドクターを呼びに出て行った後、全員薬の方へ向き直る。

フォックス「さてと…もうちょいしたら薬がわか…っておいしいいい！！」

桜「楓！それ飲んじゃったの！？」

フォックスが驚き、桜が急いで近寄り、そう聞いた時…

楓「桜…」

桜「んむっ！？」

鈍感除いた一同「！？」

楓は桜を見ると楓は桜にキスをして辺りが鈍感以外の騒然となる。

その中、メガネを使って薬が入っていた瓶を見ていたコナンの格好をしていたピットがある物を見つける。

ピット「ちょ！？皆！此処見て！！」

ピットが指した所を見ると小さく惚れ薬と書いてあった。

スネーク「ちっちゃ！？」

天子「これ、思いつきり詐欺に使えそうな位に小さいわね…」

それにメンバーは啞然としてしまう。

シュテル「思ってたんですが…2人をあのままにしてて良いんですか？」

シュテルの言葉に気になり見てみると…

楓「椀…」

椀「楓…」

楓と椀が半裸で抱き合っていた。

ムッツリーニ「！？」

明久「ういつ！？」

それにムッツリーニや他の男性メンバー（ファルコン・ハートを除く）は顔を逸らす。

早苗「止めますよ…！！」

白蓮「はい！此処ではやばいですよ！」

ファルコン・ハート「お前等止める！」

文「あやややや、強力ですね！」

それにファルコン・ハートと女性メンバーは慌てて止めに入った。

マリオ「何だこの状況？」

ドクター「何やら凄い状況になってるね！」

そこにドクターを連れて来たマリオはその状況に首を傾げ、ドクターは逆に冷や汗を掻いてそう呟いた。

第26話：惚れ薬騒動（後書き）

リュカ「ユートピアさんからのリクエスト話でした。」

ネス「いや〜大変だよね。」

クツパ「うむ…」

スネーク「次回を待ってるよ!!」

第27話：バルサミコ酢（前書き）

スネーク「なめ猫からのリクエストだ」

ネス「あの2人の登場だね」

フォックス「だな」

第27話：バルサミコ酢

楓が惚れ薬を飲んだちよつとした騒動の翌日

空「あれ？こなたにかがみ、どこかにお出かけか？」

どこかに出かけようとしているこなたとかがみにチルノとソロ、レヴィと共にしていた空が気づいて聞く。

かがみ「ええ」

こなた「久しぶりに友達へ会いに行く所なんだよ」

ソロ「へえ、2人の友達か」

レヴィ「ねえねえ、ボク達も付いて行って良いか？」

チルノ「どう言う奴か知りたい！」

こなた「良いよ」

2人の友達にソロ達は興味を持ち、こなたは付いて来る事に了承する。

ついでにマリオとソニック、ルイーダ、レティも誘ったのであった。

ソニック「それにしてもその会う友達ってどう言う子なんだ？」

こなた「会いに行くのは2人で1人はかがみの妹でもう1人は完璧

美人だよ。二人は別のいい学園で頑張ってるんだ」

ルイーダ「完璧美人って」

レティ「どついう子が楽しみね」

ソニック「そうだな」

こなたの言葉にルイーダは苦笑し、レティは微笑み、ソニックも同意する。

こなた「ほら、此処だよ」

かがみ「此処に私の妹と友達が通ってるの」

ソニック「此処が…」

目の前の学園を指してこなたとかがみがそう言つと…

???「こなちゃん、お姉ちゃん」

そこに手を振って走って来るかがみの髪の色と同じショートカットの少女が走って来て、その後をピンク髪メガネをかけた少女が来る。

ソロ「あの2人がそうなのか？」

かがみ「ええ、走ってるのが妹のつかさでその後ろにいるのが高良みゆきよ」

マリオはやっぱりと内心思ってる隣でソロが聞き、かがみが紹介する。

つかさ「久しぶり〜」

みゆき「お久しぶりですこなたさん、かがみさん」

こなた「2人共元気でよかったよ〜」

息を整えて言うつかさとみゆきにこなたはそう言う。

レヴィ「よろしくどうぞ〜!」

チルノ「よろしく〜!」

つかさ「よろしくね〜私は柊　つかさ〜よろしくね〜」

みゆき「高良　みゆきと言います。よろしく願います」

空「よろしく〜!」

ソロ「2人には助けて貰ってる所があるからな!」

それぞれ自己紹介した後に色々と自分達が過ごした事を帰るまで話したのであった。

つかさ「じゃあねお姉ちゃん〜」

みゆき「また今度」

こなた「またね〜」

かがみ「2人共頑張ってね〜」

それぞれ手を振って分かれたのであった。

ソロ「面白かったな!」

空「そうだな、今度は他の皆も連れて会いに行くか!」

チルノ「だね!」

レヴィ「楽しい奴等だったぞ!」

レティ「良かったわね」

ルイージ「あはは…」

マリオ「また会えるだろうな」

ソニック「YES!」

話し合ってる空達を見て、マリオとソニックはお互いに笑うのであった。

第27話：バルサミコ酢（後書き）

リュカ「と言う訳でなめ猫さんのリクエスト話でした」

ネス「つかさんとみゆきさんの登場だね」

クツパ「アナザーでも出るのだろうか？」

フォックス「どうなんだろうな…次回を待ってるよ！」

第28話：ダクトの中の赤コイン（前書き）

フォックス「真王からのリクエスト話だ」

スネーク「赤コイン集めだな」

リンク「ですね」

第28話：ダクトの中の赤コイン

マリオ「此処か…」

目の前の地下ダスト入り口を見てマリオは呟く。

他に、ソニックと空、チルノ、ソロ、レヴィ、レティがいた。

なぜこんな所にいるかと言うと真王の元にある依頼が来たのだ。

とある依頼主が7枚の赤コインを地下ダクトに落としてしまったらしい。しかもそのダクトは特殊な煙に包まれていて動きが緩くジャンプが高くなるらしい。しかも敵がいる。マリオ達はその依頼を受け、赤コインを探すことにしたのだ。

チルノ「それにしてもレティ珍しいね。あんまり参加しないのに」

レヴィ「確かにそうだぞ」

レティ「ちよつとね。カイト君に負けたままじゃああなた達の師匠の様な存在として申し訳ないじゃない」

隣にいるレティに聞くチルノと同意するレヴィにレティは苦笑してアナザーストーリーの50話でのカイトの勝負を思い出して言う。

空「あの時のカイトは凄かったよな！」

ソロ「そうだな！」

レティ「あなた達も…普通は私やカイト君を超える力を持つてるのに何で私に勝てないのかな？」

レティの言葉に空とソロも思い出してそう言い、レティは悪戯たっぷりな笑みで2人に言うと2人は顔を逸らし、から笑いして頭を掻く。

レティの言う通り、2人はそれぞれ究極の力を持っている。

ただ、2人共流石にここぞと言う時や自分達での模擬戦や戦い以外であんまり使う気はさらさらないのだ。

特に空は全力で出すと吐血するのであんまり心配されたくないのほぼ本気の5%しか出してないのだ。

それでも普通に勝てる位に鍛えられているが…

勿論アナザーストーリー第8話では普通に全力100%でぶつかっただが…

閑話休題

色々と話していると目的地の地下ダクトに到着した。

ソニック「おお〜」

チルノ「ホントに緩いね〜」

レヴィ「ホントだぞ〜」

レティ「はいはい、女の子だからあんまり飛ばない。此処に7枚の赤コインが落ちてるのね」

試しに軽く動くソニックの隣ではしゃいでジャンプするチルノとレヴィを嗜めた後、レティは呟く。

その後、それぞれ分かれて探した。

マリオ「ほいつ…と」

マリオはすぐに慣れてタイミング良く、ダクトにいたクリボーを踏んで赤コインをゲットする。

ソニック「ゲット！」

ソニックもデルフを使って風で煙と敵を掃いながら2枚目の赤コインをゲットする。

レティ「楽勝ね」

突進して来る敵をジャンプでかわしてレティは3枚目の赤コインをゲットする。

レヴィ「ゲットだ！」

チルノ「同じく！」

こちらは競争しながらハートレスを倒して4枚目と5枚目の赤コインをゲットする。

空「おわっと！」

ソロ「おっと！」

他のメンバーがそれぞれ取ってる頃、空とソロはてこずっていた。

ダクトの中で一番広いと思われる場所で残りの赤コインを見つけ、取りに行こうとした瞬間にそれは現れた。

ガーギルタイガー「ガオオオアアアアアッ！！！！！」

それが2人の前に2度に渡って超次元学園に現れたガーギルタイガーである。

空「何でこんな所にいるのかな……」

ゲキリユウケン「言ってる場合じゃないぞ鳴神」

ソロ「その通りだな。ネプテューヌ達が倒した奴よりさらにパワーアップしてるようだな」

ぼやく空にゲキリユウケンはそう言い、ソロが冷静に見て言う。

空「んじゃあ、俺達もあの時のネプテューヌ達のように派手に行くぜ！」

ゲキリユウケン「おい、待て！まさか「ああ！俺達のビッグバンで吹き飛ばすぜ相棒！」だからお前達！！！」

空「インペリアルゲキリユウケン！」

ゼロイドライダー「カメンライド！」

ソロ「変身！」

ゼロイドライダー「ゼロイド！」

ゲキリュウケンの言葉を無視して2人はそれぞれ空はゲキリュウケンをインペリアルゲキリュウケンに変え、ソロもゼロイドに変身すると新たなカードを構える。

空「インペリアルリュウケンキー！発動！」

Eゲキリュウケン「チェンジ、インペリアルリュウケンドー！」

ゼロイド「新たなビッグバンだ！」

ゼロイドライダー「フォームライド！」

空はキーを差し込み、ゼロイドはカードを装填する。

空「撃龍変身！！」

ゼロイドライダー「ゼロイド・スラッガー！！」

空は構えると共に出た龍に包まれ、ゼロイドは音声と共に光に包まれた後に2人は姿を変えていた。

空はアルティメットリュウケンドーのアーマーをゴッドリュウケンドーに混ぜた感じで、スーツの色は青色の帝王の名を冠する魔弾剣士

Eリュウケンドー「敵が悪の申し子ならばリュウケンドーは帝王と
ならん、魔弾剣士インペリアルリュウケンドー！ライジン！！」

ゼロイドはゼロイドにゼロスラツガーが変化したゼロスラツガーギ
アのスーパーフォームとキーパーフォームを混ぜた青と銀に胸の中
央が星の鎧を装着した『仮面ライダーゼロイド・スラツガーフォー
ム』へとチェンジした。

ゼロイドSF「見せてやるぜ！俺達の力を！」

Eリュウケンドー「行くぞ！ソードキー！発動！」

Eゲキリュウケン「マダンソード！」

ゼロイドSFが言った後にマダンダガーが強化されたマダンソード
をEゲキリュウケンに装着させ、ツインジャベリンゲキリュウケン
へとするとゼロイドSFと共にガーギルタイガーに挑む。

ゼロイドSF「おりやりやりやりやりやりや！！」

ガーギルタイガーの爪攻撃を避けた後にゼロイドSFが連続でガー
ギルタイガーのお腹にラツシュをする。

ゼロイドSF「おりやあ！」

Eリュウケンドー「オマケ！！」

そして蹴りで上へ吹き飛ばした後にEリュウケンドーがツインジャ
ベリンゲキリュウケンで叩き落す。

ガーギルタイガー「グルアアアアアツ!!!!」

起き上がった後にガーギルタイガーは怒りの咆哮を放った後に体を横に回転し、ツメとしっぽを合わせた回転攻撃をしかけるが…

Eリュウケンドー「おりゃあ!!!!」

Eリュウケンドーは尻尾を切断し、爪を根元近くに切断する。

ガーギルタイガー「グギアアアアアアアツ!?!?ガアアアアアツ!!!!」

それにガーギルタイガーがのたうちまわってる間に2人は必殺技の体制に入る。

Eリュウケンドー「ファイナルキー!発動!」

TJゲキリュウケン「ファイナルクラッシュ!!!!」

ゼロイドライバー「ファイナルアタックライド!ゼ・ゼ・ゼ・ゼロイド!!!!」

EリュウケンドーはTJゲキリュウケンを回し、ゼロイドSFはFARカードを装填すると両隣にそれぞれスーパードフォームとキープフォームのゼロスラッガーギアを纏ったゼロイドが現れる。

Eリュウケンドー「ツインジャベリンゲキリュウケン!超帝王斬り!!!!」

ゼロイドSF「デイメンションドリーム!!」

エリユウケンドーは2つの龍型斬撃を放ち、ゼロイドSFは両手と胸から光線を放ち、スーパーフォームのゼロイドは胸の星から強力光線『エメリウムスタービーム』を、キーパーフォームのゼロイドは右腕のリフレクションブレードから光線を打ち出す。

それ等は1つとなつてガールタイガーに直撃した。

エリユウケンドー「闇に抱かれて眠れ」

ガールタイガー「グギャアアアアアアツ!!!!」

背を向け、エリユウケンドーが静かに言つとガールタイガーは倒れた。

空「けぷっ」

そして変身を解くと同時に吐血した。

ソロ「んじゃ、持って帰るか」

空「だな」

血を拭う空にソロはそう言つと2人は赤コインを持ってマリオ達と合流し、帰つたのであった。

第28話：ダクトの中の赤コイン（後書き）

リュカ「と言う訳で真王さんのリクエスト話でした」

ネス「普通に持って帰る話が長くなったね」

スネーク「そうだな…」

クツパ「次回を待っているのだ!!」

第29話：昼飯時間の緊急事態！！（前書き）

スネーク「ヴァーラガルザからのリクエストだ！」

フォックス「タイトル通り！！」

ネス「やばいやばいやばいやばいやばい！！」

リュカ「；」

クツパ「始まるのだ！！」

第29話：昼飯時間の緊急事態！！

何時もは賑やかなお昼の時間

だが、今は沈黙に包まれていた。

お妙「はい、召し上げれ」

その理由はお妙の作った大量の卵焼きが原因である。

銀時「（うお〜い！どうするのマジでこの状況！！）」

空「（確かにこれはやばいよな…）」

ネプテューヌ「（どうする！？）」

カイト「（此処はマリオに食べて貰うしかないよな…）」

世界「（そのマリオさんの姿が見えないんだけど…）」

言葉「（そう言えば見えませんね…）」

それぞれ小声で話す中、世界の言葉に誰もがマリオの姿がない事に気づき、ルイージの方を見る。

ルイージ「それが…兄さん風邪引いちゃって…」

神楽「マジアルか！？」

ビビ「珍しいわね…」

ギルシア「あいつ的にそう言うのとかけ離れてるもんだから…」

マロ「原因は何ですか？」

ルイージのMarioがいない理由を聞き、神楽とビビは驚き、ギルシアが咳いた後にマロが風邪の理由を聞く。

ルイージ「滝に4時間も打たれてたんだよ…その疲れもあって…」

アイエフ「それは風邪引くわよね…」

コンパ「けど、疲れって？」

ルイージの言葉にアイエフはそう言い、コンパが疲れの部分に引っかけ、聞く。

ルイージ「いやね…デスフォールって言う毎分1兆リットルも落ちて来る滝で打たれてさ…丁度落ちて来る落石とか流木とかも壊してさ…」

それに一部のメンバーは吹いた。

デスフォールは別名、処刑の滝とも言われるとある世界で世界三大瀑布と呼ばれる巨大な滝の1つなのだ。

しかも落ち着ける足場などは全然ないのだ。

こなた「良く流されなかつたね…」

ルイーダ「まあ、変身して挑んでたからね。」

かがみ「それでもよーやんわよ。」

冷や汗を掻いて修行しているゼロの姿を浮かべて呆れる。

ヨッシー「こうなったら逝きますよー!!」

カービィ「おうー!!」

ビシッ!と鉢巻を付けて2人は卵焼きに突撃する。

大食いコンビ「うおおおおおおおおお!...!!」

そしてそのまま吸い込んで行く。

全部食べきるとそれぞれゴクンと飲み込む。

大食いコンビ「ピーチ姫のに比べれば怖くない...ぐふっ」

そう言い残すと2人は倒れた。

こなた「見事な塵様であった(・_・)」

新八「あの人たちは勇者ですよ」

ルイーダとチルノ、ソニック、ソロと空に運ばれて行く大食い2人にこなたと新八は敬礼して見送る。

お妙「あら…まだあるのに寝ちゃったのね」

そのお妙の言葉に残っていたメンバーは青くなった後…

「????」とっつ!

そこに現れたのは…

ピット「君は!サイサリス!」

ゼフィランサス「俺もいるよ」

デステイニー「俺も…」

SDガンダムメンバーのデステイニーとサイサリスにそんな彼に縛られたゼフィランサスであった。

サイサリス「おらおらおら!全部食べる兄貴!!」

そう言うとゼフィランサスにサイサリスは残った全てを食わせる。

ゼフィランサス「酷いね弟よ」

一同「(けるつとしてるううう!??つかありがとう!!)」

全部飲み干した後のゼフィランサスに一同が驚いた後にサイサリスに感謝する。

ウイング「…何やら凄い事になってるな」

デスサイズ「そうだな、色々と楽しそうだな」

ヘビーアームズ『そうだね』

ブリッツ「ござるな」

ステイメン「こんにちわ〜」

そこにウイング、デスサイズ、ヘビーアームズにブリッツ、ステイメンも来る。

レティ「あら？珍しいわね」

ファルコン・ハート「何でお前等此処に？」

デスサイズ「マリオに誘われたんだよ」

ウイング「学生にならないかと聞いてな」

ヘビーアームズ『暇だったから来た』

ブリッツ「それでマリオ殿はどこに？」

レティが言った後にファルコン・ハートが聞くとそう返され、ブリッツは周りを見て聞く。

その後、マリオの事情を聞いて呆れた後にゼフィランサス、サイサリス、ステイメン、ウイング。デスサイズ、ヘビーアームズ、ステイニーとブリッツのメンバーが新たに超次元学園の生徒に加わった。

なお、余談だがマリオは翌日には元気に登校して来たのであった。

第29話：昼飯時間の緊急事態！！（後書き）

リユカ「と言う訳でヴァーラガルザさんからのリクエスト話でした」

スネーク「ゼフィランサスの奴、何時の間に…」

サイサリス「どうもスマハツ出張版で××料理を食べたせいで慣れたらしい」

フォックス「凄いなゼフィランサス！」

クツパ「次回を待っているのだ！！」

第30話：セイタの特訓！（前書き）

スネーク「龍の骨からのリクエストだ」

フォックス」

第30話：セイタの特訓！

セイタ「うーん…」

ある日、セイタはグラディエーターアーマーの力に疑問を感じていた。

セイタ「（ただ、グラディエーターアーマーに頼っての戦い方で良いのかな…）」

そう考え、セイタはソラ達に相談する事にした。

ソラ「生身でも戦える力を持ちたい？」

セイタ「はい」

ソロ「いきなりだな…どうしたんだ？」

話しかけたセイタにソロは理由を聞く。

セイタ「僕はほとんどグラディエーターアーマーを装着しての戦いが主だったので生身でも戦える様にしたいんです」

チルノ「ああ〜」

レヴィ「確かにあんまり見た事ないな」

生身で戦闘能力を上げたいと願うセイタにチルノとレヴィは思い出しつつ。

ソロ「よし！いつちよやるか！」

ソロ「だな！」

零斗「それだったら、俺も手伝っぞ」

セイタ「零斗さん！」

ソロとソラが言った後に聞いた零斗が協力しようとして入ってくる。

そして翌日

零斗「ほい、これを使え」

そう言った後に零斗はセイタにグラディウスとラウンドシールドを模した木製の剣と盾を渡す。

セイタ「これって…」

零斗「自分が使って来たのに近い奴の方が慣れ易いだろ？」

ソラ「久々だな、こいつを使うの」

チルノ「あたいは初めて」

ソロ「そうだな」

レイン「ガンバですお嬢！」

レヴィ「おう！」

渡された物を見るセイタに零斗はそう説明し、セイタの安全の為、木剣と木杖を持ったソラとチルノ、ソロ、レヴィは構える。

セイタ「それじゃあお願いします！」

ソラ「おう！」

そう言うと同時に4人は走り出す。

最初に来たソロとソラの攻撃をセイタは木剣と木の盾で防ぐと正面からチルノが木剣を振り下ろそうとしているのにソラが気づいて防ぎ、ソロも来たレヴィの攻撃を防ぐとセイタを蹴る。

セイタ「くっ！」

後ずさった後にセイタはチルノと戦うソラに突進して行き、盾で吹き飛ばす。

ソラ「おっと…やるなセイタ！お返しのストライクレイド！」

笑いながらそう言うソラは木剣を投げてセイタを攻撃する。

その後、何回もぶつかり合う。

数分後

セイタ「はあはあ…」

ソラ「なかなか良かったじゃん」

ソロ「そうだな、このまま何回かやればアーマーなしでも普通に戦えるだろうな」

仰向けに寝転がるセイタを見てソラとソロはそう評価する。

セイタ「あっ、ありがとうございます」

零斗「まあ、それでも、油断せずにやらないとな」

セイタ「はい！」

以後、セイタもソラ達の訓練に加わり、強さを磨いて行くのであった。

第30話：セイタの特訓！（後書き）

リュカ「龍の骨さんからのリクエスト話でした」

スネーク「セイタのこれからが楽しみだな」

フォックス「そうだな」

ネス「どうなるのやら」

クツパ「次回を待ってるのだ!!」

第31話：やって来たヤクザ（前書き）

フォックス「ヴァーラガルザからのリクエストだ」

スネーク「大変だな銀次も…」

ネス「だね」

第31話：やって来たヤクザ

竜童「天野 銀次はいるか!?!」

ある日、学園に竜童率いるヤクザの集団がやってきた。

空「銀次に何か用か?」

竜童「ああ、借金関係でな」

ソロ「借金? あいつギャンブルする様な奴じゃないだがな…」

空が聞き、竜童の言った事にソロが言つと…

竜童「あいつと言うよりあいつの自称妻関連でな、壊した奴の弁償がまだなんだよ」

レティ「アーカード関連ね…」

竜童の言葉にレティは冷や汗を掻く。

レヴィ「それなら銀次は慌てて走ってたぞ」

竜童「逃げたか…」

タレ銀「ホントにアーカードさんはあああああ!?!?!」

全速力で走りながらタレ銀はアーカードに怒っていた。

そして曲がり角を曲がった時…

タレ銀「むぎゅっ!?!」

????「おわっ!?!」

?????2「きゃっ!?!」

誰かとぶつかり、お互いに尻餅付くとタレ銀はぶつかった人物に驚く。

タレ銀「蛭ちゃんに卑弥呼さん!」

蛭「あつ、てめえこの前の!?!」

卑弥呼「銀次だっけ、久しぶりね」

タレ銀が指差し!蛭も返して卑弥呼がそう言う。

ちよつと説明して置くと、超次元学園のある世界には銀次のいた世界にあった裏新宿が存在するが違うのはこの世界にこの世界の銀次がいないと言う事である。

それにより奪還屋は蛭しかいなくて、卑弥呼が時たま手伝っていると言う感じになっている。

銀次が知ったのは長編前の時であり、その時に裏新宿に行った際仕事中の蛭と卑弥呼と出会い、その後は音沙汰なしだったのである。

赤屍に関しては入学した直後に出かけてる時に出会ったのである。

タレ銀「何で蛮ちゃんと卑弥呼さん走ってたの？」

卑弥呼「まあ、私の場合は蛮関係で巻き込まれてね…」

蛮「そう言うお前は…自称妻関係だろ？」

タレ銀「うん…」

そう話してる間にヤクザが来て、3人は連行された。

蛮「卑弥呼のやるっ…」

タレ銀「しょうがないよ蛮ちゃん、卑弥呼さん関係ないんだしさ…」

関係ないので解放されて入り口で待ってるよと出て行った卑弥呼に蛮はイラつき、タレ銀が宥める。

蛮「ってかよ、お前は何で初対面から俺をちゃん付けするんだ？」

銀次「あゝ…。」

ふと疑問に思ったのか聞く蛮に銀次は目を泳がせていると…

ヤクザ1「おい聞いたか…また1人、呪術王にやられたらしいぜ」

ヤクザ2「聞いた聞いた、ホントに何者なんだろうな呪術王って奴は…。」

銀次「!?!」

ヤクザ達が話した事に銀次は目を開く。

蛮「銀次？」

銀次「ねえ！その呪術王の話聞かせて！」

ヤクザ3「おわっ!?!何だ兄ちゃん？呪術王の事知りたいのか？」

ヤクザ4「最近になって裏に現れた奴だよ、どこから来たのか分からない人物だ」

ヤクザ5「だから年齢も色んな奴が不詳なんだよな…」

驚く銀次に蛮は疑問詞を浮かべる中で銀次は聞き、その言葉に銀次はありえないと顔で表現していた。

蛮達と初めて出会った後、銀次は様々な事で調べたがこの世界に呪術王は銀次と同じ様に存在しないと言う事が分かった。

その後、銀次は解放された後も嫌な予感を感じ取るのであった。

第31話：やって来たヤクザ（後書き）

リユカ「と言う訳でヴァーラガルザさんからのリクエスト話でした」

フォックス「さてさて、銀次の感じ取ったのは…」

ネス「だね」

クツパ「次回を待ってるのだ！」

第32話：楓と椛の絆（前書き）

スネーク「ユートピアからのリクエストだ」

フォックス「さてさて、どうなるのやら……」

ネス「だね」

第32話：楓と椛の絆

デスサイズ「きょくうは楽しいハイキング〜」

ウイング「テンション高いなデスサイズ」

デステイニー「確かに」

ある日、山へハイキングに行く事になった。

他のメンバーもワイワイ話している。

椛「まったく、はしゃぎ過ぎじゃない？」

楓「そんなに楽しみにしてたって事だよ」

椛は楓と一緒に居て、テンションの高いメンバーに椛は呆れ、楓は苦笑して言う。

その時！

ガッ！

椛「あつ！？」

楓「椛！！」

椛が足を滑らせて崖から落ちそうになり楓が手を掴むと二人して落ちってしまった。

マリオ「いかん！」

ソロ「楓！椀！」

それに気づいたマリオとソロは慌てて下を見る。

ソロ「早く探そう！！！」

レティ「そうね！」

それによりメンバーはそれぞれ分かれて楓と椀を探す事に…

楓「…ん…此処は…っ!？」

一方の楓が気が付くと足に痛みが走り、見ると足を怪我していた。

椀「楓！？足を怪我したの!？」

楓「大丈夫…っ!？」

椀「全然大丈夫じゃないじゃない！！背負って行くから我慢してね」

無理して立ち上がろうとする楓を制して椀は楓を背負い合流しようとする…

魔物「ぐおおおお！！！」

椀「っ！こんな時に！！！」

魔物が現れ椀に襲い掛かり、それに椀は苦い顔をする。

仕掛けて来る攻撃を椀はなんとか避けていく。

楓「椀！放して下さい！」

椀「いやよ！」

避けながら会話していた時…

ガガガガッ！

魔物と楓達の間銃撃が走り、それに魔物が驚いていると…

???「三華崩山彩極砲」

魔物の前に何者かが立ち、右手にエネルギーを収束させた後にそれを魔物に叩き付ける。

楓「美鈴さん…それに鈴仙さん」

魔物を倒した人物、美鈴と後から来た鈴仙に楓は驚いた表情で呟く。

鈴仙「久しぶりね…はあ…」

椀「何ため息吐いてるのよ？」

美鈴「まあ、ちょっと住んでる所が出ている間にトラブルに巻き込まれたって事を聞いちゃって…」

ため息を吐く鈴仙に椛は眉を潜め、美鈴が頭を掻いてそう言う。

デステイニー「いた!!」

ダブルオー「こちらダブルオー、楓、椛両名を発見、美鈴と鈴仙が保護してた模様」

そこにデステイニーとダブルオーが飛んで来て、報告する。

その後、楓を治療した後に学園に戻ったのであった。

紫「……と言う事でしたらく世話になりますわ」

真王「そうか…分かった。そちらの住み込みを許可しよう」

そう言う会話が理事長室であり、美鈴や鈴仙の他、霊夢、魔理沙、八雲一家に紅魔館一同、萃香、命蓮寺一行、阿求、慧音、妹紅、ミステリア、ルーミア、リグル、秋姉妹、衣玖、にとり、雛、小町、映姫（本人は渋っていたが紫の事情も事情なので折れた）、神奈子と諏訪子などの鈴仙を除いた永遠亭やお空を除いた地獄の面々にアリスと妖夢、幽々子以外の東方メンバーがしばらく超次元学園にいる事になった。

第32話：楓と椛の絆（後書き）

リュカ「ユートピアさんからのリクエスト話でした」

スネーク「さらに増えたな」

リンク「まあ、ちょっとしたな」

オリマー「だね」

カービィ「次回を待ってね」

第33話：猫猫猫猫猫猫猫猫…（前書き）

スネーク「なめ猫からのリクエストだ」

ネス「またも猫猫祭り」

リュカ「だね」

オリマー「そしてちょっとヴァーラガルザ氏のネタも…」

第33話：猫猫猫猫猫猫猫猫…

真王「そんな事が…」

紫「お陰様で幻想卿を離れるしかなかったわ」

依姫「そして月も…くっ！」

理事長室で真王が幻想卿で起きた事を聞き、そして月もまた、やられた事に難しい顔をし、紫は肩を竦め、さつき着いた依姫は歯を食いしばる。

真王「まあ、しばらくは此処でゆっくりして行ってくれ」

紫「ええ…それで…聞きたいんだけど…」

依姫「この猫達は一体?;」

真王「さあ?」

真王の言葉に紫は頷いた後に依姫が自分の足元にいる猫達を指し、真王はそう返す。

教室にて…

言葉「あわわ…」

世界「どうやったら猫が胸に挟まるの!?!」

誠「器用な…」

ムッツリーニ「……………ちょっと嬉しい」

明久「ムッツリーニは猫が好きだね」

13話の時より沢山の猫がいて、言葉の胸に猫が挟まって世界がツッコミ、誠は冷や汗を掻き、ムッツリーニは猫ともふもふしてほんわかしていて明久はそう言う。

メディスン「コンパロコンパロ〜凄いね」

幽香「ホントね」

天子「／／／」

リグル「幽香さん！メディスンの相手しながら天子さん踏んでる！それで思いつきり行き掛ける！！」

サトシ「天子が死ぬって！」

幽香&天子「それはない」

ミステリア「異口同音で返した！？」

ルーミア「やれやれ」

メディスンを抱き上げ、天子を踏む幽香にリグルはそう言い、サトシがそう言うつと踏まれていた天子と共に幽香はそれを否定してミス

ティアは叫び、頭を振った後にルーミアは紅茶を飲む。

スマハツでのリグルとルーミアはそれぞれ大人の姿になってます。

美鈴「zzzzzzzz」

椛（東方）「わふう… zzzzzz」

咲夜「……………」

鈴仙「さっ、咲夜さん、血の涙出てますよ；」

こちらは座って寝ている美鈴とそんな美鈴の周りに大量の猫が寝ていて、美鈴の膝に器用に丸まって眠る椛（東方）がいて、それに咲夜は血の涙を流し、鈴仙が慌てる。

スマハツでの東方だと、美鈴は鈴仙、咲夜、妖夢、椛のメンバーに好意を寄せられているのだ。

なお、遠い場所で感じ取った妖夢がいきなり血の涙を流したのに呪術王側のメンバーがぎょつとしたのかは知らない。

霊夢「ああもう、のんびりしすぎよあいつ等…」

魔理沙「流石に今回はしょうがないぜ霊夢」

空「そうそう、敵の場所が分かんないや動けないって」

ソロ「だな」

猫が2本脚で立って踊り、それに衣玖と一緒に踊ってる橙を文やはたてから取ったカメラと携帯で取ってる鼻血を流した藍を見てばやく霊夢に魔理沙はそう言い、空とさつきまで変身してたが暖房器具をオンにしたので解除して猫に埋もれてるソロは同意する。

にとり「色々面白いね」

雛「そうね」

パチュリー「むきゅ…ライバルないと張り合いがないわね」

小悪魔「こあゝアリスさん大丈夫でしょうかね？」

それにとりはそう言い、雛も同意した後にパチュリーが此処にいないアリスにそう吹き、小悪魔がそう言う。

ルイーダ「兄さんどうする?」

マリオ「また飼い主探しと預かりだな…」

ソニック「色々大変だな」

その光景にルイーダは聞き、マリオがそう言うのとソニックは苦笑しながらそう言う。

その後、飼い猫は送り届け、後は育てる事になったのであった。

第33話：猫猫猫猫猫猫猫猫…（後書き）

リユカ「と言う訳でなめ猫さんからのリクエスト話でした」

ネス「いや〜今回も猫猫だったね〜」

オリマー「倍いたけどね」

ギル「ぷっ」

クツパ「次回を待ってるのだ！」

第34話：ソロVSノア（前書き）

スネーク「光を継ぐ者からのリクエストだ」

ネス「タイトル通り」

リュカ「どうなるかな？」

第34話：ソロVSノア

とある日

オリマー「ああ！あれ！！」

魔理沙「なんじゃありゃあ！？」

超次元学園の空中に何かが現れ、それにオリマーと魔理沙は驚く。

紫「あれは…時空を割ってるわね」

霊夢「誰よそれやったのよ？」

扇で口元を隠して言う紫に霊夢が聞いた後に…

そこからウルトラマンノアとダークメフィストが出てくる。

ソロ「ウルトラマンノアにダークメフィスト！？」

零斗「シンゴ？」

シンゴ「此处にいますよ…」

驚くソロの隣で零斗が呟き、シンゴが否定した後に2人の巨人は着地すると光と闇に包まれ、人間サイズになるとノアはネクススにダークメフィストは溝呂木になる。

ソロ「あんたは？」

ネクサス「私は古代　光をあの世界に送った者だ」

溝呂木「俺はこいつに審判役で引っ張られて来た」

ソロの問いにネクサスはそう言い、溝呂木はどこことなく疲れた表情で言う。

チルノ「審判役って？」

ネクサス「私達が此処に来た理由はソロ、光に本来の力を取り戻すきっかけを作った君と勝負する為に来たのだ」

ソロ「おもしれ！ムツツリー二がなったネクサスと戦った事があるが本人と戦えるのは光栄だぜ！」

にとり「んじゃあ準備するね」

チルノの問いにネクサスはそう答えるとソロは右手を左掌にぶつけパンと鳴らすとにとりがそう言って何かの機械を取り出すと操作し、その機械から光が出ると学園を包む。

ネクサス「これは？」

にとり「私特性、ウルトラフィールドだよ、この中にいればウルトラ戦士も普通に何時もの姿でいられるよ」

ネクサス「それは便利だな」

ソロ「んじゃあやるか！」

そう言うと同時にソロはウルトラマンゼロになると構え、ネクサスも構える。

溝呂木「それじゃあ…準備良いか？」

ゼロ「勿論！」

ネクサス「同じく」

確認の問いを2人にした後に溝呂木が始め！と言った瞬間に2人のコブシがぶつかりあった。

ネクサス「ハッ！」

ゼロ「デヤッ！」

それぞれ来るパンチを払いあつたり、キックをぶつけあつて行く。

ゼロ「ダッ！」

ネクサス「タッ！」

ネクサスの回し蹴りを避けた後にゼロはしゃがんだ後のローキックでネクサスの足を狙うがネクサスはキックを放った体制のままジャンプしてかわす。

ゼロ「デヤッ！」

ネクサス「ダッ！」

離れた後にゼロはワイドゼロショット、ネクサスはクロスレイシュトロームを同時に放つとぶつかり合い、中央で爆発する。

ネクサス「むんっ！」

ゼロ「いくぜ！」

その後にネクサスはジュネツスになり、ゼロはゼロスラッガーを胸の前に構えるとゼロスラッガーが光り輝き、胸に星の付いた青き鎧、ゼロスラッガーギア・スーパフォームを装着するとパンチのラッシュを仕掛ける。

ネクサス「コアインパルス！！」

ゼロSF「エメリウムスタービーム！！」

お互いに胸から光線を放ち、それも中央でぶつかり合つと爆発し、今度はお互いに吹っ飛ぶ。

ネクサス「ぐっっ！！」

ゼロSF「やつぱすげえな！！」

お互いに地面に背中をぶつけた後に体制を整えるとネクサスJはジュネツスブルーに、ゼロSFはゼロスラッガーギアをスーパフォームから銀色の鎧、キーパーフォームへと変える。

ネクサスJB「はっ！！」

ゼロKF「だりゃ!」

スピードで攻めるネクサスJBにゼロKFはカウンターを狙って攻めて行く。

チルノ「凄いぶつかり合いだね」

紫「流石はウルトラ戦士の神ね…」

それにチルノはそう言い、紫は評価する。

ゼロKF「これで決めるぜ!」

ネクサスJB「ああ!」

ゼロKFはリフレクションブレードにエネルギーを集中し、ネクサスJBはアローアームドネクサスから光の弓と光の剣アローレイ・シュトロームソードを発生させ、ファイナルモードを形成する。

ゼロKF「食らえ!!」

ネクサスJB「オーバーアローレイ・シュトローム!!」

ゼロKFがリフレクションブレードから光線を放つと共にネクサスJBは巨大な鳥のような光の矢を発射し、それが中央でぶつかり合い、爆風が起こる。

スネーク「勝敗は!」

魔理沙「どうなったんだぜ!?!」

大妖精「…」

静葉「晴れて行くわ！」

それぞれ吹き飛ばされない様に踏ん張る中、煙が晴れて行き…

ゼロKF&ネクサスJB「……………」

ソードモードにしたアローアームドネクサスをゼロKFの喉元に突き付けるネクサスJBの姿があった。

溝呂木「勝負ありだな…」

ゼロ「ああ…俺の負けだ。やっぱりすげえな」

ネクサス「いや、私もなかなか危なかったよ」

溝呂木の言葉と共にゼロはスラッガーギアを解除してゼロスラッガーを頭に戻しながらそう言い、アンフアンスに戻ったネクサスがそう言う。

百華「なあ、もう1回審判を勤めて貰いたいんだが…」

溝呂木「何だ？お前もノアもといネクサスと戦いたいのか？」

肩を揉んでる溝呂木に百華が話しかけ、そう聞かれると首を横に振った後…

百華「マリオ！丁度良い機会だからお前にタイムマン勝負を申し込む

「!!」

ズビシッ!とマリオを指して百華がそう申し出る。

次回に続く。

ツッコミメンバー「次回かよ!!」

第34話：ソロVSノア（後書き）

デステイニー「なんだよ最後！」

丁度良いと思ったので真王さんのリクエストに繋げ様と思いました。

スネーク「さよか…」

ネス「次回を楽しみにしててね」

第35話：百華とタイムン（前書き）

スネーク「真王からのリクエスト話だ」

ネス「いや〜どうなるんだろっね〜」

リュカ「そっだね〜」

百華「だりやりやりやりやりやりやりやりやりやりやりや！！」

萃香「いや〜凄いね〜」

神奈子「確かにそうだね」

早苗「（）と言うか展開がウイングさんの言う通りドラゴンボールみたいになってますよ；）」

相手の来る攻撃を払ったり、僅かな動作で避けるマリオと百華に萃香と神奈子は感嘆し、早苗は冷や汗を掻く。

そう言う観客の言葉を気にせず、2人はお互いに目の前にいる対戦相手に拳を振る。

どちらとも未だにダメージがなく、どっちともフェイントを入れようとすが見抜かれて決まらない。

フォックス「なかなか決まらないな」

ヨッシー「ホントですね」

ガノン「大根とキュウリお待ち」

にとり「おっ、来たよ雛」

雛「ありがとうね」

咲夜「はい、美鈴」

椛（東方）「わふう」

鈴仙「あの…人参どうぞ」

美鈴「あの…一斉には…」

パチュリー「はい、どうぞ」

魔理沙「サンキュー」

ルーミア「さて、同士が戻るまでたっぷり補給するか」

ミスティア「アーーーーー」

それをとうとうおでんを食べながらメンバーは観戦する。

ちなみに、この時、またも感じ取った妖夢にアリスと幽々子が血涙を流して呪術王側をぎよつとさせたかは知らない。

マリオ「いくぞおおおおおおお！！！！」

百華「おおおおおおおおお！！！！」

そう言った後に2人は力の限り、パンチを繰り出す。

繰り出されたパンチは同時に相手の頬に命中する。

ソロ「おっ！？」

ソラ「あれは！」

ネクサス「クロスカウンター……」

誰もが驚き、ネクサスが言った瞬間、マリオは膝を付く。

それに誰もがマリオが負けたと思った瞬間……

溝呂木「勝者、マリオ」

溝呂木の言葉に一部を除いて驚き、フラフラながら立ち上がるマリオを尻目にスネークが近寄り、百華を見て驚く。

スネーク「こいつ……そのまんまで気絶している」

マリオ「危なかった……今回は運が良かった」

スネークの言葉の後にマリオは口を拭いながらそう言う。

その後、ネクサスはノアに戻り、帰る直前……

ノア「いい忘れていたことがある。溝呂木をそちらの学園で教師にしてもらいたい。彼はザギに人生を狂わされたから、その償いをしたいのだ。」

真王にそう言い、それに真王は快く了承し、それに満足げにノアは頷いた後に帰って言った。

新たな教師も加わった超次元学園は賑やかになったのであった。

第35話：百華とタイムン（後書き）

リュカ「と言う訳で真王さんからのリクエスト話でした」

ネス「いや〜凄いバトルだったね」

フォックス「ホントだよな」

クツパ「次回を待ってるのだ!!」

第36話：楓の心配（前書き）

スネーク「ユートピアからのリクエストだ」

ネス「ホントね……」

リュカ「……」

第36話：楓の心配

楓「はあ……」

楓は最近、楓はナンパする者達を成敗する椀を心配していた。

理由は椀が何かに巻き込まれないか不安だったからだ。

椀「はあ……」

椀（東方）「わふう？」

そしてその本人である椀も椀で楓が何時もナンパされる為心配していた。

無意識に首を傾げる椀（東方）の頭を撫でていた。

霊夢「ねえ、何であいつ等ため息付いてるの？」

それを見ていた霊夢がそう聞く。

新八「あゝ…楓ちゃんって良くナンパされるんだよ」

ルイージ「それを良く椀ちゃんが成敗してるんだよ…」

魔理沙「おゝある意味お姫様を守るナイトだな」

新八とルイージの説明に魔理沙は笑って言う。

ルイージ「きつと2人はそれぞれ互いに心配してるんだよ」

霊夢「お互いにお互いを心配ね…」

魔理沙「何かそれ関係で着そうだな…」

ルイージの言葉に霊夢は頬をポリポリし、魔理沙がそう言うが、この後、その魔理沙の予感当たっていた。

楓と椛は二人で買い物に行っていた。

椛「今日の料理は何？」

楓「そうだね…」

そう会話していると…

???「よう、この前良くもやってくれたな」

椛「あつ、あんたは！この前の！」

目の前に立った前に楓をナンパした集団の1人に椛は楓を守ろうとした時…

楓「きゃっ!」

椛「楓!?!ん!?!」

後ろにいた楓の悲鳴に椛が振り向いた瞬間に口を何かで覆われたと認識した瞬間に気を失う。

ナンパ「よし、連れて行くぞ」

それを見た後に集団は楓と椛を連れて行く。

???「おや？幻想卿に行ったら変な奴等がいたからボコツて魔理沙に会いに行こうと霖之助に聞いたこの世界に着いて早々に誘拐を見るとはね…ちよっくら成敗しに行きますか」

それを1人の女性が見ている、笑顔で言った後にその集団を追った。

第36話：楓の心配（後書き）

リユカ「と言う訳でユートピアさんからのリクエスト話でした！」

スネーク「ある意味珍しいな椋が誘拐されるの」

フォックス「だな」

クツパ「ってか最後に出たの……」

ワリオ「次回を待ってるよ！」

第37話：椛の逆鱗（前書き）

スネーク「ユートピアのリクエスト続きだ！」

ネス「やばいね」

リュカ「うん…」

オリマー「始まるよ！」

第37話：椛の逆鱗

セレナは走っていた。

丁度楓と椛が誘拐される所を見かけ、追跡しているのだ。

マリオ達にはもう連絡済で後から来る。

????「ちよいとそこのお嬢ちゃん」

そんなセレナに声をかける者がいて、セレナは立ち止まってした方を見る。

そこには女性がいた。

セレナ「あなた何者？」

女性 魅魔「あたしゃちよいと弟子に会いに来た悪霊の魅魔さ、見るからにあんたはさつき連れて行かれた子の知り合いだろ？一緒にあの集団をぶつとばすからには声をかけようと思ってるね」

警戒するセレナに魅魔は笑って名を名乗り、セレナに話しかけた理由を言う。

魅魔「どうだい？」

セレナ「…そうね。こんな所で話しても仕方ないし良いわよ」

魅魔「話が早くて助かるよ」

そう言うと2人は駆け出す。

廃工場に連れ込まれた二人はそれぞれ別々の場所に連れ込まれていた。

椀「くっ！」

ナンパ2「おらおら！」

ナンパ1「今までのお返しだ！」

椀は数十人にリンチされていた。

楓「何度も言いますが断ります！」

リーダー「ホントに強情な娘だな！」

楓はリーダー格の男に自分の女になれと言われ断る度に暴力を振るわれる。

リーダー「強情な女だ！お前等！こいつもやれ！」

楓「ああ！」

椀「（楓！！）」

何十回か繰り返すと楓も椀と一緒にリンチされ出し椀の逆鱗に触れた。

その瞬間…

????「悪霊符『魅魔スパーク』」

ドゴーーーーー！！

集団半数「ぎゃあああああああ！！」

声と共に外からの黒い光線が放たれ、2人をリンチしていた半数が飲み込まれる。

それに残っていた者が驚いている間に楓と椛をヴォルフレイムハートが救い出す。

楓「セレナさん…」

ヴォルフレイムハート「大丈夫2人共？」

椛「大丈夫よ…こっちは今、あいつ等をぶちのめしたいから…」

魅魔「いや、過激な女の子だね、魅魔さんはそう言う子は嫌いじゃないね」

距離を取って安否を聞くヴォルフレイムハートに椛は怒り爆発な顔で良い、魅魔が笑顔で言う。

椛の怒りの逆襲が始まる。

第37話：椛の逆鱗（後書き）

リユカ「と言う訳でユートピアさんのリクエスト話はまだ続きます」

ネス「魅魔さん登場」

クツパ「うむ…」

ワリオ「次回を待ってるよ！」

第38話：逆襲の権（前書き）

スネーク「ユートピアのリクエスト続きだ」

フォックス「だな」

リンク「それぞれね」

第38話：逆襲の椀

椀「はああああああ!!」

魅魔「ほらほらほら!どうしたんだい」

ヴォルフレイムハート「はっ!」

ナンパ男達を成敗していく椀達:

マリオ「大丈夫か!」

そこにマリオ達が来る。

魔理沙「みつ、魅魔様!?何で此处にいるんだぜ!？」

魅魔「いや、霊夢と魔梨沙と旅行から帰ったら幻想郷に何か前に侵略しようとして来たヤプールとはまた違った変な奴等がうるついてたから3割が私が、他はあの2人が殲滅中で、私は魔理沙に会いに来たのさ」

霊夢「ええ...あのマリオ以上の母親が...」

魔理沙「良くやるぞお袋...魔女引退したって言ったわりにゃあ健在してるよな...」

紫「ホントね...」

ソロ「ホント凄いなあの2人」

ソラ「うんうん」

チルノ「サイキョーだよねあの2人」

驚いて聞く魔理沙に魅魔はかんらかんらと笑って言い、霊夢と魔理沙と紫は脱力し、ソロとソラは暴れまくってるぜだろう2人を思い浮かべて頷き、チルノは呆れて言う。

ソニック「Hey、楓の姿がないんだが？」

桜「しまった！楓！！」

その言葉に暴れまくっていた3人は楓以外にリーダー格がいな事に気付くと桜は慌て始めた。

一方の楓はリーダー格に車に乗せられ裏新宿へ連れられて行った。

楓「~~~~~！！」

リーダー「黙ってる！」

楓「！（桜：：）」

暴れる楓は腹を殴られ気絶した。

マリオ「落ち着け椛」

ルイージ「そうだよ！その体じゃあ無茶だよ！」

椛は傷ついた体で楓を探そうとしたが皆に止められていた。

椛「楓の為ならどこまでもやれる!!」

椛フォーゼドライバー「3、2、1……」

椛「変身！」

そう言った後にフォーゼに変身する。

魅魔「ようし！魅魔さん一肌脱ぐよ！白犬ちゃん、能力よろしく！」

椛（東方）「わう！白狼天狗です！………」

それに魅魔はそう言い、椛（東方）がそう言った後に能力を発動する。

椛（東方）「あっちの方向に楓さんを乗せた車が走ってます！」

銀次「あっちって…裏新宿の方向だよ！」

椛フォーゼ「あっちね！」

椛フォーゼドライバー「ロケット・オン」

椛（東方）の言葉に銀次は驚いて言い、椛フォーゼはロケットを使って椛（東方）の指した方へ飛ぶ。

マリオ「俺達も行くぞ！」

銀次「ええつと…そうだ！」

それにマリオが言った後に椛フォーゼを追い、銀次はある場所に電話をする。

第38話：逆襲の権（後書き）

リュカ「と言う訳でユートピアさんのリクエスト話です！」

ネス「いや〜どれ位で終わるかね…」

クツパ「うむ…」

ワリオ「次回を待ってるよ！」

第39話：楓救出（前書き）

スネーク「ユートピアのリクエスト話だ」

フォックス「だな」

オリマー「それで出て来るのは……」

第39話：楓救出

リーダー「さあせ、あんまりいい場所に連れ込むか…」

車を運転しながらリーダーは気絶した楓を見て行った後に前を見ると1人の男が立っていた。

気づいた時にリーダーは急ブレーキを踏み、男の後1歩の所で止まる。

リーダー「何だ？自殺願望者か？」

それにリーダーがそう呟いた後に気が遠くなった。

蛮「たくっ、いきなり過ぎるんだよあいつは…」

卑弥呼「まあまあ」

口元をハンカチで押さえた蛮はそうぼやき、マスクを付けた卑弥呼がそう宥める。

蛮「さてと…奪還させて貰うぜ女の子…まあ、聞こえてねえだろうが…」

扉を開けて楓を卑弥呼が抱えた後に蛮が気を失ったリーダーにそう言う。

そう、銀次が電話したのは蛮の所であった。

魅魔「此処は面白い奴等がいるね〜しばらくいさせて貰うよ〜」

魔理沙「マジで…」

ちなみに魅魔が超次元学園にしばらくいる事になったのであった。

第39話：楓救出（後書き）

リュカ「と言う訳でユートピアさんからのリクエスト話でした」

ネス「いや〜なかなかね」

クツパ「大変だったのだ…」

オリマー「次回を楽しみにしててね」

第40話：未知なる少年からの警告と銀次の宝クジー発逆転（前書き）

スネーク「ヴァーラガルザからのリクエストだ」

フォックス「ホントな…」

ネス「どうなるんだろうね…」

第40話：未知なる少年からの警告と銀次の宝クジ一発逆転

霊夢「はあ…神社大丈夫かな…」

萃香「そうだね…あそこは宴会の場所だし」

ため息を吐いて神社の心配をする霊夢に萃香は同意して酒を飲む。

なお、霊夢はゼットンにより神社が崩壊して母親が今立て直してるの知らない。(これはヴァーラガルザさんの感想を参照)

魔理沙「ん？あれ誰だぜ？」

マリオ「？…あいつはMAKUBEX！」

ふと、外を見て人影を見つけた魔理沙にマリオもならって見るとその人物に驚く。

MAKUBEX「来たか…」

朔羅と共に目の前に来たマリオ達を見る。

アーカード「なぜ無限城の主であるお前が此処に？」

MAKUBEX「君達に警告を伝えに来た」

霊夢「警告？」

天子「どう言う事？」

アーカードの問いに答えたMAKUBEXの言葉に霊夢と天子は首を傾げる。

MAKUBEX「内容は…」

そんな事がされてるのを知らない銀次はアーカードが作った借金と壱の借金を返済するため有り金（しかも壱の金も含めて）全部を使って、宝くじを買おうとしていた。

卑弥呼「それにしてもいきなりね…何でアーカードのは分かるけど、何で壱の借金まで返済するの？そんなに長い付き合いじゃないの？」

銀次「いや、前に楓ちゃんを助けて貰ったし…それにいると楽しいしね」

銀次が寄り道買いをしない為に見てると壱に言われて来た卑弥呼の問いに銀次は笑って言う。

チルノ「あれ？銀次何しに行くの？」

そこにチルノが来て聞く。

銀次「宝くじを買いに行くんだよ」

チルノ「宝くじ？何それ？」

卑弥呼「簡単に言つなら数字が当たつていれば沢山のお金が貰える
奴よ」

銀次の言つた事に疑問を呟くチルノに卑弥呼はそう言う。

チルノ「おゝそれならあたしもやる！」

そう言つてチルノも宝くじを買う為に2人について行くのであった。

第40話：未知なる少年からの警告と銀次の宝クジ一発逆転（後書き）

リュカ「と言う訳でヴァーラガルザさんのリクエスト話です」

ネス「さてさて、2人が買いに行く宝くじはどうなるのやら」

クツパ「後、警告もなのだ」

オリマー「次回を待ってね！」

第41話：宝クジの結果は…（前書き）

スネーク「ヴァーラガルザのリクエスト続きだ」

ネス「主に後半のだけど」

オリマー「どうなるかな」

第41話：宝くじの結果は…

銀次「あそこだあそこ」

チルノ「おお、大当たり狙うぞ」

卑弥呼「（そう簡単に当たらないのが宝くじなんだけどね）」

宝くじ売ってる場所を見つけ、銀次はそう言っているとチルノは勢い良く走って行き、その背中を見ながら卑弥呼はそう呟いた。

チルノは試しに1枚で銀次は全て使って宝くじを数枚買った。

チルノ「当たると良いね」

銀次「そうだね…」

卑弥呼「（ホントに大丈夫かな…）」

ウキウキ歩くチルノと緊張する銀次に卑弥呼は心配していると3人の前を何かが慌てて通り過ぎる。

それに3人が首を傾げた後に赤と青の風が通り過ぎる。

ルイージ「はあはあ…」

そこにルイージが息を吐いて来た。

銀次「あれルー君（ルイージの事）？どうしたの？」

チルノ「ってかさっきの何？」

ルイーダ「あつ、2人共…ちよつとね。超次元学園にメガバツテン軍団が来て、紫さんと映姫さんを渡せと言って…兄さんのキノコとソニックのチリドックを攻撃して2人の怒りに触れてさ…」

銀次とチルノの問いにルイーダは息を整えた後に説明した後、遠くで爆発音と共にメガバツテン軍団と思われる叫び声が聞こえて来る。

チルノ「2人共キノコとチリドックが大好物だしね」

銀次「そうだね」

それを見てチルノと銀次はそう言う。

そして後日…

チルノ「レティ〜レティ〜あたい、宝くじの二等当たったよ」

レティ「あら〜良かったわね」

当たった事にはしゃぐチルノにレティは笑って言う。

タレ銀「マジ？」

壘「マジだ…3億円の1等当たった…お前、どんなマジック使ったんだよ」

そしてこちらは信じられない顔でタレ銀は聞き、電話先の蛮も信じられないと含んだ声で答える。

タレ銀「けどこれで…」

蛮『だな…』

その後、2人の借金は宝くじの3分の1で消えたのであった。

第41話：宝クジの結果は…（後書き）

ネス「と言う訳でヴァーラガルザさんからのリクエスト話でした」

リュカ「凄いね！」

フォックス「奇跡起きたな」

クツパ「次回を待ってるのだ！」

第42話：断蒼刀の恐怖（前書き）

スネーク「ケンからのリクエストだ」

ネス「統夜さんに関する事だね」

リュカ「だね」

第42話：断蒼刀の恐怖

マリオ「ほう…これが真の力を発揮した時の状態か…」

統夜「ああ」

ルイージ「色々と凄いな」

フォックス「そうだな」

全身から蒼炎を発する統夜を見てマリオは眩き、ルイージも眩いた後にフォックスが同意する。

そんな離れた場所で転生者メンバーは断蒼刀を見ていた。

チルノ「何か他の人の見る目が怖がってるね」

アーカード「無理もないだろ」

ギル「ぷっ？」

そんな転生者メンバーを見て言うチルノにアーカードは肩を竦め、隣にいたギルは首を傾げる。

統夜が持つてるのは蒼炎の真の力が発揮され、転生者及び神を普通の存在にするだけでなく、魂を破壊する力を持つ魔剣であり妖刀の魔妖刀の断蒼刀なのだ。

それに転生者メンバーは恐怖を抱いてるのだ。

銀時「確かにこええな…」

ネプテューヌ「そうだよね…」

アイエフ「女神も対象に入るのかしらね…」

それ以外に転生者だけでなく話を聞いた銀時やネプテューヌ達も統夜の持つ断蒼刀に恐怖を抱いていたが…

ソラ「すごい綺麗だよな…」

ソロ「だな」

輝夜「確かに綺麗よね…」

豊姫「そうね…」

スマハツメンバーは普通に見ていた。

新八「いやいやいや！怖くないんですか!!」

神奈子「はっはっはっ！そんなので怖がってたら神が廃るよ…」

諏訪湖「そうだね…ってか統夜が闇雲に振り回す訳ないしね…」

スネーク「そうだな、統夜はマリオと同じだしな」

ツッコミを入れる新八に守矢2柱は笑って言い、スネークがそう言う。

ソロ「なあなあ、俺も抜いても良いか？」

チルノ「あたいま」

レヴィ「ボクもボクも！！」

統夜「ああ、良いぞ」

上の3人にせがまれ、統夜は断蒼刀を鞘に戻した後に最初にレヴィに渡す。

レヴィ「んじゃあ…」

ワクワクとした表情でレヴィは断蒼刀を抜くが普通であつた。

統夜「まあ、真の力は俺のような蒼炎使いにしか出ないからな」

レイン「どんまいですお嬢」

ぶーと頬を膨らませるレヴィに統夜は苦笑して言い、レインが励ます。

ソロ「次は俺だな」

近藤「流石にソロ殿でも無理じゃないか？」

レヴィから鞘に収めた断蒼刀を受け取るソロに近藤がそう言う。

ソロ「まあ、それでも試してみたいもんだからな」

笑ってソロはそう言いながら断蒼刀を抜くと…

カッ！

一同「!？」

ソロが抜いた瞬間に全身に蒼い光が発する、それに全員が驚いた後にソロは鞘へ戻す。

遊輔「今…出たな？」

統夜「いや…蒼炎とは何か微妙に…ソロ、もう1回抜いてくれ」

ソロ「あつ、ああ…」

恐る恐る聞く遊輔に統夜は顔を横に振った後にソロにそう言い、言われたソロは抜くと再び、蒼い光が発する。

統夜「ん〜…これは蒼炎に似てるがただの蒼い光だな…けれど蒼炎に劣るが転生者と神のチート能力を無効には出来るな…」

ソロ「何で出てるんだ？」

霊夢「あら？ウルティメイトブレスレットが光ってない？」

良く見てそう言う統夜にソロは聞き、霊夢がソロの左手首にあるウルティメイトブレスレットを指す。

言われてソロを見るとウルティメイトブレスレットの青い部分が光

っついて、鞘に戻すと光るのを止め、また抜くと光り輝く。

今度はウルティメイトブレスレットを外してやるとレヴィと同じであつた

統夜「成る程な…ウルティメイトブレスレットを装着している間は出るって事か…」

チルノ「ねえねえ！次あたい！」

納得する統夜にチルノがそう言う。

レヴィ「どうせボクと同じでしょ」

拗ねるレヴィにチルノは断蒼刀を抜くと…

カツ！

一同「うそおおおん！！？」

ソロが抜いた時と同じ蒼い光を発する。

チルノ「あたいつては凄い！！」

ヒョウリユウケン「胸張る所じゃないと思うぞ…」

紫「(あ〜)…何か分かる気がする…彼女は神の力を受けて成長したしね…」

むふっ！と胸を張るチルノに紫は微妙な顔をして、なぜチルノがソ

口と同じ蒼い光を発した理由を察知する。

その後、マリオ達の言葉もあって、転生者メンバーや銀時達は少なくとも恐怖が少し抜けたのであった。

第42話：断蒼刀の恐怖（後書き）

リュカ「と言う訳でケンさんからのリクエスト話でした」

ネス「いや〜凄いやね〜統夜さんの蒼炎って」

スネーク「そうだな」

クツパ「うむ…次回を待ってるのだ！」

第43話：脅威！要塞戦車バルドーマ（前書き）

スネーク「龍の骨からのリクエストだ！」

ネス「いやゝ戦車とはねゝ」

オリマー「しかも凄いらしいね」

第43話：脅威！要塞戦車バルドーマ

セイタ「はっ、はっ！」

逃げる人の波をセイタは掻き分けて走っていた。

なぜこうなっているかと言うとセイタはニュースで街で大型戦車が暴走していると分かり、向かっているのだ。

セイタ「やっぱり……」

駆けつけたセイタは目の前の戦車を見て呟く。

戦車は要塞戦車バルドーマ、セイタの知り合いである者達が止めた戦車である。

話は聞いていたがセイタは目の前の戦車に構える。

マリオ「なかなか厄介な戦車だな」

ルイージ「ホントにデカッ」

ギル「ぷっ！」

そこにマリオ達も駆けつける。

マリオ「康太！」

ネクサスJF「了承」

マリオはネクサス」に話しかけるとネクサス」はメタフィールドを展開する。

セイタ「これは…」

ソロ「ネクサスが使える特別な空間だ」

それにセイタは自分達しか気配がなくなった周りを見て、ソロがそう言う。

その後にバルドーマは砲弾の嵐を放つ。

それにマリオ達は避ける。

セイタ「凄い弾幕だ…」

ソロ「だが、まだまだだぜ！」

ソロ「俺達はこれより激しいのを見てるからな」

それにセイタは回避しながら吹き、ソロとソラはのらりくらりとかわしながら近づく。

ソロ「おりゃあ…」

ソラ「よいしょ…」

最初にソロとソラが砲台を破壊する。

レヴィ「雷符！雷光斬！！」

チルノ「氷龍符！アイシクルドラゴン！！」

続けてレヴィとチルノが放った雷の刃と氷の龍が別の砲台を破壊する。

セイタ「うおおおお！！」

そこにグラディエーターアーマーを纏ったセイタが残っていた砲台を破壊する。

ソニック「一気にやったな」

マリオ「そうだな」

妹紅「そんじゃあ私も少しばかり気温を上げますか」

ソニックとマリオが銃撃を跳ね返してる隣で妹紅がそう言うと両手に炎を纏い突撃し、パンチのラッシュがバルドーマを破壊して行き、一通りを終えた後に背を向け、手をパンと鳴らす。

妹紅「凱風快晴フシヤマヴォルケイノ」

静かに技名を言うと後ろでバルドーマは爆発し、妹紅の背中に鳳凰が一瞬見える。

セイタ「凄い……」

輝夜「もこた〜ん！サイコー！」

その光景にセイタは眩き、輝夜がキヤーと言いながら妹紅に抱き付く。

あつ！待てと慧音も続く。

妹紅を見た後にセイタは自分の左手を見る。

セイタ「（世界はやっぱり広いな…頑張らないと）」

ぐっと握り締め、さらなる精進を決意する。

第43話：脅威！要塞戦車バルドーマ（後書き）

リュカ「と言う訳で龍の骨さんとのコラボでした」

オリマー「最後は妹紅さんが持って行ったね！」

スネーク「ホントだな」

ネス「次回を待ってね！」

第44話：かがやくパンジーさん（前書き）

スネーク「真王さんからのリクエストだ」

オリマー「かがやくパンジーさんか」

ネス「色々大変だよね」

第44話：かがやくパンジーさん

マリオ「なかなか見つからないな」

ルイージ「そうだね」

森の中を歩きながらマリオは呟き、ルイージはそれに同意する。

ある日、下の依頼が超次元学園に来た

依頼名：おばあちゃんを助けて！

一人暮らしの女の子「おばあちゃんの病気が治らないの！お医者さんに見せても原因が分からないみたいだけど… たった一つ解決するものがあるの！パンジーフォレストの『かがやくパンジーさん』の蜜を取ってくることなの！でもそのパンジーさん強いし足が速いし硬いしとっても希少種なの！でも特徴はパンジーさんが白銀に輝いているの！お願い！おばあちゃんを助けて！」

と言う事でバンジーフォレストに来たのだ。

ソロ「それにしても白銀に輝いてるなら意外と見つかると思ったが…」

ソラ「希少種って言われるだけに見つからないな」

溝呂木「そりゃあそうだろう…」

チルノ「どこにいるんだろうね」

ソニック「だな」

一緒に付いて来ていたソロとソラに溝呂木とチルノ、ソニックも周りを見ながらがやくパンジーさんを探す。

溝呂木「生息場所が此処のどこにいるのかがあれば分かり易いんだが…」

マリオ「ないからこと、自力で探さないとな…」

ソニック「広いけど見つかるのは普通のや金色に輝く奴だよな…」

溝呂木の言葉にマリオは肩を竦めて言い、ソニックはさっきまで見つけたパンジーさんを思い出して言う。

ビーストハート「お〜い」

コンパ「手伝いに来ました〜」

そんなメンバーの所にコンパを抱き抱えたビーストハートが来る。

ソラ「コンパにアイエフ！」

コンパ「探すのに難航してるだろうと思いましたが〜」

ソロ「来てくれたのは嬉しいけどよ…」

溝呂木「分かるのか？」

ビーストハート「大丈夫よ」

コンパがのほほんと言い、ソロと溝呂木の疑問にビーストハートは胸を張って言うと言をクンクンさせる。

マリオ「成る程…匂いか…」

コンパ「はい〜アイちゃん、女神化していると五感の良さが上がるんですよ〜」

チルノ「お〜〜凄いな〜」

溝呂木「獣はどれも敏感だからな…」

ビーストハートのやってる行動にマリオが気づき、コンパはそう言い、入った後に情報を入れていた溝呂木は思い出して言う。

ビーストハート「こっちよ！」

ソニック「よっし！行きますか！」

コンパ「レッツゴーです！」

見つけたのかコンパを抱き抱えた後に駆け出すビーストハートの後にソニックと続く。

そして走っていると目の前に白銀に光るかがやくパンジーさんが出た。

マリオ「いたぞー！」

溝呂木「あれがターゲットだな」

ソニック「んじゃあとつと片付けるぜ！」

マリオと溝呂木が言った後にソニックが駆け出し、カリバーンとデルフで攻撃する。

硬いと聞いているので逃げない様にソニックは連続で攻撃して行き、その中にマリオとビーストハートも加わり……

マリオ「ゲット！」

かがやくパンジーさんの蜜が入った瓶を持ち上げてマリオは言う。

コンパ「やりましたね」

ソロ「ってかコンパ……何で来たんだ？」

ルイーザ「あ……けど、患者さんに飲ませるのに良いんじゃない」

喜ぶコンパにソロは見て聞き、ルイーザがそうフォローする。

その後、依頼者のおばあちゃんの病気は治ったのであった。

第44話：かがやくパンジーさん（後書き）

リュカ「と言う訳で真王さんからのリクエスト話でした」

フォックス「ビーストハート活躍したな」

スネーク「しかし銀色か…」

ネス「次回を待ってね！」

第45話：飛んでけ何処までも（前書き）

スネーク「十六夜 白爛からのリクエストだ」

フォックス「ミニゲームだな」

リンク「ですね」

オリマー「どうなるかな？」

第45話：飛んで何処までも

カイト「ふう…」

ミリア「これって難しいね」

カイトは汗を拭い、その隣でミリアがそう言う。

とあるダンジョンに来たメンバーだがそこにクツパを模したハンマーがあつたのでなぜか『クツパハンマー投げ』をする事になった。

各々がいろんな記録をはたき出していた。

ルイージ「皆凄いよね」

カービィ「そうだね」

ソラ「なかなか良い距離出せないな」

ソロ「だな」

銀時「やれやれ」

新八「後投げてないのは？」

神楽「セレナとマリオだけアルな」

周りで各々の感想を言いあっていて、神楽の言葉の後にマリオとセレナはクツパハンマーを構える。

マリオ&セレナ「はああああああああああ！！！！！！！！」

2人共凄い勢いで回りだし、竜巻が出来かねない速度を維持する。

霊夢「何あの速さー！」

魔理沙「うおおおお！！！！吹き飛ばされそうだぜえええ！！！！」

パチュリー「むきゅうううう！！！！」 魔理沙にしがみ付いてる

レミリア「うー！！！！！！！！」 霊夢に抱き付いてる

それに数人が吹き飛ばされかけ、それぞれ踏ん張る。

チルノLOVEズ&レミリア除く霊夢LOVEズ「（ブー！）」

リンク「いきなり何で鼻血！？」

ファルコン・ハート「（見たな…）」

そしていきなり鼻血を吹いたチルノLOVEズと霊夢LOVEズにリンクはツツコミを入れて、お空とフランを抱き抱えたファルコン・ハートは理由を察する。

マリオ&セレナ「オリやああああああああああ！！！！！！！！」

そして、同時に投げ飛ばす。

リユカ「うわぁ…！…！…！…！…！…！」 デンデンで見ている

第45話：飛んでけ何処までも（後書き）

リュカ「と言う訳で十六夜 白爛さんからのリクエスト話でした。」

ネス「いや〜良く飛んだね〜」

クツパ「うむ…」

ワリオ「次回を待ってるよ！」

第46話：最悪の予兆と大食い大会（前書き）

スネーク「ヴァーラガルザからのリクエストだ」

ネス「咲夜さんがね…」

クツパ「始まるのだ！」

第46話：最悪の予兆と大食い大会

咲夜「此処はこれで…後はあそこで買うだけね」

咲夜がレミアアや他の紅魔館メンバーの晩ご飯の買い物をしていた。色々バラバラなので売ってるのも買うのが苦労するのだ。

ふと、咲夜は目を鋭くさせ、荷物を安全な場所に能力を使って置いた後にナイフを構える。

咲夜「いるのは分かってるわ…出て来なさい」

呪術王「おや、分かるか？」

雪彦「……………」

咲夜の言葉に呪術王と操られた雪彦が現れる。

咲夜「とぼけてる所悪いけど、殺気を当てられてたら分かるに決まってるでしょ…と言うか分身で来るなんて…」

呪術王「生意気様、暇ではないからね…ちょっと聞きたいんだが…魂魄妖夢がいきなり血涙流す時あるんだが…心当たりないか？」

ナイフの切っ先を向ける咲夜に呪術王はそう言った後に前起こった不思議な出来事を知ってるか聞く。

それにふっと咲夜は笑うと…

咲夜「さあ？知らないわ」

呪術王「（あつ、これ知ってる。知ってるけど話す気なしだこの人；
）」

とぼける咲夜に呪術王は内心冷や汗を掻いた後に気を取り直す様に顔を横に振る。

呪術王「まつ、まあ、それは今回どうでも良い。行くぞ！」

そう言つと雪彦と呪術王（分身）が咲夜に襲つてきた。

フラン「遅いね咲夜」

お空「うにゆう…あのメイドさんって遅れたりしないもんね」

ファルコン・ハート「だから俺達が探してるんだろっ…」

美鈴「ですね」

フランとお空を肩車するファルコン・ハートと美鈴がまだ帰らない咲夜を探して歩いていた。

美鈴「！？これは…」

ファルコン・ハート「どうした美鈴？…！？これは…」

その時、美鈴はある物を感じ取り、ファルコン・ハートも声をかけ

た後に感じ取る。

そしてフランとお空も感じ取った後に駆け出す。

咲夜「くっ…やるわね…」

着ているメイド服が少しボロボロになり、わき腹を押さえて咲夜は呻く。

あの後咲夜も応戦するが、無残にたたきのめされていた。

呪術王「てこずつたが…これで終わりだよ」

そう言うと同時に2人は駆け出すが…

フラン「禁忌『レーヴァティン』」

そこにフランが現れ、2人を攻撃し、それに2人が避けると…

美鈴「はっ!」

ファルコン・ハート「おりゃあ!」

お空「うにゅ!」

さらに美鈴とファルコン・ハート、お空が追撃する。

咲夜「妹様にあなた達…」

フラン「大丈夫咲夜？」

美鈴「あなたが呪術王さんですね！咲夜さんを傷付けた借りは返させて貰います！」

ファルコン・ハート「だな」

お空「うにゅ！」

呪術王「ってかその子うにゅしか言っていないんだけど！！」

ファルコン・ハート「そこは気にするな！！」

咲夜の前に立って構える4人に呪術王はお空を指してツッコミを入れた後にファルコン・ハートの言葉と共に戦闘が始まる。

カービィ「ふふふふ、大食い大会頂き！」

その頃カービィは戦闘が起こっていると知らずに近くでやっていた大食い大会に参加することになっていた。

楽勝で勝ち続けたが決勝戦の相手が…

トリコ「負けないぜゼブラ！」

ゼブラ「それはこっちの台詞だ」

まさかのトリコとゼブラであった。

カービィ「（この2人、出来る！）」

トリコ「（どんな料理が出るんだろうな）」

ゼブラ「（この小僧…なかなかだな…）」

それぞれ思った後に決勝戦が始まった。

第46話：最悪の予兆と大食い大会（後書き）

リュカ「と言う訳でヴァーラガルザさんのリクエストです」

フォックス「ギャグとシリアスが挟まってるな」

スネーク「そうだな…」

クツパ「どうなるのやら…」

オリマー「次回を待ってね！」

第47話：撃退と大食い大会の結果（前書き）

スネーク「ヴァーラガルザのリクエスト続きだ」

フォックス「だな」

オリマー「始まるよ！」

第47話：撃退と大食い大会の結果

ファルコン・ハート「はっ！」

お空「うにゅー!!」

フラン「いつけ!!」

ファルコン・ハートが前衛を勤め、お空とフランが援護と言つ感じに雪彦と戦っていた。

美鈴「メーリンキック!!」

呪術王「くっ!!」

呪術王に関しては美鈴が単体で挑んでいた。

今もキックをして呪術王を吹き飛ばす。

呪術王「（こいつ…十六夜 咲夜よりかなりやるな…ってかさつき見えたのなんだ？）」

構える美鈴に呪術王はそう心の中で呟きながらさつき見えた時を守護する仮面ライダーに疑問を抱くが…

美鈴「はっ!!」

呪術王「おっと!!」

攻撃を仕掛ける美鈴にそれは置いとぎ、呪術王は避ける。

そしてちらりと雪彦の方を見てこちらが分が悪いと感じた呪術王は距離を取る。

呪術王「戦力的にこちらが不利になったので此処でおいとましよう」

そう言うと呪術王は消え、雪彦もファルコン・ハート達から離れる。

美鈴「…なんとか撃退出来ましたね」

咲夜「美鈴大丈夫？」

それを見て呟く美鈴に体力が回復した咲夜が聞く。

美鈴「はい、相手が分身体でしたのでそこまででこずりませんでしたが…ですが、本物は強いですね…」

咲夜の問いに美鈴はそう答えた。

ファルコン・ハート「あつちには行方不明になった奴等がいるからな…」

お空「うにゆう…さとり様達が心配だよ…」

フラン「そうだね…」

2人に近寄ったファルコン・ハートが呟いた後にお空はさとり達を心配し、フランも同意する。

その頃のカービィは…

審査員「もっ、もうないです」

トリコ「マジでー!？」

カービィ「もうないの?」

ゼブラ「…どうやら本当らしいな」

大食い大会は主催者側の食料切れで終わった。

トリコ「それにしても凄い食べっぷりだな!」

ゼブラ「お前、なかなかやるな」

カービィ「どうせなら、こっちの友達を呼ぶから明日大食い巡りしない?」

トリコ「おっ、良いな!小松を誘って行くか!」

ゼブラ「くくく、楽しみだな」

大食い物同士で仲良くなったカービィであった。

第47話：撃退と大食い大会の結果（後書き）

「リユカ」と言う訳でヴァーラガルザさんからのリクエスト話でした；

「ルイージ」「カービィも良く食べたね；」

「ヨッシー」「羨ましいですよ」

「クッパ」「やれやれ」

「オリマー」「次回を待っててね！」

第48話：おたまじゃくしでメロディを作れ！（前書き）

スネーク「ケンからのリクエストだ」

マロ「おたまじゃくしですね」

ジーノ「懐かしいよね」

オリマー「始まるよ」

第48話：おたまじゃくしでメロディを作れ！

マリオ「凄いな…」

目の前のプールを見て言う。

プールにはマリオが乗れる程大きいおたまじゃくしがいた。

ジーノ「久々だよねキノコフスキーさんの名前を聞くの」

溝呂木「知ってるのか？」

マロ「はい、僕たちの世界の作曲家で前に歌詞を作るのを手伝ったんですよ」

かいがい深げに言うジーノに溝呂木が聞き、マロが変わりに答える。

「???」おお、もう準備が出来てるね」

その言葉にメンバーが振り返ると作曲家のキノコフスキーがいた。

マリオ「久しぶりだな」

マロ「お久しぶりです」

キノコフスキー「あの時はありがとう。今回も頼むよ」

統夜「なあ、どうやってやるんだ？」

マリオとマロ、キノコフスキーが握手した後に統夜が聞く。

ジーノ「ああ、やり方は…マリオ」

マリオ「分かってるさ、良く見とけよ」

ジーノの言葉にマリオは頷いた後にプールの左端に立ち…

マリオ「よっ」

現れたおたまじゃくしを見てタイミング良くジャンプし…

マリオ「ほっ」

次に現れたおたまじゃくしがある場所に來たらジャンプとして行く。

マリオ「ほいっ…と」

そして8匹目で右端に辿り着くと振り返る。

ソ・ラ・ミ・レ・ド・レ・ド・レ

するとおたまじゃくしが上記の様に奏でる。

マリオ「こんな感じだ」

ジーノ「左側からミ・レ・ド・シ・ラ・ソ・ファになるよ」

神楽「なるほど…」

遊輔「おたまじゃくしのいる位置で音を鳴らすのか…」

キノコフスキー「うん、それでこれだ！と思ったのを作って見てね」

マリオの後にジーノが音階を説明して神楽と遊輔が納得した後にキノコフスキーがそう言った後にそれぞれやる。

神楽「出来たアル！」

新八「神楽ちゃん、それ単純に小学校で最初に音楽で習う音の順にやっただけじゃん！どや顔する程度じゃないから！」

ネプテューヌ「出来たよ！」

マロ「ハナチャンの森で聞いた様な音楽ですね」

レミリア「出来た〜」

霊夢「…音程がバラバラじゃない…」

レミリア「うー…」

それぞれ色々な音楽を作って行き、それにキノコフスキーはうんうんと楽しげに頷く。

そして最後にキノコフスキーがマリオ達と作った音楽を演奏したのであった。

夕方

キノコフスキー「楽しかったよ。また会える日を楽しみにしてるよ」
そう言うとキノコフスキーは手を振って超次元学園を去ったのであ
った。

第48話：おたまじゃくしでメロディを作れ！（後書き）

リュカ「と言う訳でケンさんからのリクエスト話でした」

オリマー「楽しかったね」

ネス「そうですね」

クツパ「うむ」

フォックス「（良く耐えたよな…）」

ワリオ「次回を待ってるよ！」

第49話：溝呂木の1日（前書き）

スネーク「光を継ぐ者からのリクエストだ」

ネス「溝呂木さん中心話だね」

オリマー「始まるよ！」

第49話：溝呂木の1日

超次元学園に赴任した溝呂木、そんな彼の一日である。

溝呂木「ん？マリオとクッパとソニックがいないが？」

授業の時、溝呂木が空いた席を見て聞く。

ルイーダ「あー…兄さん、自分の強さ上昇の事を知り、修行の旅に…」

オリマー「クッパとソニックはそれの付き添いで」

ルイーダとオリマーが頬をポリポリ搔いて言う。

それにネプテューヌとネプギアや一部のメンバーは複雑な顔やちよつとカイトを睨んだりと反応していた。

アナザーストーリーでマジエコンヌに負けたのに怒らず、逆に感謝の言葉を去ったマジエコンヌに言い、その後カイトとバトルし、自分の足りなさを痛感し、修行の旅に出たのだ。

溝呂木「修行の旅って…場所は聞いてるのか？」

ルイーダ「えつと…アングラの森に行くと」

それに一部のメンバーは吹いた。

アングラの森、そこはグルメ界と人間界の間にある地上の核に近い

ので重力が数倍体にかかる森である。

そこに修行として行くマリオ（+付いて行くクッパとソニック）にメンバーは吹いたのだ。

溝呂木「はあ…分かった。それじゃあ授業を始めるぞ」

ため息を付いた後に溝呂木は授業を開始する。

昼時間

イストワール「今日はどうですか？」

溝呂木「ああ…色々と苦労させられてますがなんとか頑張ってますが…修行の旅に出てる3人に…特にマリオには困ったもんです」

溝呂木が頼んだスパゲッティを食べてる時に隣に座ったイストワールの問いに溝呂木はそう答える。

イストワール「それは良かった〜此処の人達は良い人ばかりですか
ら〜」

溝呂木「ええ…ホントに此処の奴等は闇の力を持つ俺を拒絶しません…それに…」

ソラ「溝呂木先生〜」

チルノ「放課後一緒に修行しよう〜」

笑つイストワールに溝呂木が頷いた後に食べ終えたソラとチルノが
そう言つて駆け寄ってくる。

溝呂木「おいおい…お前達には師匠がいるだろ？」

ソラ「同じ人ばかりじゃあワンパターンだから別の人も入れてや
りたいんだよ」

チルノ「だからやろうよ！」

溝呂木の問いに答えたソラとチルノに溝呂木ははあ…と息を吐いた
後に了承する。

その後の授業も色んなキャラに苦労しながらも進めた。

放課後

ダークメフィスト「であつ！」

リュウケンドー「おっと！」

にとりにより形成されたウルトラフィールドの中でダークメフィス
トに変身した溝呂木のパンチをリュウケンドーは体を捻って避ける。

それにダークメフィストはダークレイフェザーを連発で放つ。

リュウケンドー「おおっと！」

向かって来たダークレイフェザーをリュウケンドーはゲキリュウケ
ンで受け流す。

その後にはぶつかり合い、そして距離を取る。

ダークメフィスト「少し休憩に入らないか？30分やってるからな」

リュウケンドー「分かった」

ダークメフィストの言葉にリュウケンドーは頷いた後にそれぞれ変身を解く。

ソロ「おっ、そっちも今休憩か？」

シンゴ「みたいですな」

チルノ「あつ、そっちも休憩？」

まるん「寒いのです」

そこにシンゴとソロ、チルノ、まるんが来る。

わいわい話し合う5人を見た後に溝呂木はダークエボルバーを見る。

チルノ「溝呂木せんせ」

ソロ「次はバトルロイヤルでのをやるうぜー！」

溝呂木「分かった」

呼ぶ2人に溝呂木は答えた後にやれやれと苦笑する。

第49話：溝呂木の1日（後書き）

リュカ「と言う訳で光を継ぐ者さんからのリクエスト話でした」

オリマー「ホントにね…」

フォックス「どうなるのやら…」

ワリオ「次回を待ってるよ！」

第50話…シンゴとまるんとノア（前書き）

スネーク「竜の骨からのリクエストだ」

フォックス「シンゴとまるんの中心話だな」

ネス「どうなるのやら…」

第50話…シンゴとまろんとノア

シンゴ「……………」

ある日、シンゴは悩んでいた。

悩みの対象は自分の中にあるノアの力である。

シンゴはノアの力に恐れを感じ、いつかまろんや人々を傷付けてしまつのではないかと悩んでいた。

まろん「あれ？シンゴ君どうしたのですの？」

シンゴ「まろんさん……」

そこにまろんが現れ、シンゴは涙目になって抱きついた。

まろん「どっ、どっしたんですの？」

シンゴ「実は……」

それに困惑するまろんはシンゴに聞き、シンゴは自分の悩みをまろんに話した。

まろん「そうだったんですの……」

シンゴ「ホントに怖いんだ…もしもノアの力で傷付けてしまつのが……」

顔を伏せるシンゴにまるんはうんと唸った後、ピーンと思いつく。

まるん「でしたら知ってる人に聞いて見るのです〜」

シンゴ「知ってる人？」

ムツツリーニ「……………なるほど…」

溝呂木「それが俺達を呼んだ理由か？」

まるん「はいですの」

まるんに呼ばれたムツツリーニが理由に納得した後に溝呂木は聞き、まるんの肯定の後に考える。

ムツツリーニ「……………恐れるより怖がるのが丁度良い」

シンゴ「恐れるより怖がる？」

まるん「その恐怖心があるからこそシンゴ君は悩んでるんです！
まじめに考えてくれですの！」

ムツツリーニの言った事にシンゴは首を傾げ、まるんはぶんぶん怒る。

溝呂木「いや…一理あるな…」

まるん「何でですの！…」

考えていた溝呂木がそう言い、まろんは怒鳴りながら聞く。

溝呂木「落ち着いて聞け…土屋は恐怖心ではなく、恐れるより怖がるのが丁度良いと言った。それぞれ似てるが微妙に違う所がある…恐れるは拒絶が混じっている。そう言う状態ではいざと言う時に力を使えない。逆に怖がるは恐れと違い、力の強さが分かっているからそうならない様に努力出来る」

まろん「なるほど…って土屋って誰ですか？」

溝呂木「いや！こいつこいつ！一部除いてムツツリー二と呼ばれてるが土屋 康太が本名だぞこいつ！！」

ムツツリー二「……………本当に本名で呼ばれるのが少ない…」

溝呂木の説明にまろんは納得した後に至極疑問に思ってしまった事に溝呂木はムツツリー二を指差して言い、ムツツリー二はショボーンと落ち込む。

コホンと溝呂木は咳払い、話題を元に戻す。

溝呂木「まあとにかくあいつ…ノアの力を恐れるではなく怖がつて使え…俺はそれをせずに闇の力を使って多大な罪を犯したからな…」

シンゴ「溝呂木さん…はい！」

真剣に言う溝呂木にシンゴは力強く答える。

ムツツリー二「……………お前が恐れない様に俺達も手伝う」

シンゴ「ありがとうございます康太さん！」

グッとサムズアップして言うムッツリーニにシンゴは頭を下げる。

第50話…シンゴとまろんとノア（後書き）

リュカ「と言う訳で龍の骨さんからのリクエスト話でした」

ネス「シンゴさんはノアになるから関係する2人を出したんだね」

ワリオ「だな…」

オリマー「次回を待ってね！」

第51話：人と接する恐怖（前書き）

スネーク「ユートピアからのリクエストだ」

ネス「楓さん関連だね」

オリマー「始まるよ」

第51話：人と接する恐怖

ソラ「楓についての相談？」

椛「ええ……」

本家の『第五十八訓』での楓の暴走から数日が過ぎ椛はある相談を持ち出した。

それは楓が人と接する事が少なくなったと言いつい楓の事を聞くと休むと言いつい部屋に籠もっていた。

出る前に椛が振り返ってみるとその時の楓は毛布にくるまり何かに脅えるように自分の手を見るとよりいっそう被ったそつだ。

椛「それでどうすれば良いか聞きたいのよ」

ソロ「なるほどな……」

椛は心配のあまり何回も溜め息を吐いた。

チルノ「まあ！まずは楓を外に出そうよ！」

レヴィ「そつだよ！」

チルノとレヴィの言った後、メンバーは楓の部屋へ向かう。

楓「……………」

部屋の中で楓は毛布にまだくるまっていた。

チルノ&レヴィ「おっじゃましまーす!!」

楓「ふえっ!？」

バンツ!とドアを勢い良く開けて入るチルノとレヴィに楓は驚いた後にソラとソロ、椀が入る。

楓「どっ、どうやって入ったんですか!？鍵は閉めてましたよ!？」

ソラ「ああ…それは俺、キープレードでちょちよいと」

驚いている楓にソラはキープレードを取り出して言う。

チルノ「ねえねえ?何で楓は閉じこもるの?」

レヴィ「そうだぞ!引き籠もりしていると良くないって主は言ったぞ!」

楓「……………」

純粹に自分を心配する2人に楓は目をそらす。

ソロ「……………もしかしてあの時の様にならない為か?」

顎に手を当てて考えていたソロが楓を見て聞き、それに楓は小さくだがこくりと頷いて口を開く。

楓「怖いんです…またあの時の様に人を傷付ける事に楽しいと感じ

てしまう自分が…」

自分の震えてる手を見ながらそう言った後に楓の目から涙が流れる。

チルノ「またそうなたらあたい達が止めるよ！」

レヴィ「その通りだぞ！」

楓「2人共…」

椛「楓…」

ずいっと詰め寄って言うチルノとレヴィを楓が見た後に椛が抱き締める。

椛「大丈夫、楓がそうなくてもこの2人が言う様に私達が止めるわ」

楓「椛…うわああああああああん！！」

安心させる様にポンポンと優しく肩を叩く椛に楓は泣き出して椛に抱き付く。

それを4人は笑って見ていた。

その後、楓は人と接するのが元に戻ったのであった。

第51話：人と接する恐怖（後書き）

リュカ「と言う訳でユートピアさんからのリクエスト話でした」

オリマー「ホント作者はドシリアスは苦手だよね……」

スネーク「ハッピーエンドが好きだからな……」

ワリオ「次回を待ってるよ！」

第52話：エルフの仲違い（前書き）

スネーク「真王からのリクエストだ」

第52話：エルフの仲違い

ソラ「えっと…此処だな」

ルイージ「そうだね」

目の前の森を見て呟くソラにルイージは言う。

来ている理由は真王からの依頼である。

真王「人間に友好的なエルフと戦いを好むダークエルフ。種族違い故に仲が悪い。大事になる前に押さえることにしろ。ただし殺すと敵意されるので気をつける」

と言う訳でソラ、チルノ、霊夢、レヴィも一緒に来たのだ。

霊夢「まったく、あんまり大事は避けたいもんね」

レヴィ「だからそうならない様にボク達が来てるんじゃないか」

ぼやく霊夢にレヴィはそう言う。

チルノ「んじゃあ入ろう！」

元気良くチルノが言った後に一同は森の中に入る。

そして…

霊夢「ああもうー！っつこいー！」

飛んで来る矢を叩き落としながら霊夢は走る。

周りでもソラがキープブレードを振るい、ルイージは身のこなしで避け、チルノとレヴィはお互いに来る奴を落とす、ソロはウルトラゼロランスを振るっている。

ソラ「これってダークエルフだよな！」

ソロ「確実に狙ってるからそうだろうな！」

弾きながら言うソラとソロの後に周りから褐色の肌の女性の集団が現れる。

ルイージ「うわっと！」

女性の振って来た剣をルイージは真剣白刃取りで受け止めた後に横に逸らす。

チルノ「うりゃあ！」

レヴィ「この！」

チルノとレヴィも来る集団の攻撃を受け流して行く。

ソラ「おっと！」

ソロ「デアッ！」

そしてソラもリフレクトガードで攻撃を防いだ後にキープブレードで

吹き飛ばし、ソロはダークエルフの攻撃を避けながら手刀を入れながら気絶させて行く。

霊夢「と言う事はこいつ等をなんとかすれば良いわね…エルフに喧嘩腰にさえならなきゃ良いんだし…と言うか大事が起きそうになれば両方に弾幕ごっこ教えてそれで解決させれば良いわね…」

避けながら霊夢はこの後の予定を考えて言う。

ルイージ「それで大丈夫かな？」

霊夢「もし弾幕ごっこじゃ付かない大事がまた起きそうな事態になりそうなら来たら良いだけよ！」

呟くルイージに霊夢はそう言うത്スペルカードを構える。

霊夢「神霊！『夢想封印』！！」

宣言すると同時に虹色の玉がダークエルフの集団へ命中して行き、気絶させて行く。

ソラ「これで終わり…っ」と

そして最後にリーダーと思われるダークエルフをソラが気絶させる。

ソロ「色々大変だったな」

レヴィ「うんうん」

その後、ダークエルフを介抱した後に霊夢が仲介人となり、揉め事

や大事が起こりそうになった時は弾幕ごっこで決め、結果に文句を
言わないのをそれぞれの種族のリーダーと決めたのであった。

ソラ達が帰った後、エルフとダークエルフ、2つの種族はと大きい
事は起こす事なく、仲良く喧嘩する感じになったのであった。

第52話：エルフの仲違い（後書き）

リュカ「と言う訳で真王さんからのリクエスト話でした」

ネス「揉め事解決に弾幕ごっこは便利だね」

オリマー「だね」

ワリオ「次回を待ってるよ！」

第53話：DEVILS DEVIL CONCEPT（前書き）

スネーク「ヴァーラガルザからのリクエストだ」

ネス「今回は所々とギャグが混じってるね」

リュカ「だね」

第53話：DEVILS DEVIL CONCEPT

紫「静かね」

映姫「そうですね…」

レミリア「まさかね…ああ言う事が起こるとはね…」

静かな教室の中で紫はそう言い、映姫も同意してレミリアがそう言う。

昨日の昼食が腐っていたため、ほとんどの生徒が休んでしまい、映姫と紫とレミリアしかいないという事態になったのだ。

ちなみに腐っていた原因はドーンが昼食に間違っただけで失敗品とか入ってしまったのが原因で今はルイージの自宅でルイージにフルボッコにされている。

紫「色々と暇よね」ってか此処にいても仕方ないし霊夢のそこ行きましようか？」

レミリア「そうですね。あの鬼も絶対に寝ているだろうし…」

映姫「では私も小町の世話をしに行きます」

頬杖付いた後に立ち上がって言う紫にレミリアは同意し、映姫も腰をあげた時…

デビルス「それは中止にして貰おうか」

そこにデビルスと洗脳された永琳がやってくる。

紫「あなたは…靈夢や魔梨沙が言っていた奴ね」

映姫「大方、我々を捕まえに来たのですね」

デビルス「分かるのなら話が早い。その通りだ。私自らあなた方を捕まえに来ました」

紫と映姫の言葉にデビルスは肯定して直々に捕まえに来たと言う。

レミリア「誰が捕まるものですか！」

紫「その通りよ」

映姫「抵抗させて頂きます」

そう言うと三人は応戦するが……

マリオ「いや〜なかなか良い修行になったな」

クッパ「うむ」

ソニック「YES！あの次郎って爺さんは強かったな」

その頃マリオ達はグルメ界から帰還して超次元学園に着いていた。

マリオ「さあ〜て着いたら早速カイトともう1回喧嘩だ！」

クツパ「早速か？」

マリオ「ああ…あれ喧嘩と言えないしってかマジであいつ等に俺戦いだと冷めてる思われてたんだな…シヨックorz」

マリオの言葉にクツパはそう聞き、マリオは頷いた後にアナザーストーリーの出来事を思い出して崩れ落ちる。

ソニック「まあ…マリオは最近大乱闘以外じゃあ冷静に戦ってたしな…」

クツパ「カイト達もカイト達なのだ…マリオを戦闘面で見すぎ過ぎなのだ。あやつは結構冷めてるといわれると怒るより落ち込み易い奴で桂が言う程の完璧じゃないし他人から最強って言われるの嫌いで最強と自負してないからな…そこ等へんは作者が思いっきり詳しく書かなかつたせい+文書力不足もあるが…」

それにソニックが苦笑いして頬をポリポリ掻き、クツパは呆れながら最後にメタな発言をしながらため息を吐く。

その後、マリオをクツパが引きずって教室に入ると…

教室中に血痕が散乱していた。

マリオ&クツパ「なんじゃこりやあああああああ！？」

ソニック「誰か鼻血でも流したのか？」

立ち直ったマリオと共にクツパは叫び、ソニックが場違いな事を呟

ゼロイド「だから普通に戦えるぜ！」

ネオス「そうそう！」

ネクサス「……………（コクリ）」

紫の問いにそう4人が答えた後にデビルスの暁を防ぐ。

デビルス「（流石に数では不利…）彼女達の時と同じ様に少し本気を出そう」

ネクサス「……………来る！」

デビルスの言葉にそれぞれ身構える。

デビルス「……………幻魔」

そう言うと当たりを黒い霧が覆い…

デビルス「DEVILS DEVIL CONCEPT…。」

その言葉の後…ソラ達の間を何かが駆け抜け…

マリオ&ソニック「おりゃあああああ！！！」

デビルス「ぐはっ！？」

いきなりの声の後に霧が晴れるとお腹を押さえるデビルスの前に構えるマリオとソニックがいた。

銀次「マー君！」

マリオ「帰って来ました！冷めてると言われたのを痛感して修行の旅に出てました！イツツミーマリオ！！」

ソニック「ってかいきなり戦闘ってな…驚かせてくれるよな」

銀次の声にマリオは涙目で言い、ソニックは眉を潜めてデビルスを見て言っ。

デビルス「(くっ…まさかDEVILS DEVIL CONCE
PTの発動時間の間も動けるなんて…)仕方がない今回は諦めるよ」

そう言っくとデビルスは消えた。

マリオ「ってか何、この状況？」

映姫「それについては私が説明します」

それを見届けた後にマリオはそう聞き、映姫が永琳に今の事を話すついでに状況を話す。

最初は紫、レミリア、映姫の3人で戦っていたがデビルスのDEVILS DEVIL CONCEPTによりダメージを受け、やばいと思っただ後に紫がスキマを使って5人を呼び出し、ゼロイドが永琳の頭を叩いて洗脳を解いて戦っていたとの事…

クツパ「そうだったのか…」

永琳「はっ…さっきの説明通りならリグルも寝込んでいる…今行く

わよりグルうううう!!」

後から来たクツパと共に2人は納得すると永琳が自分が捕まって洗脳されてる間ので腹痛になつてる所を思い出して呟くと目をハートマークにしてリグルの元へ駆け出す。

マリオ「…なんだったんだ？」

鈍感メンバー「さあ？」

クツパ「ホントに…」

ムツツリーニ「……………大変」

銀次「だね;」

紫「絶対に吹っ飛ばされるわね」

映姫「そうですね…」

いきなりの永琳にマリオは呆然と呟き、鈍感メンバーも同意して、クツパとムツツリーニは顔を抑え、銀次は苦笑いして、紫は永琳のこの後を予想して映姫は同意する。

その後、永琳はリグルと一緒にいた幽香に予想通りに吹っ飛ばされたのであった。

ちなみに輝夜や豊姫達に怒られたのは些細である。

第53話：DEVILS DEVIL CONCEPT（後書き）

リユカ「と言う訳でヴァーラガルザさんからのリクエスト話でした」

ネス「いや〜マリオも色々大変だね〜」

クツパ「そしてリグルはこの先苦労する事に…」

スネーク「だな…次回を待ってるよ！」

第54話：Sランクとの差（前書き）

スネーク「なめ猫からのリクエストだ」

リュカ「春香さんと千早さんのお話ですね」

オリマー「始まるよ」

フォックス「後、作者の小説からある人物登場」

第54話：Sランクとの差

春香「もうすぐだね千早ちゃん」

千早「そうね春香」

春香と千早は、もうすぐ来るであろうアイドルアリーナに向けて、現在自分達の壁であるあずさに勝つために日々レッスンを続けている。

しかし、彼女達はまだ自分達とあずさには決定的な差が大きくあると自覚しており、今後のことも考えると今のままではステップが進まない。

だが、差の正体すらわからないため、行き詰っているともしえる。

そんな時…

マリオ「よう」

ルイージ「見に来たよ」

見学しにマリオ達が来る。

千早「あっ、いらっしやい」

ソロ「どうした？何か分かんない事があるのか？」

春香「うん…ちょっとね…」

千早が言った後に2人を見てそう聞くソロに春香は苦笑する。

マリオ「つまり…2人共、自分達の壁であるあずさに勝ちたいけどそのあずさとの差が何なのか分かんないからちよつと行き詰っている?。」

春香「そうなんですよ」

千早「あずささんには勝ちたいんですが…ホントにそれが分からなくて…」

聞いて内容を纏めるマリオに春香は頬をポリポリ掻き、千早も困った顔をしている。

紫「……………！それなら解決出来そうな人がいるわ」

考え込んでいた紫がピーンと豆電球を浮かべて言う。

春香「ホントですか!?!」

紫「ええ…ちよつと待っててね」

春香の問いに頷いた後に紫はスキマを作ると入ってどっかに行く。

別世界

龍騎「今日も良い天気だな」

はるかさん「かつか」

ちひゃー「くっ」

事務所の窓から太陽を見て言う龍騎に同意する。

紫「はあ〜い」

龍騎「うおっ!?!」

はるかさん「ヴあ〜い?」

ちひゃー「シャー」

目の前にいきなり現れた紫に龍騎は後ずさり、はるかさんは首を傾げ、ちひゃーは紫(のある部分)を見て威嚇する。

紫「あら、後ずさるなんてレディーに失礼よ」

龍騎「いきなり過ぎますよ紫さん!?!」

はるかさん「かつか!」

扇で口元を隠す紫に龍騎は反論した後にはるかさんが紫の頭に飛びつく。

紫「あらあら…まあ、ちよっとこっちに来てくれないか?」

龍騎「ちよっ、俺まだ仕事ちゅっうっうっう!!!!!!!!」

ちひゃー「くっ!?!」

問答無用にはるかさんとちひゃーもついでに龍騎をスキマに入れた後に紫はスキマを閉じる。

戻って千早達

ソラ「何しに行っただ紫の奴?」

霊夢「まあ…迷惑かけてるのは分かるわ…」

首を傾げるソラに霊夢は呆れて言つと…

紫「ただいま」

龍騎「うわっ!?!」

ちひゃー「くっ!?!」

はるかさん「かつ!?!」

スキマが現れ紫が出ると共に龍騎とちひゃー、はるかさんが出て来る。

龍騎「いてて…あれ!?!千早に春香!?!お前達も連れて来られたの!?!」

千早「えっ?」

春香「ほえっ？」

起き上がって千早と春香を見て驚く龍騎に2人はあっけに取られる。

数分後

龍騎「成る程：別世界の春香に千早か」

ちひゃー「くっ？」

はるかさん「ヴぁ〜い」

事情を説明されて納得する龍騎に千早の頭に乗ったちひゃーは首を傾げ、春香に抱き締められたはるかさんは欠伸をする。

龍騎「う〜ん、その差はもしかしたら…」

千早「分かるんですか!？」

春香「それって何ですか!？」

顎を摩って言う龍騎に2人は詰め寄る。

龍騎「ストップストップ…まあ、勝ちたいてって気持ちは大事だよ…けどさ…俺的に2人とあずささんの差が何なのかは…自分でかけるプレッシャーかな？」

霊夢「プレッシャー?何で？」

2人を押し留めた後の龍騎の言葉に霊夢が聞く。

龍騎「色々とき、アイドルは色々と他人からプレッシャーがかけられる時あるけど…自分で成功させなくっちゃとか失敗したらダメって言うのかけたりしないか？」

春香「あ…」

千早「確かに…」

龍騎の言葉に春香は声が漏れ、千早は頷く。

龍騎「けど…俺的には2人は勝つとか関係なく自分のありったけの思いでやったら良いと思うんだ」

千早「自分の…」

春香「ありったけの思いでやる…」

頬をポリポリさせる龍騎の言葉に千早と春香は顔を見合わせて呟く。

龍騎「千早は千早、春香は春香だからあずささんの様に行かなくて良いからさ…全力で自分の思いをファンや客の人にぶつければ良いんだよ」

そう言つて2人の頭を龍騎は撫でる。

千早「全力で自分の思いを…」

春香「ファンや客の人にぶつける…ありがとうございます！龍騎さん！」

龍騎「いや…アイドルアリーナ頑張れよ2人共！」

ちひゃー「くくくっ！！」

はるかさん「はるかっか！」

お礼を言う春香に龍騎は手を振った後に応援し、ちひゃーやはるかさんも応援する様に鳴く。

紫「それじゃあ帰りのスキマ出すわね」

龍騎「はい…それじゃあ2人共！頑張れよ！」

ちひゃー「くくくっ」

はるかさん「かっ！」

紫がそう言ってスキマを出し、激励を送った後に龍騎はちひゃーとはるかさんと共にスキマを潜って帰る。

春香「頑張ろうね千早ちゃん！」

千早「ええ！…それにしてもあの人、私達の事を良く知ってる感じに話してたけど…何でかしら？」

春香の言葉に千早は頷いた後に思った事を呟く。

紫「それはそうよ…彼は別世界のあなた達のプロデューサーだからよ」

春香&千早「えっ!?!」

笑って言う紫の言葉に2人は驚く。

その後、2人は良い感じにレッスンをこなしてアイドルアリーナへ心に向けたのであった。

チルノ「あたい達出番あんまりなかったね」

ソロ「そこは気にするな」

ソロ「だな」

第54話：Sランクとの差（後書き）

リユカ「と言う訳なめ猫さんからのリクエスト話でした。」

ネス「ライぶちの龍騎とちひゃーにはるかさんがキターー！」

スネーク「まあ、プロデューサーだしな。」

ワリオ「次回を待ってるよ！」

第55話：パーフェクトイワンテ（前書き）

スネーク「ケンからのリクエストだ」

ネス「いや〜タイトル通りだね〜」

リュカ「どうなるかな？」

オリマー「始まるよ」

第55話：パーフェクトイワンテ

ソラ「何なんだろうなこれ？」

ソロ「だな？」

とある日、校庭の真ん中に現れた大量の岩に現れたのだ。

ジーノ「何なんだろうね？」

マロ「ですね」

マリオ「ホントにな」

ジーノとマロが言った後にマリオがその岩に触れると突然動き出す。

チルノ「何々!？」

クツパ「まさかこれはイワン………テ？」

驚くチルノの隣でクツパが名前を言って、目の前の存在に目を点にする。

目の前のは様々な場所に目が存在する人型になったイワンテであった。

ツッコミトリオ「なんじゃこりゃあああああ!！」

デステイニー「何だこいつ!？」

ブリッツ「何か凄い集合体でござるううう!!」

それにツッコミトリオとデステイニーとブリッツがツッコミを入れた瞬間にイワンテ…この際パーフェクトイワンテと付けておこつ…は右腕をマリオ目掛けて振り下ろす。

マリオ「おっと!んじゃあ初めて使いますか!」

それを避けた後にマリオは笑って言うところからともなく羽が付いた巨大な瑠璃色の甲羅を取り出す。

マリオ「食らえ!」

それを蹴り出すと左腕の目に命中するとバカンと壊れる。

マリオ「弱点は変わらないんだな…おっと!」

それを見てマリオはそう呟くと外れた左手のイワンテがマリオを攻撃しようとしてそれに気づいたマリオは避ける。

マロ「援護しますマリオさん!」

そこにマロが瑠璃色のシンバル、ルナティックシンバルを取り出すとそれを左手イワンテの目の前でシンバルを叩いて鳴らす。

その際に起きた反響音が左手イワンテの目に命中して同じ様に壊れる。

統夜「お、さっきのとそれって…」

マリオ「ああ、あの時貰ったあれだ」

マロ「ありがたく使わして貰ってます」

統夜の言葉にマリオは笑って言い、マロは頭を下げた後に3人は続いて来たキックを避ける。

ジーノ「ジーノカッター!!」

そこにジーノが右手で光輪を投げるとそれは右足イワンテと左足イワンテの目に命中するとバカン!と壊れ、脚部がなくなったパーフェクトイワンテはドドーンと胴体部分が地面に付く。

パーフェクトイワンテはまだ残っていた右手部分が攻撃しようと振り下ろすがそうはさせまいとマリオは再び瑠璃色のひまんパタこうらを右腕イワンテの目に命中させると同じ様にバカン!と壊れる。

ジーノ「スターハンド!発射!」

そして擬人化しているジーノが両手に装備した箆手、スターハンドから星型の銃弾を放って右手イワンテの目を攻撃して破壊する。

マリオ「そろそろ決めようぜジーノ!」

ジーノ「ああ!」

マリオの言葉にジーノは頷いた後に瑠璃色ひまんパタこうらの上に乗るのを確認し、マリオは胴体部分の目より上に向かって蹴り込む。

ジーノ「はっ！」

その途中でジーノはジャンプするとその反動で瑠璃色ひまんパタこ
うらは軌道を変え、胴体部分の目に命中する。

ジーノ「止めだよ！」

それと同時にジーノが顔部分の目に向かってスターハンドから星型
銃弾を放ってトドメを決めると着地する。

ジーノの後ろでパーフェクトイワンテは消滅した。

マリオとジーノはそれを見た後にハイタッチする。

マロ「それにしてもさっきのイワンテ…凄かったですね」

クツパ「うむ…ある意味凄い進化だったのだ」

統夜「確かに」

イワンテのあった場所を見て呟くマロの言葉にそう言うクツパに統
夜は同意する。

第55話：パーフェクトイワンテ（後書き）

リュカ「と言う訳でケンさんからのリクエスト話でした」

フォックス「ケンの所で出たアイテム使ってるな…」

スネーク「そうだな」

オリマー「次回を待っててね！」

第56話：マイティルレットDE大騒動（前書き）

スネーク「龍の骨からのリクエストだ」

フォックス「今回は…」

オリマー「大変な事に…」

第56話：マイティルーレットDE大騒動

マリオ「あらまあ……」

マロ「あわわわわ」

ジーノ「まさかのね……」

クッパ「ぬう……」

ヨッシー「どうなるんですか!」

ルイージ「うわぁ……」

ソニック「Wou……」

上空を見て上記のメンバーはそれぞれそう反応する。

上空には巨大なルーレットがあり……

零斗「マジで悪い」

その傍にいる零斗が謝る。

事の発端はマリオ達と修行するために零斗が尋ねて来た事に始まる。

マリオ達はそれを了承して修行をしていたのだが零斗がすっかり修行の途中でマイティルーレットを発動させてしまい、更に其の場にあったマリオ達がリストアップされてしまったのだ。

一同「(いやあああああ!!)」

首を傾げるマリオの後ろで他のメンバーは悲鳴を上げる。

零斗「これぞ、マイティルーレットなのじゃあー……………!!」

普通に食べてるマリオと倒れたメンバーを見て零斗はそう言う。

メンバーがドクターによって介抱された後に零斗は再びレバーを引いた。

マロ「何やら嫌な予感が…」

ルイージ「奇遇だね。僕もだよ…」

2人がそう言うのと突如ルーレットの針が二本に増え、マロとルイージに止まった。

ルイージ&マロ「針増えた!?!と同時に当たった!!」

零斗「さあ、罰ゲームはあ〜?」

『ベロームによるペロペロ』

マロ「……………」

モニターに表示された罰ゲームを見てマロが文字を間違える程叫んだ後にベロームが現れ…

しばらくお待ちください…

マリオ「ルイーjayjayjayjay!!! マロオオオオオ!!!
しっかりしろおおおお!!!」

ベロームが消えた後に唾液まみれなルイーjayとマロをマリオは叫びながら振る。

その間もルーレットの針が回りだしていた。

零斗「さあ、誰に当たるかなあ、楽しみだなあ」

ヨッシー「楽しみまくってますよこの人!？」

クッパ「だが恐ろしいのだマイテイルーレット」

ジーノ「そうだね…あれ?」

笑顔の零斗にヨッシーが叫び、クッパが言った事にジーノは同意した後にルーレットを見ると…ジーノの所だけ何故か面積が大きかった。

ジーノ「あれええええええええ!? 僕の所が面積広くなってるうううう!？」

ソニック「おいおい、何でだよ」

あまりの事にジーノは叫び、ソニックは呆れる。

だが、針はマリオの所に止まった。

クツパ「マリオの所に止まったのだ!」

マリオ「えっ?俺?」

2人を起こそうとしていたマリオは言われて振り返るとモニターに『トラウマ』と出た後にアナザーストーリーでのカイトがマリオに向けて魂が冷めると言ってる所がリピートされる。

マリオ「冷めてないの、ただ心は熱くして、表情は冷静にしていただけなんだ…」

それにマリオは体育座りしてブツブツと呟く。

零斗「誰かな誰かな誰かな…」

その間も進んでいてルーレットの針はクツパに止まった。

クツパ「また我輩かああああ!?!?!」

ジーノ「何が出るんだ!?!」

零斗「さあ〜罰ゲームはあ〜?」

切れたクツパが指をパチンと鳴らすと同時に零斗の上に巨大なメカクツパが落ちて来て、それに零斗は潰され、マイティルレットは消えた。

クツパ「最初は謝ってたのに途中から楽しくなりおって……」

零斗「すいませんでした」

肩を上下させて説教するクツパに正座させられた零斗は土下座する。

ちなみにマリオはキノコを食べて立ち直ったのであった。

第56話：マイティルレットDE大騒動（後書き）

リュカ「龍の骨さんからのリクエスト話でした〜」

ネス「大変だったね〜」

スネーク「ホントだな〜」

リンク「あはははは〜」

ピット「次回を待っててください」

第57話：復活の武者頑駄無、ダークザギ（前書き）

スネーク「光を継ぐ者からのリクエストだ」

ネス「現れる倒した敵」

リュカ「そしてこの戦いで現れる新たな力」

オリマー「始まるよ」

第57話：復活の武者頑駄無、ダークザギ

光「久しぶりです溝呂木さん」

ノア「元気にしてるかい？」

溝呂木「ああ…まあ…元気だぞ」

とある日、溝呂木に会いに超次元学園に来た光とノア、その本人は疲れた表情で言う。

ノア「どうした溝呂木？」

光「何かあつたんですか？」

2人の問いに溝呂木は無言である紙を2人に渡す。

それに2人は首を傾げながら見る。

『しばらく修行の旅に出ます。探さないでください byマリオ』

光「えつと…これって？」

ソロ「ああ…マリオが一番と苦手としている人が此処に来たんだよ数分前に」

溝呂木「どうもその人物がマリオに会いに来ると言う手紙がカイト達が出張に出た後に来ててな…すぐさま本人はささっとこの手紙を置いてな」

光の問いにソロは肩を竦めてそう言い、溝呂木は肩を落とし、ため息を付く。

ちなみにその際、オーマイガー！とマリオは学園中に響き渡る悲鳴を上げていた。

なお、ソニックとクッパも付いて行ってる。

それに光とノアは顔を見合わせた時…

突如空が闇に包まれた。

ソラ「何だ何だ!？」

チルノ「いきなり何!？」

オリマー「これは一体!？」

冥王「なの!」

ノア「これは!？」

溝呂木「なぜだ!？」

光「2人ともわかるんですか？」

それに其の場にいたメンバーは驚き、ノアと溝呂木は別の意味で驚き、光が聞いた瞬間、それは現れた。

光「あれは!?!」

ソロ「あの時の奴!」

溝呂木「それに…」

ノア「ダークザギ!」

目の前に光とソロ、ノアが倒したはずの武者頑駄無とダークザギが現れたのだ。

光「けど、あの時と違う」

ノア「確かに、ダークザギも姿が微妙に違う」

ソロ「何か…親父から聞いて見たアーマードダークネスに似てるな…」

光とノアの言う通り、武者頑駄無の姿は学年別トーナメントのときのものであるが、色が黒一色となっている武者頑駄無Mに…

一方のダークザギは姿はダークザギだが、所々がアーマード・ダークネスになっていて、右手にアーマード・ダークネスの槍のダークネス・トライデントを持ったアーマードダークザギになっていたのだ。

光「テイガ!」

ソロ「デュワ!」

溝呂木「むん！」

ルイーダ「コスモス！」

銀次「ダイナ！」

それに光とソロ、溝呂木、ルイーダ、銀次は変身してノアを並んで構える。

ムツツリーニが仮面ライダーの方のネクサスJFへ変身するとメタフィールドを形成する。

ノア「行くぞ！」

ノアのかけごえと共にそれぞれ駆け出す。

それぞれ武者頑駄無Mにはゼロ、コスモス、ダイナが、アーマードダークザギにはノアとティガにメフィストが中心に挑む。

武者頑駄無M「うおおおおおお！！！」

ゼロ「くっ！」

炎山を振るう武者頑駄無Mの猛攻をゼロはウルトラゼロランスで防戦に徹する。

左右からフューチャーモードとなったコスモスとダイナが光線を放つが武者頑駄無Mはそれにもるともせず攻撃を続ける。

コスモスFM「なんて硬さ！？！」

ダイナ「格段に強いね…」

ゼロ「ああ…あの時見たより強い！」

武者頑駄無Mから距離を取り、ゼロは光と共闘した際の相手を思い出して言う。

すると武者頑駄無Mはウルトラマンアグルの『フォトンスクリュー』の構えをした後に灼熱の焰を打ち出す『プロミネンススクリュー』を3人に向けて放つ。

ゼロはバリアーを張るが押さえきれずに3人は吹き飛ばす。

ティガ「皆さん！」

ノア「デアッ！」

アーマードダークザギ「ダッ！！」

吹き飛ばす3人にティガは叫ぶ。

そしてこちらはノアがメインで戦っているがノアは苦戦していた。

メフィスト「ノアが押されるなんて…」

ノア「確実にパワーアップしている…」

苦く言うメフィストにノアはそう言う。

コスモスの言葉にヘキサは答えた後に全員、特にウルトラマンになつてるメンバーに叫ぶ。

ノア「そうだな…ダークザギの思いのままにさせない！」

ティガ「同じく！僕はこの世界も守りたい！！」

メフィスト「俺もだ！」

ゼロ「ああ！俺達のビックバンはこれからだ！！」

コスモスFM「この学園や皆を守る！」

ダイナ「皆の場所を絶対に破壊させない！」

それに6人が立ち上がり、そう叫んだ瞬間…

それぞれ光に包まれる。

その際、ティガとノアが1つに、ゼロとコスモスとダイナも1つの光となる。

そして光が晴れるとそれぞれ変わっていた。

ティガとノアがいた場所には姿はティガだが、色がアンファンスの色となつたティガが…

メフィストはメフィストの目がネクサスの目と同じ色となり、胸にコアゲージがあり、模様はジュネッスとなり、色も明るい色へと色

彩が変わっていた。

そして、ゼロとコスモスとダイナがいた場所には全身に輝く神秘的な光のオーラを纏う新たなウルトラマンが立っていた。

百華「光とノアが1つになった…」

リュカ「それにソロさん達も…」

それに呟いた後に『ウルトラマンティガ ネクサスアンファンスタイプ』はアーマードダークザギに、『ウルトラマンメフィスト』と『ウルトラマンサーガ』は武者頑駄無Mに立ち向かう。

サーガ「デア！」

Uメフィスト「ダッ！」

武者頑駄無M「ぐがつ！」

2人のパンチに武者頑駄無Mは吹き飛ばす。

体制を立て直した武者頑駄無Mはプロミネンススクリューを放つがサーガはそれをチョップで叩き落とす。

悪あがきと炎山を振るうがサーガが受け止めた後にUメフィストが叩き折る。

サーガ「ジュワ！」

Uメフィスト「トアッ！」

後ずさる武者頑駄無Mにサーガは左腕のサーガブレスから光線を、
Uメフィストはダークレイ・シュトローム強化版、ライトレイ・シ
ュトロームを放つ。

武者頑駄無M「ぐがあああああああああ！！」

それを受けた武者頑駄無Mは叫び声を上げた後に倒れ…

ドカーーン！！

爆発した。

ティガNAT「デアツ！」

アーマードダークザギ「ガッ！！」

こちらはティガNATがキックを入れて、アーマードダークザギを
吹き飛ばした後にティガクリスタルの前で両腕を交差させて組み、
ティガクリスタルが赤く光った後に両腕を左右に振り下ろすと姿は
色がジュネッスの赤となった『ウルトラマンティガ ネクススジュ
ネッスタイプ』と変わるとパンチのラッシュをアーマードダークザ
ギのどてっばらに当てる。

アーマードダークザギ「グウ…！！」

ティガNAT「ジュワ！」

後ずさるアーマードダークザギにティガNATはデラシウム光流の
エネルギー集約ポーズを取った後にジュネッスのオーバーレイ・シ

ユトロームの構えで放つデラシウムレイ・シュトロームを放つ。

アーマードダークザギ「ヌウウウ…トアッ！」

それをアーマードダークザギは腕を前で交差させて受け止めた後に左右に振り下ろして耐えたのを見た後にティガンJ.Tはティガクリスタルを青く光らせるとその姿をジュネツスブルーの青へ変えた。「ウルトラマンティガ ネクサスジュネツスブルータイプ」へと変えると俊敏な動きでアーマードダークザギを翻弄するとランバルト光弾のエネルギー集約ポーズをとった後にオーバーアローレイ・シュトロームの構えで放つランバルトレイ・シュトロームを放つ。

アーマードダークザギ「ヌアッ…！」

アーマードダークザギはそれを片手で払いのけた後にグラビティザギを放ち、ティガンJ.B.Tはサークルシールドで防ぐ。

銀時「お前等の魂見せてやれやああああ…！」

ティガンJ.B.T「アアアアアアアアア…！」

銀時の叫びにティガンJ.B.Tは答える様に咆哮した後にグラビティザギを防ぐと今までより一番に光り輝く。

すると姿はティガにノアの要素が入ったウルトラマンティガ ネクサスの最終形態「ウルトラマンティガ ノアファイナル」へとなっていた。

アーマードダークザギ「ヌアアアアア…！」

スバル「やったあああああ！！！」

ソラ「やったな！！！」

チルノ「凄いよ皆！！！」

それを見て全員が歓声をあげ、それを受けながらそれぞれ元に戻る。

ソロ「つつ、疲れた」

ルイージ「そうだね…」

タレ銀「ほへえ〜〜」

アーカード「銀次いいいい！！真っ白になってるぞ！！！」

溝呂木「俺は…光になれた…」

それを光が見ている中、隣でザ・ネクストになったノアが立っていた。

光「やりましたね」

ザ・ネクスト「ああ…」

うんうんと地面に突いた斧の持ち手に持たれて頷いているへキサに真王が話しかける。

真王「一つ聞きたいが…あなたは？」

へキサ「あたしかい？あたしはへキサ、へキサ・フォード、今はいいない夫の愛しい弟子、マリオに会いに来ただけどね…逃げられたね」

真王の問いにへキサは名乗るとそう言っただけで肩を竦める。

真王「ではもう一つ…その手に持つてる斧の次元器、殺人絶超斧をどこで手に入れた？」

一同「えっ!？」

目を真剣にさせて言った真王の言葉に喜んでいた一同の目はへキサに向く。

へキサ「ああ…此処に来る前にとある組織を潰してがさ入れしてたから異常に力を放つこれを見つけてね…ほい」

持ってた理由を話した後へキサは真王に殺人絶超斧を渡す。

へキサ「あたしは別に自分の物にするつもりないから預けるよ…だけど、預けるからにはしっかり管理しておくれよ」

真王「…ああ…」

へキサの言葉に真王は頷く。

なお、ザ・ネクストとなったノアはにとりが作ったウルトラファイールドで力が戻るまで超次元学園に残ったのであった。

第57話：復活の武者頑駄無、ダークザギ（後書き）

リユカ「と言う訳で光を継ぐ者さんからのリクエスト話でした」

ネス「ってか、光を継ぐ者さんから送られたの以外のオリジナルいれちゃってるね〜…特に溝呂木さん」

ワリオ「だな…」

オリマー「次回を待っててくれ！」

第58話：旧校舎の七不思議（前書き）

スネーク「真王からのリクエストだ」

ネス「今回は真王さんの所の七不思議の旧校舎版だね」

リュカ「どうなるかな？」

第58話：旧校舎の七不思議

ヘキサが先生に就任しての3日後

ネス「と言う訳でやって来ました旧校舎七不思議を解明しようの旅」

レヴィ&チルノ&ソロ&ソラ&ネクスト&サトシ&天子&リゲル&ヘキサ「お〜」

リュカ&ロード&マロ「おっ、おー」

デステイニー「ちょっとマテエエエエ！！！！」

溝呂木「後ノアもといネクストおおお！！！！」

ジーノ「あはは」

ネスの言葉に腕を振り上げる12名にデステイニーがツツコミを入れ、溝呂木はネクストに叫ぶ。

デステイニー「何でいきなりこれ！？」

溝呂木「しかもネクストも何で参加してるんだ！？」

ネクスト「いやー…暇な物で…ちなみに動ける様にとりから移動用のウルトラフィールド発生装置を貰ってるから大丈夫だ」

ヘキサ「良いじゃないかい！暇を潰せるなら参加したって」

ネス「これは最近にて出た旧校舎の七不思議を解明する為の旅だよ」

ツッコミを入れる2人にネクストはそう言い、豪快に笑うヘキサの後にネスが言う。

ソラ「気になるもんな」

ソロ「だな」

ロード「ふっ、ふん、怖くなんかないんだからな」

レヴィ「震えてるよ王様」

笑顔で言うソラとソロの隣でBJを纏って言うロードにレヴィは指摘する。

ロード「こっ、怖くて震えてる訳ではないぞ。む、武者震いだ」

天子「あっ、後ろにサチコ」

震えながら胸を張るロードに天子が嘘を言つと…

ネクスト「ん？」

ネクストを盾にしていた。

チルノ「サチコちゃんはいないよ」

リグル「幽々子さんや妖夢さんは平気なのに何でかな？」

レヴィ「妖夢も幽霊を怖がってなかったけ？」

ロード「ちっ、違うからな！ムー大陸の扉を隠れながら探していただけだ！」

溝呂木「そいつの後ろに隠れてても見つかる訳ないだろ」

チルノとリグル、レヴィの言葉にロードは否定して言い訳するが溝呂木が呆れてばっさり言う。

ネス「まあ、そんな訳で行きますか」

サトシ「何かあるんだろっな？」

ネスとサトシの言葉の後にそれぞれ動く。

ネクスト「そう言えば…七不思議とはどう言うのがあるんだい？」

ネス「あゝ聞いた話によると…」

歩いてる途中でのネクストの問いにネスは聞いた七不思議を言う。

旧音楽室から響く音楽と歌声：夜な夜な旧音楽室で音楽と共に歌声が聞こえるらしい

旧理科準備室の笑い声：旧理科準備室で不気味なウフフフと女性の笑い声と何かを作る音が聞こえるらしい

旧廊下での何かを数える声：廊下を歩いているとどこからか1枚、

2枚と数える声があるとこの事

旧校長室で聞こえる音と声：何やらビシバシツと言つ音に声がするらしい

旧保健室の声：何やら聞こえているらしい。

旧美術室の霊とぷつ：夜になるとぷつと言つ声と共に霊が鼻歌いながら絵を描いてるらしい

旧校庭のなのなのなの：旧校庭で何やらそう聞こえるらしい

ネス「って感じ、丁度此処からだ旧美術室だね」

ネクスト「どんな霊がいるんだろうね」

デステイニー「ってか最後不思議でもなんでもないだろう！！もろ誰か分かるだろう！！」

説明し終えた後+デステイニーのツッコミの後に一同は旧美術室へ向かう。

ヘキサ「おっ、聞こえてるね」

デステイニー「確かに鼻歌だなこれ…」

溝呂木「ってかもう1つ聞こえて来る声に聞き覚えがあるんだが…」

聞こえて来た声にヘキサはそう言い、デステイニーも同意した後に溝呂木がそう呟いて開けると…

ギル「ぷっ？」

魅魔「おや？あんだ等なんだい？」

そこには絵を書いているギルと魅魔がいた。

ネクスト「旧美術室は彼女達の様だね」

ソロ「そうだな」

魅魔&ギル「？」

ネクストとソロが言った後に一同はまた絵を描くのを再会した2人を置いて次に向かう。

チルノ「次は旧校長室だね」

デステイニー「聞こえて来るな……」

チルノが言った後に向こうからする音にデステイニーはそう言う。

そして天子とジーノが開けると……

幽香「甘いわ！もっとこう！強く！」

コンパ「はい」

ビーストハート「きゃいん！？」

なぜか鞭を振るコンパを指導する幽香がいて、ビーストハートが標的になっていた。

デステイニー&溝呂木&ジーノ「何してんだあんたはあああああ
あ！！！！！」

幽香「あら？何かしら？」

それにデステイニーと溝呂木、ジーノが颯爽とツツコミを入れて、
幽香は指導を止めて聞く。

サトシ「いや、それはこっちの方ですよ」

天子「そうよ！何ご馳走な事やってるの！！！」

リグル「いやいやいや！何言ってるの天子さん！！！」

サトシの後に言った顔を赤らめる天子にリグルはツツコミを入れる。

コンパ「どうせなら使う武器を増やそうと幽香さんに相談してアイ
ちゃんの協力して貰ってるんです」

リュカ「いやいやいやいや！協力と言うよりこれ別！別のになって
ますから！」

ビーストハート アイエフ「ほっ、ホントよ！戦うのかと思ったら
的って何！？」

コンパの言葉にリュカがそう言い、ビーストハートから戻りながら
アイエフはうがーと吠える。

幽香「あらそうかしら？色々と筋が良い子よこの子」

コンパ「ありがとうございます〜」

鈍感メンバーを除いた一同「（ホントこの人、ドSだ…）」

アイエフ「（コンパ、思いっきり入らないで…）」

笑顔で言う幽香に撫でられてるコンパを見て鈍感を除いたメンバーはそう言い、アイエフはコンパが入らない事を祈る。

その後、3人を加えた一同は次に旧理科室に行く…

永琳「ウフフフ…これとこれを混ぜて…リグルのスタイルを綺麗にしてハートをゲットよ」

リグル「ぴいひいひいひい！！！！」

幽香「うふふ…ホントにこの医者…#」

涎がでかねない表情で薬を作っている永琳にリグルは幽香に抱き付いて震え、それに幽香は静かに怒りマークを付けて笑顔で幽香は言う。と永琳の肩を掴んで有無を言わさずにズリズリと引き摺って窓を開けると永琳を放り投げ…

幽香「元祖『マスタースパーク』」

永琳「塵とかすううううう！！！！！！！！！！」

傘を素早く差してその先端から7色の光線を放って永琳を包み込む。

幽香「さっ、次行きましょう」

終えた後に窓を閉めて幽香は笑顔で言う。

チルノ「次は何だろうね」

レヴィ「次は旧音楽室だよね」

ネクスト「その前に旧廊下の不思議と出会つかもね」

チルノとレヴィにネクストがそう言った時…

…1枚、2枚、3枚、4枚…

ロード「ひいひいひいひい!!」

レヴィ「おお!?これは旧廊下のか!」

震えるロードとは別にレヴィは興奮して行くと…

霊夢「ねえ…お母さん、後どれ位数えれば良いのよ?」

霊夢「文句を言わずに数える…5枚、6枚…」

お札を数えてる博麗母娘がいた。

それを見てメンバーは方向を変えて旧保健室から行くと…

映姫「小町…」

小町「映姫様…」

溝呂木「良し行くぞ」

開けて一緒に寝ている映姫と小町を見て溝呂木はさっさと閉めて全員を旧音楽室へ行く。

そこには…演奏するプリズムリバー3姉妹と歌うミスティアがいた。

ルナサ「あれ？見られちゃった？」

メルラン「あらら…」

ネクスト「何をやってるんだい？」

気づいて演奏を止めるルナサとメルランにネクストは聞く。

ルナサ「いや、そろそろクリスマスだし秘密で演奏会をやるつもりだと思
つてさ」

ミスティア「私もボーカルで出るんだ」

ジーノ「そうだったのかい」

マロ「楽しみにしてますね」

ルナサとミスティアの言った事にジーノとマロが代表で言う。

さて、最後の旧校庭に行く…

冥王「なのなのなのなのなのなのなのなの…！」

デステイニー「やっぱ冥王かい……」

ヘキサ「なかなか良いね」

レイジングジャベリンで素振りしている冥王にデステイニーは顔を覆い、ヘキサは笑って言う。

と言う訳で旧校舎の七不思議を説明しようの旅は終わった。

第58話：旧校舎の七不思議（後書き）

リュカ「と言う訳で真王さんからのリクエスト話でした〜」

スネーク「アイエフ：色々〜」

ネス「だね〜」

オリマー「あはは〜」

ワリオ「次回を待ってるよ！」

第59話：暴走生誕、フランドール・エグソディアス・カタストロフィー 前編

スネーク「ヴァーラガルザからのリクエストだ」

ネス「今回はやばい事に！」

前回から数日経ってノアが帰った後の日

フラン「お姉さま……」

レミリア「……」

女神化を解いた（ただし性別は女性のまま）不動とお空と共にレミアとフランは散歩中、2人と分かれた後にとある村に迷い込んでしまう。

そこ是最悪なことに吸血鬼を村総出で狩る吸血鬼狩の村であった。

村人1「この悪魔め！」

村人2「お前達のせいだ！」

レミリア「ぐあっ！」

フラン「あっっ！」

案の定二人は捕まって村人にリンチされてしまう。

村人3「そろそろ処刑にかかろう」

その後村人達は二人を処刑しようとした時……

待っているとボロボロのレミリアはそう言っていると周りを見て……

レミリア「フランだけでも助けて欲しい」

フラン「お姉さま!？」

と懇願する。

村人4「誰が聞くか！」

村人5「そうやって俺達を殺すんだろ!！」

レミリア「ぐあっ!！」

だが断られ、逆にフルボツコにされてしまう。

フラン「(お姉さま…)

ドクン…

その光景をずっと見ていたフラン。

村人6「こいつから先にやってしまおう!！」

ドクン…

ついに村人が痺れをきらしてレミリアを処刑しようとしたとき…

ドクン…

フランに異変が…

ドクン！

レミリア「えっ？」

村人「何だ！？」

フランの背中の羽が赤く染まり巨大化し、体が赤く発光し始めた。

レミリア「…フラン…」

啞然とする満身創痕のレミリアをよそに、フランは村人達を殺し始める。

さらにデビルスがやって来て、フランを見る

デビルス「姫は目覚めたり。さあ壊そう、この醜く美しい世界を」

そう発言すると、フランを連れてどこかへ去ってしまう。

その頃

不動「あいつ等遅いな…」

お空「うにゆう…そうだね」

椅子に座りながら不動とお空は2人の心配をしていると…

???「ねえ…」

不動「ん？」

公園で休んでいた不動の目の前にトミーロードが現れる。

トミー「トリコと戦う前のウォーミングアップとして誰かさんを殺ろうと思って君に決めた。だから死んで」

と言い不動に襲いかかる。

不動「うおっ!?!」

それに不動はお空を抱えて座っていた椅子から飛び避けるとトミーのパンチが炸裂する。

不動「誰がはいそうですかと殺されるかよ!お空!援護を頼む!」

お空「うにゅ!」

着地した後にお空を降ろした後、不動はゴウリュウガンとブラスタ―を持って抵抗する。

ゴウリュウガン「敵は強敵だ、気をつける」

不動「分かってる!」

トミー「おやおや、女性なのに物騒なの持ってるね…」

ゴウリュウガンの言葉に答える不動にトミーはそう言う。

不動「俺は今性別転換してるが…男だあああああ…!!」

それに不動は叫んだ後に連発する。

トミー「ほらほらほら、当たらないよ」

不動「ちょこちょこ避けやがって!!」

ひよひよいと避けるトミーに不動は苦い顔をする。

お空も援護の弾幕を放つが効果がない。

トリコ「フライングフォーク!!」

トミー「ぐっ!!」

すると、トミーの横からトリコが攻撃をする。

不動「あんたは?」

トリコ「途中で通りかかって見たら…今だ!!」

不動「おう!食らえ!!」

トリコの言葉に不動は連続で銃弾を当てる。

トミー「くっ、分が悪いな…此処までにしとくよ」

そう吐き捨てるとトミーは其の場を去る。

トリコの支援もあって、何とかトミロードを追い払った不動はふう…と息を吐く。

トリコ「大丈夫か？」

不動「ああ…助かったぜ」

ドカーン！

トリコに礼を言った瞬間、爆発が起こる。

不動「何だ！？」

お空「あつちだよ！」

その後向こうで起こった爆発の方向へ向かうと、そこにいたのはフランとデビルスだった。

不動「フラン！？」

デビルス「姫が目覚めたのでお迎えに来た。彼女は今やスカーレットではなくエグゾディアス・カタストロフィーとしてのフランだ」

不動を見てそうデビルスはそう言う。

お空「違うよ！フランはフランだ！」

不動「その通りだ！そいつはスカーレットだ！！」

そう叫んで不動はフランを正気に戻そうと駆け出す。

フラン「『終焉』ラグナレグ・デストロイ」

その途中でフランはスペルカードを取り出して静かに宣言すると広範囲に弾幕をばらまき展開する。

不動「（今までのと違う！だが…当たらなきゃどつって事ねえ！）
」

違う技に不動は驚いたがすぐに切り替えて弾幕を避けて行くが…

ドカーン！！

不動「どわっ！？」

お空「うにゅ！？」

避けた弾幕が大爆発し、それに不動とお空は吹き飛ばす。

フラン「『狂滅』：無限天獄」

その後にフランは不動に向けて無慈悲に大きな弾を数百個発射する。

その弾は少し立つとさらに数千個ほどの弾丸に分裂変化する。

不動「シールド！！」

それに不動はスマブラでのシールドを展開して防ごうとするが…

ドカーン！

不動「ぐうううう!!」

当たった瞬間、弾は爆発し、その後に全て不動を襲う。

不動「はあ…はあ…はあ…」

爆風が収まった後にフルボコにされ、上半身の服がもうなく、下着が丸見えで血が流れてるゴウリュウガン握っている右腕を左腕で押さえる。

お空「不動!?!」

ゴウリュウガン「ダメージ率98%!危険だ!」

お空は悲痛に叫び、ゴウリュウガンが警告する。

デビルス「では、姫…トドメを…」

トリコ「させるか!!レッグナイフ!!」

ゼブラ「ボイスミサイル!!」

カービィ「ファイナルカッター!!」

デビルスが言おうとした所をトリコ、ゼブラ、カービィが攻撃する。

それにデビルスが防ぐ。

お空「あっ!さっきのお兄さんにカービィ!」

カービィ「大丈夫？」

トリコ「様子がおかしいんで隠れてついてきたが…正解だったな」

ゼブラ「調子に乗ってるなこいつ等…」

デビルス「流石に此処までだな…では姫…」

不動の前に立つて構える3人を見てデビルスはそう言つとフランと共に消える。

不動「まつ、ま…て…（バタツ）」

お空「不動！！？しっかりして不動！！」

トリコ「やべえ！！ゼブラ！早く救急車呼んでくれ！！」

追おうとして不動は倒れ、お空が駆け寄って振り、トリコが慌ててゼブラに言う。

その後、不動は九死に一生を得た。

レミリアも後に咲夜と霊夢に助けられるが、少しの間何も喋ることはなかった。

第59話：暴走生誕、フランドール・エグソディアス・カタストロフィー 前編

リユカ「続きます！」

ネス「どうなるー!!」

ワリオ「次回を見るよ!!」

第60話：暴走生誕、フランドール・エグソディアス・カタストロフィー 後編

スネーク「ヴァーラガルザのリクエスト続きだ」

ネス「ホントにどうなる!」

オリマー「始まるよ!」

不動「うっ…うっ…」

永琳「起きたわね」

ドクター「大丈夫かいファルコ君？」

呻いた後、目を開けて入って来た光に不動はまた瞑り、慣れた後に再度開くと永琳とドクターが目に入る。

不動「俺は…っ！！」

永琳「まだ動いちやダメよ…ほとんど死に掛けそうな程の傷を受けたのに生きていたのが奇跡ね」

ドクター「ナース・ザ・ハード君に感謝しとくんだよ。彼女のお陰で傷の治りも早いからね」

不動は起き上がった際の痛みに呻くと永琳がそう注意し、ドクターがそう言う。

痛みを堪え、不動は自分自身の体を見ると下の下着部分を除いて全てが包帯だけでしか包まれてなかった。

不動「俺が倒れた後はどうした？」

永琳「トリコさんとゼブラさんが呼んだ此処の医療チームであなたは運ばれて来たのよ…後でレミリアも咲夜と霊夢によって運ばれて

来てそちらも酷かったけどあなたよりかはマシ、お空もあなたに攻撃が集中していたお陰で軽傷よ」

ドクター「それでレミリア君から聞いたが…」

不動の問いに永琳はそう説明し、ドクターがレミリアから聞いたフランの変貌の経緯を話す。

不動「俺とお空から分かれた後にそんな事があったのかよ……！」

永琳「まあ、霊夢と咲夜により生き残っていた村人は絞られたわ…ほとんどあちら側も被害者だけど…事情があったとしてもやっていた事が事なだけに起こしてしまった事で情状酌量じゃ済まされないわね」

聞いた瞬間にベッドの縁を叩き、それにより来た痛みに震える不動に永琳はそう言う。

永琳「まあ、しばらくじっとしてなさい」

そう言うと永琳とドクターは出て行く。

不動「…くそう！」

2人が出て行った後、不動は拳を握り締める。

フランがエグゾディアス・カタストロフィーとなった数日後

ソラ「大変だ！まだ寝てなきゃ行けないのにファルコの奴がいなくなっただ！」

霊夢「お空やレミリアもよ！」

魔理沙「おいおい！あいつ等、フランを探しに行ったのか!？」

不動とレミリア、お空が行方不明になる。

不動「そつちで良いのか？」

レミリア「ええ…こつちからフランの力を感じるわ」

当の本人3人はフランを元に戻そうと彼女の元に向かっていた。

ただ、他の2人と違い、不動は包帯の上から上着のジャケットとズボンだけを着ている状態であった。

お空「大丈夫不動？」

ゴウリュウガン「無茶はしない方がよい…まだダメージは残っている」

不動「無茶しなきゃあ、あいつは救えねえよ」

お空とゴウリュウガンの言葉に不動はそう言う。

レミリアが言う方向へ向かってやって来た場所にはデビルスが居た。

不動「デビルス！お前の事はレミリアから聞いた!!」

レミリア「フランを元に戻しなさい!!」

デビルス「元に戻したいのなら己の力で取り戻せ!!」

2人の言葉にデビルスはそう言うと去ると同時にフランが現れる。

レミリアと不動、お空はフランを元に戻すためにフランドール・エグゾディアス・カタストロフィーに挑む。

不動「おりゃあ!!」

先ず不動がジユウクンドーでフランを攻撃して行く。

レミリア「運命『ミゼラブルフェイト』!!」

お空「熔解『メルティングホワイト』!!」

フランの蹴りで不動が吹き飛んだ後にレミリアとお空がスペルカードを宣言して一斉に攻撃する。

それ等をフランは避けた後にスペルカードを構える。

フラン「『根絶』デイバイア・エデン」

レミリアのグンニグルより数百倍威力のある槍を数百発放たれる。

お空「あわわ!爆符『ギガフレア』!!」

レミリア「神槍『スピア・ザ・グングニル』!!」

不動「リクレクター!!」

それをレミリアとお空はスペルカードで防戦し、不動はリフレクタ
ーで避けた後に来た弾幕を跳ね返して行く。

が…

ドカーン！！

不動「ぐわあああああ！！」

お空「うにゅうううう！！」

レミリア「あああああ！！」

後から飛んで来た弾幕の一部が爆発し、3人は大ダメージを受ける。
どうやら3人が防いでいる間に別のスペルカードを唱えていたよう
だ。

不動「がっ…はっ！」

お空「うう…強過ぎる…」

レミリア「フラ…ン…」

倒れて呻く2人の隣でレミリアの意識が朦朧しだす。

意識が朦朧となっているレミリアの心の中に、もの凄く遠くで見て
いたデビルスが話しかける。

デビルス「力を望むか？」

尋ねかけるデビルスにレミリアは唇を噛む。

レミリア「フランを助けられるなら何でも良い。」

その問いにレミリアそう返答する。

デビルス「ではよろう…力を」

デビルスはレミリアに力を与える。

不動「レミリア…？」

お空「うえっ！？どうなってるの!？」

そして目覚めるとレミリアには強大な授かっていた。

だが…

レミリア「うがあああああ!?!?!」

手に入れた力の強大さのせいでレミリアは暴走する。

レミリア「うわあああああ!?!?!」

フラン「!」

レミリアはフランに近づくと叩き潰し、さっきまで苦戦したのが嘘の様に殴って行く。

フラン「痛い痛い痛い！お姉さま痛い！」

レミリア「あああああああああああ！！！」

それどころか正気に戻ったフランをまだフルボッコにする。

不動「止めるレミリア！」

お空「そうだよ！フランは正気に戻ったよ！！」

フラン「不動…お空…！」

さすがに見かねた不動がレミリアを止めようとするが…

レミリア「あああああああああ！！！」

不動「ぐあああああああ！！」

お空「うにゅううううう！！」

暴走したレミリアに吹き飛ばされてしまう。

マリオ「おりゃあああああ！！！」

レミリア「ぐがっ！？」

もう1度フランを殴ろうとするレミリアをいきなり現れたマリオが蹴りを入れて離れさせる。

レミリア「あがあああああああ！！！！！！」

マリオ「レミリアやめるんだ！！」

クツパ「妹を殴る姉がどこにいるのだ！」

標的を今度はマリオに変え、マリオは来る攻撃を掃いて行き、途中で現れたクツパも参加してレミリアと戦う。

デビルス「邪魔者が現れたか…」

それにデビルスは舌打ちして割り込もうとした時…

ソニック「おっと！お前の相手は…」

フォックス「俺達だ！」

そこにカリバーンとデルフを構えたソニックとクリスタルロッドを構えたフォックスがデビルスの前に立ち塞がる。

デビルス「成る程…フォックス・マクラウド、お前が呼んだのか…」

フォックス「ああ、丁度この辺りを泥棒を追いかけていた所だったからな」

ソニック「まあ、マリオが風からフランが大変な事になってたのを知ってたから探してて食事中にキノコを泥棒されたから追いかけてたんだよな…」

デビルスの問いにフォックスはそう言い、ソニックが付け加える。

その際、デビルスはソニックの両腕に装備している焔の模様が描かれた真紅の籠手を見て驚く。

デビルス「それは！？拳の次元器、ブレイブ・オブ・ブレイカー！？」

ソニック「WHAT！？これ次元器だったのか？」

カリバーン「どうもただ嚴重にあの遺跡に保管されてる訳ではなかったのだな」

デルフ「おでれーた！まさか次元器とはよ！力は感じたが他の見つけた次元器と違って全然違うもんだったから分からなかったぜ！」

デビルスの言葉にソニック達は驚いて自分の装備しているブレイブ・オブ・ブレイカーを見る。

ソニック「まあともかく、行くぜ！」

そう言うと同時にソニックは擬人化して、神代 神速の姿となるとカリバーンを前に構える。

神速「変身！！」

そう言うと同時に神速の体のその上に蒼いライダースーツが装着され、その上にエクスカリバーソニックの鎧を模した青い鎧が装着され、背中に赤いマントを装着し、顔を額に赤いクオーツが付いたスリット奥に緑色に光る目がある仮面ライダーナイトサイブを模した仮面が装着される事で神速は『仮面ライダーカリバー』に変身し

た。

さらに両腕に装着されたブレイブ・オブ・ブレイカーの焰の模様が
光り輝き、カリバーの懐にあった7つのカオスエメラルドが飛び出
してカリバーの周囲を周りだすと鎧に一体化し、鎧はメタリックレ
ッドに輝き、マントが虹色に変わり、ブレイブ・オブ・ブレイカー
も少し形状を変えてカリバーの鎧の一部となると額のクオーツが赤
から緑に変わり輝く。

デビルス「なっ!?!」

フォックス「姿が変わった!?!」

カリバー「Amaze! さらに心の底から燃え上がるぜ!」

カリバーン「私達にも伝わって来るぞ神速!カリバーの新しい姿!
名づけて『ブレイブカリバー』だ!」

デルフ「燃えて来るぜおおお!!」

驚くデビルスとフォックスを気にせず、ブレイブカリバーは燃え上
がり、デビルスに向かって行く。

不動「まだ…ま…だ…」

お空「不動!これ以上は無茶だよ!」

ゴウリュウガン「確かに危険だ!」

フラン「不動…」

起き上がるうとする不動をお空とゴウリュウガンが止めにかかり、そこにフランが来る。

フラン「私…私…」

不動「フラン…」

泣き出そうとするフランを不動は抱き締める。

フラン「わっ、私、また不動を壊しかけた…また…！」

不動「お前は色々起こしちまった…その罪を忘れるなよ」

泣き出すフランを不動は頭を撫でてる間に腕輪を付けて女神化する。

フラン「不動？」

ファルコン・ハート「お前が苦しんだ…今内包されてる力を一か八か吸収してやる」

ゴウリュウガン「危険すぎるぞ！」

お空「そっ、そうだよ不動！」

決意の目で言うファルコン・ハートにゴウリュウガンとお空は再び止めにかかる。

ファルコン・ハート「ゴウリュウガンは知ってるだろ？悪いがそう

言うの危機感は一スターフォックスに入ってから慣れたくないが慣れてるんだよ!」

そう言うとファルコン・ハートはフランの肩を掴むとそこから力が流れて来るのがファルコン・ハートには分かった。

レミリア「ああああああああ……」

マリオ「レミリア!」

クッパ「何なのだ!?!」

一方、マリオとクッパの方ではレミリアの体から黒い光が飛び出してファルコン・ハートに飛んで行く。

ファルコン・ハート「うおおおおおおお!!!!!!!!!!」

レミリアから飛んで来た光を受けた後にファルコン・ハートは光に包まれる。

デビルス「何だ?」

フォックス「ファルコ!?!」

Bカリバー「何が起きてるんだ?」

戦っていた3人はそれに気づいて見る。

そして……晴れるとファルコン・ハートの姿は変わっていた。

髪は真紅に染まり、翼の以外にマグナリュウガンオーを模したプロセッサを装着したファルコン・ハートがいたが、その腕から女神の腕輪が外れていた。

デビルス「バカな…」

驚くデビルスの前に立ち、ファルコン・ハート、否、進化した女神は新たな名を名乗り上げる。

ファルコン・ハート　マグナハート「マグナハート！ライジン！」

マグナゴウリュウガンと左腕に鳥を模した銃『マグナバード』を持ち、デビルスを睨む。

マグナハート「良くも俺の嫁と義姉になるレミアアを傷付けたな… たっぷり礼をさせて貰うぜ！」

Bカリバー「んじゃあレッツゴー！！！」

駆け出す2人にデビルスは七本の剣を出現させて、2人を迎撃する。

Bカリバー「はああああああ！！！」

マリオ「此処は任せろおおお！！！」

フォックス「はっ！！！」

それをBカリバーと後から来たブレイブスラッシャーを持ったマリオ、フォックスが受け持つとマグナハートはデビルスに駆け出す。

デビルス「蒼炎華、陽炎」

それにデビルスは花のように散る蒼い炎とデカイ弾丸を放つが…

マグナハート「おらおらおら!!」

それをマグナハートはマグナゴウリユウガンとマグナバードを連射して打ち落とす。

マグナハート「おらららららら!!」

デビルス「ぬっ! 絶靴!!」

マグナハートの連続攻撃を避けながらデビルスは足を鋼鉄に変化させて攻撃するがマグナハートも避けて行く。

そして距離を取った後にマグナハートはマグナゴウリユウガンとマグナバードをエネルギーチャージした後に構える。

マグナハート「食らえ! マグナドラゴニックバード!!」

そう言うそれぞれの銃口から龍と鳥のエネルギー弾が飛び出す。

デビルス「神鎧壁!!」

それをデビルスはバリアを張ってそれを防ぐが後ずさる。

マリオ「いくぜソニック!!」

Bカリバー「オーライ!!」

そこに七祇を全て撃破したマリオとBカリバーがジャンプしてマグナハートの上で必殺技の構えを取っていた。

マリオは両腕に炎を構え、Bカリバーはカリバーンとデルフを仕舞い、両手を握り締める。

マリオ「マリオファイナル!!」

Bカリバー「^{エクス}約束された!」

最初はマリオがマリオファイナルを放つとその後にBカリバーが魔方陣を超えながら右腕を振りかぶり…

Bカリバー「^{フレイカー}勝利の拳!!」

マリオファイナルが神鎧壁に命中した後にBカリバーは右手を叩き付けて神鎧壁を破壊した後…

Bカリバー「おりやああああ!!」

デビルス「ぐあああああ!!」

左腕でデビルスを殴り飛ばす。

最後にマリオファイナルとマグナドラゴニックバードが命中する。

マグナハート「ジ・エンド」

吹き飛ばすデビルスに背を向けてマグナハートはそう告げる。

デビルス「くっ…君達は計算外を本当に起こしてくれる！」

ボロボロの状態でそう吐き捨てるのでデビルスは消えた。

それを見届けた後にマグナハートは女神化が解け、倒れこむ。

???「も…姉貴は無茶すぎですよ！！」

???2「まったくです。マスターファルコは無茶すぎです」

不動「うつせえ…エンジエにエイン」

病室で緑色の腰まで来る髪をポニーテールにし、赤のタンクトップの上にファルコが着ている上着を着て、茶色のホットパンツを履いている少女『エンジエ』にネギま！の茶々丸に似たメイド服を着た女性、エインシャントにまたも包帯だらけの体で不動はそう言う。

今度は足や腕にもギプスがされている。

ドクター「本当に今回も奇跡的とも言えるよ」

永琳「ホントね…フランに吸血されまくってるせいかしらね…」

ドクターと永琳が呆れた顔で不動を見て言う。

フラン「不動…ホントにごめんね」

お空「うにゅ…」

不動「ああ…もう…2人共こっち来い」

落ち込むフランと何も出来なかったので落ち込んでいるお空に不動はため息を付いた後にそう言い、2人は近寄ると…

キスされた。

不動「俺寝るからな…」

照れ隠しにそう言うと不動は眠る。

エンジエ「あつ、姉貴ズルイですよ!」

エイン「我々も!」

ドクター「こらこら患者を揺すろうとしない」

フラン「はわわ〜」

お空「うにゅ〜」

自分もと頼み込むエンジエとエインにドクターは押さえ込み、フランとお空はトリップする。

ちなみに…

へキサ「さて、たっぷり話し合おうか」

マリオ「マンマミーア!」

へキサ「あっはっはっ、義母兼妻は此処にいるぞ」

マリオ「そうでした！ってかあなたの夫はあの人でしょおおおお
おお！！」

へキサ「良いではないか」

ピーチ「良くないわ！！私です！！」

へキサに弄られながら扱かれてるマリオであった。

第60話：暴走生誕、フランドール・エグソディアス・カタストロフィー

後編

リユカ「と言う訳でヴァーラガルザさんからのリクエスト話でした」

スネーク「いやー…書くの大変だったな…」

ネス「だね」

クツパ「次回を待っているのだ!!」

第61話：アイドルアリーナ（前書き）

スネーク「なめ猫からのリクエストだ」

ネス「千早さんと春香さんがね」

リュカ「どうなるかな？」

第61話：アイドルアリーナ

龍騎との出会いから学んだ事を胸に刻んで練習して来た千早と春香はいよいよあずさと勝負する日が来た。

春香「やっぱり凄いなあずささん…」

千早「そうね…」

控え室のテレビで今歌っているあずさを見て呟く春香に千早は同意する。

春香「けど…私達は私達で頑張ろう!」

千早「ええ…龍騎さんに教えられた事を刻んでね!」

こなた「やっぱり凄いな〜」

かがみ「ホントね」

観客席でこなた、かがみは歌っているあずさを見てそう言う。

他につかき、みゆき、圭一、レナ、誠、言葉、カイト、ミア、シルフィ、ほむら、ルイーダ、ソラ、ソロ、チルノが来ていた。

圭一「それにしても…マリオさんも来るんだっただよな?」

レナ「いないね?」

ルイーダ「それが…直前になって依頼が入って…しかも重要なのらしいから…兄さんは応援したかったって嘆いてたよ」

誠「そうなんだ…」

周りを見て言う圭一とレナにルイーダは頬をポリポリ掻いてそう言う。

ソラ「マリオは応援にはすぐに駆け付けるからな」

ソロ「だから今回の奴に思いっきり残念がってたぜ」

カイト「それは残念だったなマリオ」

苦笑する2人の言葉にカイトはそう言う。

ミリア「2人共大丈夫かな…」

チルノ「大丈夫だよ！2人共沢山練習したんだもん！」

言葉「そうですね」

不安がるミリアにチルノは胸を張って言い、言葉は笑って言う。

すると…

龍騎「間に合った！」

ちひゃー「くっ！」

はるかさん「かつか！」

みづらさん「あらー」

つかさ「ふえっ!?!」

メンバーがいる場所に龍騎が慌てて来て、息を吐く龍騎につかさは驚く。

ほむら「誰?」

ルイージ「ああ…」

事情はこっちに聞けば分かるな感じに聞くほむらにルイージは説明する。

シルフィ「別世界のお2人方のプロデューサーですか?」

龍騎「うん、此処に来たのは応援したかったんだ」

みゆき「そうなんですか」

ちひゃー「シャーー!!」

ミア「あ…」

カイト「ミアが抱こうとしたら威嚇するんだけど?…」

説明された事にシルフィは聞いて龍騎が頷き、みゆきがそう言つと

カイトがほむらが抱き上げてるちひゃーがミリアを威嚇してる事を言う。

龍騎「あー…ちひゃーは…その…」

カイト「分かった。その反応でどうして威嚇するか分かった。」

???「あつ！こなこなじゃん！」

口ごもる龍騎の様子にカイトがそう言った時、向こうからこなたを呼ぶ声が全員がその方向を見る。

こなた「おー亜美じゃ〜んおひさ〜」

亜美「おひさ〜」

こなたが集団の先頭を歩く女の子、亜美に声をかけ、亜美も返してハイタッチする。

はるかさん「かつ！」

もちゅー

伊織「みぎゃああああ！？何々！？」

小鳥「伊織ちゃん！？」

こなた「おー元気ですな〜」

かがみ「のんきに言ってるんじゃないわよ！」

龍騎「あー！はるかさんその子別世界！別世界の伊織だから！！」
そんな中にいた伊織にはるかさんが張り付き、伊織は突然の事に驚き、小鳥の後に龍騎が剥がす。

やよい「うわあ…ちっちゃい春香さんに千早さんにあずささんれすう〜」

目を輝かせてやよいははるかさんとちひゃーとみつらさんを見る。

龍騎「あの、あなたが765プロのプロデューサーですか？」

それを尻目に龍騎が1人の男性に聞く。

猫ナム「はい〜猫ナムって言います〜そう言うあなたは？」

龍騎「俺は龍騎と言います。別世界の765プロのプロデューサーをしています」

真美「え〜！？お兄ちゃんはプロデューサーなの！？」

真「しかも765プロの！？」

自己紹介しあう2人に聞いていた真美と真が驚きの声を上げる。

他の765プロメンバーも驚きの表情で見ている。

龍騎は事情を話して、それにメンバーはなんとか納得する。

伊織「んじゃあ春香に似ているこの子は何？」

龍騎「その子のはるかさん、ぶちどるの1体で、命名者は内の春香、
んでこの子はちひゃー、」

ちひゃー「くっ」

自分の顔に張り付こうとしているはるかさんを押さえてる伊織に龍騎はそう言い、自分の隣にいるちひゃーを指して、ちひゃーは挨拶として手をあげる。

龍騎「んで、俺の頭にいるのがあずささんに似ているのはみつらさん、この子の命名者ははるかさんと同じ春香だよ」

みつらさん「あらー」

美希「へえ〜」

龍騎「ちなみに765プロのアイドル全員に似たぶちどるは他にもいるよ。後小鳥さんも」

響「おお〜会ってみたいな！」

貴音「色々と気になりますね」

龍騎「見る？写真はあるよ」

じい〜と見る美希や他のメンバーに龍騎はそう言い、興味津々な響と貴音の言葉に龍騎は写真を取り出そうとするが…

社長「まあまあ、それは千早と春香のを見てからにしよう」

猫ナム「社長の言う通りだよ…ほら」

司会者「それでは次はホープオブアイドルの如月千早と天海 春香
です…！」

社長と猫ナムがそう言った後の司会者の言葉と共に千早と春香が現
れる。

龍騎「頑張れよ2人共！」

ちひゃー「くっくー！」

雪歩「春香ちゃんガンバレー！」

律子「しっかりね千早！」

カイト「2人とも頑張れ…！」

ソロ「見せてやれ！」

それと共にそれぞれが応援し、春香と千早は笑った後に顔を引き締
め、音楽と共に歌い、踊る。

ソラ「良いな…」

チルノ「ホントだね」

外にて…

マリオ「やってるだろうな…」

ソニック「マリオ、言う暇あるならやるうぜ」

思いつきり引いているマリオにソニックは倒しながら言う。

ちなみにマリオ達が受けた依頼はアイドルアリーナの防衛である。

とある人物から誰かが妨害にしようとして来たらその放った奴を倒して欲しいとの事である。

マリオ「（頑張れよ、千早、春香）」

マリオが心の中で春香と千早を応援してる頃、2人もフィニッシュを決めた所であった。

司会者「それでは結果をしばしお待ちください」

亜美「どうなるのかな…」

真美「そうだね…」

猫ナム「大丈夫だよ」

龍騎「俺も大丈夫だと思うよ」

不安がる亜美と真美に猫ナムと龍騎はそう言う。

レナ「どうなるかな?かな?」

チルノ「こっちが緊張するね」

圭「そうだな…」

全員が結果が出るのを待つのにドキドキする。

そして…

司会者「結果は…ホープオブアイドルの如月千早と天海 春香!」

一同「!」

わーーーーー!!!

結果と共にメンバーは歓声を上げる。

春香「千早ちゃん!」

千早「春香…私達…勝ったのね?」

???「2人共おめでとう」

結果に春香は顔を千早に向け、千早は実感がまだ湧いてないようであつたがそんな2人に女性が近寄り、賞賛の声をかける。

春香「あずささん!」

あずさ「2人の歌はホントに良かったわ〜心に響いたわ」

千早「あっ、ありがとうございます」

あずさの言葉に千早は頭を下げる。

こなた「2人共々良かったね〜」

美希「おめでとうなの〜」

律子「頑張ったわね2人共々!」

そこに他のメンバーが来て2人に駆け寄る。

それをあずさはあらあらーと微笑んでみていた。

第61話：アイドルアリーナ（後書き）

リュカ「と言う訳でなめ猫さんからのリクエスト話でした」

ネス「いや〜大変だったね〜」

クツパ「うむ、表現がな…」

ファルコ「だな…次回を待ってるよ！」

第62話：タコつぼの中にイカ?! (前書き)

マリオ「ケンからのリクエストだ!」

マロ「僕達がメインと言う事で変わりですね」

ジーノ「そうだね」

クッパ「頑張るのだ!」

ソニック「ってか何で俺まで?」

第62話：タコつぼの中にイカ？！

マリオ「此処が噂の場所か…」

目の前の大きな池を見てマリオは呟く。

『超次元学園付近の大きな池の中に大きな主がいた』という噂を聞き、マリオ、マロ、ジーノ、クツパ…そしてソニックが来たのだ。

ちなみにソラとソロとチルノは幻想卿メンバーと共に幻想卿を取り戻す為に幻想卿で大暴れ中

ソニック「なあ、俺帰って良い？普通に水苦手なんだけど…」

クツパ「変身すれば大丈夫であろうが…と言うかデルフいるから活動出来るではないか」

尻込み気味なソニックにクツパは呆れて言う。

その後、ソニックがカリバーに変身して5人はいざと入ろうとした時にカリバーがストップをかける。

マリオ「どうしたカリバーン？」

カリバー「いきなりなんだ？」

カリバーン「うむ…ソニック、ブレイブ・オブ・ブレイカーでブレイブカリバーにフォームチェンジした事を覚えてるか？」

カリバー「そりゃあ覚えてるさ、けどそれがどうしたんだ？」

マリオとカリバーの問いにカリバーはそう聞き、カリバーは思い出しながらそう聞く。

今はブレイブ・オブ・ブレイカーは他の次元器と同様にアルティメット・ザ・ハードの所に保管されている。

ちなみに戦いの後にマリオがゼロに変身して装備してみたが変化はなかった。

カリバーン「うむ…試しにソニック、ギャラギシアを思い浮かべて呼んで見る」

そう言われて、メンバーが首を傾げる中、カリバーは半信半疑に言われた通り、思い浮かべた後に左手を掲げて叫ぶ。

カリバー「来い！ギャラギシア！！」

学園地下室

台座に置かれていたギャラギシアが輝くと其の場から消える。

戻ってマリオ達の所

マリオ「そう言えばそうだな…それを言うなら槍の次元器、シャ
ンバリガをミリアが使った時と言えるがな…」

カリバーンの言葉にマリオは本家でミリアが2回使った時のを思い
出して呟く。

カリバーン「あの時は同じ銃の次元器、魔霸王零式砲を相殺の時
に使われたからな…だが、それとは違い、ソニックはブレイブ・オ
ブ・ブレイカーを制御していた…試しに振って見る」

Sカリバー「まあ…んじゃあ」

カリバーンの言葉にSカリバーは軽く振る。

ただ、それだけで他に何にもなかった。

クツパ「何もないな…まあ分かったからさっさと入るのだ…我輩と
このルナティックトゲワンワンが暴れたいとつずつずしてるのだ」

それを見てクツパは瑠璃色のカラーリングをした棘付ワンワンを振
り回しながら言う。

マリオ「そうだな…んじゃあ行くか！」

Sカリバー「あんま気乗りしないんだけどな…」

マリオの号令の後、5人は池の中へ飛び込む。

マリオ「普通に綺麗だな…」

マロ「ホントですね」

周りを見ながらマリオは池の中の綺麗さにそう呟き、マロも同意する。

クツパ「ん？」

Sカリバー「Hey どうしたクツパ？」

ふと、クツパは前を見て何かを発見し、Sカリバーが聞いた途端…

ジーノ「！皆離れる！」

何かに気づいたジーノの言葉に4人は其の場を離れると底から何かが出て来る。

Sカリバー「いきなり何だ？」

マロ「あれ？何か見た事ある様な…」

出て来た奴にSカリバーはギャラギシアとカリバーンを構え、マロは出て来た奴、2本の白い何かに首を傾げる。

マリオ「確かに…何か足だな…」

クツパ「おお！言われて見ればスターピース事件でこのパターンがどこかであったな！」

手に炎を纏ってマリオは同意し、クツパも避けながらそう言う。

ジーノ「海賊船だ！海賊船で出会ったあのデカイゲツソの足だ！」

マリオ「ああ…確かにこう言う感じだったな！」

ジーノの言葉にマリオはスーパーファイアを放って1本の足を燃や
す。

クッパ「食らうのだ！！」

そしてクッパはルナティックゲワンワンを残っていた1本に投げ
るとルナティックゲワンワンは棘を突き出して攻撃する。

その後、2本の足は地面へ戻る。

5人はそのまま進むと蛸壺を見つけ、近寄ると中からデカイゲツ
ソ、タコつぼゲツソが出てくる。

マリオ「久々だな」

ジーノ「思い出すねスターピースを探した旅を…」

クッパ「うむ…」

マロ「そうですね」

Sカリバー「Hey、懐かしんでる所悪いけど援護頼む！」

タコつぼゲツソを見てスターピース集めの旅を思い出してしみじ
み言う4人にタコつぼゲツソの足を輪切りに切りまくりながらS

カリバーがそう言う。

マリオ「そうだったな！」

クッパ「行くのだ！！」

マロ「はい！」

ジーノの他3人が答えた後にそれぞれ月製の物で攻撃して行く。

ジーノ「ジーノカッター！」

最後にジーノがジーノカッターを投げてタコつぼを綺麗に切ると左
右に落ちる。

それにタコつぼゲッソーは大慌てで去って行く。

マリオ「つい勢いでバトルしたが…」

マロ「ちょっと可愛そうな事しちゃいましたね」

去って行くタコつぼゲッソーを見ながらマリオとマロはそう呟いた。

ジーノ「あれ？」

見届けていたジーノはタコつぼがあった場所に何かを見つけ降り立
つ。

クッパ「どうしたのだジーノ？」

ジーノ「これは…弓？」

同じ様に降りたクツパの言葉に答えず、ジーノは持った奴を見てそ
う呟く。

その後、ソニックが輪切りしたイカの奴を持って帰りイカパーティー
したのであった。

第62話：タコつぼの中にイカ?! (後書き)

マロ「と言う訳でケンさんからのリクエスト話でした」

マリオ「いや〜ホントに懐かしかったよな」

ジーノ「ホントだね」

クッパ「うむ」

ソニック「次回を待ってるよ!」

第63話：マイティくじ引き大会（前書き）

スネーク「龍の骨からのリクエストだ」

ネス「今回はどうなるんだろうね〜」

オリマー「ホントだね〜」

第63話：マイティくじ引き大会

練習場で弓を構えた鎧はメタリックイエローに染まり、額のクオーツが赤から水色に変わり輝くカリバーがあり、弓矢を放つ。

それは用意されていた的を5枚貫く。

マリオ「封印されててもその威力は凄いな」

カリバー「そうだな…この弓の次元器、スターエンド星の終わりって凄いな」

カリバーン「そのお陰で『スターカリバー』へとなれたがな…」

ジーノ「拳の赤のブレイブカリバー、剣の灰色のソードカリバー、弓の黄色のスターカリバー、シャンバリガを持つ事なる槍の青の『シャンカリバー』、魔霸王零式砲を持つ事なる銃の水色の『ガンカリバー』、殺人絶超斧を持つ事なる斧の紫の『アックスカリバー』…後見つかってない杖だと緑になるのかな？」

星の模様が書かれた弓を持って言うマリオにカリバー現スターカリバーは同意し、カリバーンが言った後にジーノが現代ある次元器でなれる色と名前を言った後にまだ見つかってない杖を思い浮かべて言う。

ちなみに真王に許可を貰って剣と拳と今使っている弓以外の見つかった次元器でなれるかを試した結果がジーノの言った名前の奴になった。

零斗「お〜い」

変身を解いたソニックと会話しているとそこに零斗が来る。

マリオ「どうした零斗？」

零斗「ちょっと来てくれ」

マリオの問いに零斗はそう言うとカムカムと手を振る。

ルイーダ「あつ、兄さん」

クッパ「お前も呼ばれたのか」

そこには数人いて…

霊夢「まったく紫とお母さんは…」

魔理沙「まあまあ、良いじゃねえか」

紫とそれぞれの親により幻想郷を取り戻した後、超次元学園に生徒として入った霊夢と魔理沙もいる。

ちなみに他にもアリスとパチュリー、萃香とレミリア、リグルとミステリア、幽々子、ルーミア、鈴仙、美鈴、咲夜、妖夢、犬走 椋、はたて、輝夜、妹紅も生徒としており、慧音と永琳も先生としている。

後、ファルコの舎弟のエンジェに従者のエインも生徒としている。

零斗「よし集まったな」

セイタ「あの零斗先輩…集めた理由は何ですか？」

零斗が話し合ってるメンバーを見て言い、セイタが代表で聞く。

零斗「え〜…これよりマイティくじ引き大会を始めようと思います
!」

幽香「マイティくじ引き大会？」

零斗の言葉に全員顔を見合わせる。

零斗「ちなみに当たりが出たら素敵なプレゼントが出すぞ」

霊夢「やりましょう」

魔理沙「どう言っのか気になるな」

零斗の言葉に霊夢と魔理沙は参加を決め、マリオ達もプレゼントが
気になるので参加する。

零斗「んじゃあ最初はマリオな」

マリオ「俺か…んじゃあ…」

零斗に言われてマリオは目の前に置かれた箱に手を突っ込み、紙を
取り出す。

マリオ「えっと…『毬男』？」

続いてリグルが引いて、ドドドドドと来た永琳を幽香がマスター
スパークで吹き飛ばす。

その後、アイエフが引いたら首輪でコンパが首輪代わりのチョーカ
ーをアイエフに付けたり、ジーノが引いてキノコと出てキノコにな
ったりなど色々あった。

チルノ「ようし！アタリを当ててやる！」

マリオ「頑張れよチルノ！」

ソロ「どうなるんだろうな」

ソラ「だな」

ルイージ「ってか3人共……」

意気込むチルノにそれぞれ毬に埋もれた3人はそう言い、そんな3
人に狐スーツを着たルイージは顔を抑える。

チルノ「よつと………」

紙を引いた後にチルノは開くと……笑顔になる。

チルノ「アタリだあああああああ！！！」

零斗「マジで！？」

キャットホーリーと喜ぶチルノに零斗は驚く。

チルノ「ねえねえ！！プレゼント何！！」

零斗「待った待った…後日郵送で送るから」

ツッコミメンバー「何で郵送！！」

と言う訳で後日、チルノは素敵なプレゼントを買ったのであった。

第63話：マイティくじ引き大会（後書き）

リュカ「と言う訳で龍の骨さんからのリクエスト話でした」

クツパ「色々と大変だったのだ」

ネス「ですな」

ワリオ「次回を待ってるよ！」

第64話：血染めの魔術師・ロウマン 前編（前書き）

スネーク「真王からのリクエストだ」

ネス「3話構成だよ」

オリマー「始まります」

第64話：血染めの魔術師・ロウマン 前編

文「あやや…色々と怖い話ですね…」

はたて「ホントね…」

チルノ「あやゝはたて〜どうしたの？」

とある日、新聞を見ていた文とはたては眉を潜めているとチルノが来て聞く。

文「あつ、チルノさん」

はたて「これよこれ」

気づいた文とはたてが見ていた新聞の一面を見せる。

『ある日とある館でロウマンと名乗る魔術師が現れ彼の魔術で人々は魅了されていた。しかし毎日行く人たちはロウマンの屋敷に赴いてから帰っていない。異変に気付いた警察隊が向かったが、一人を除いてみな肉片に姿を変えた。生き残った警官はうわごとで「見えない…見えない…」といった』

チルノ「これは酷いね…」

ソラ「確かにそうだな」

ソニック「YES」

明久「見えないって何なんだろうね？」

その内容に顔を顰めるチルノの後ろで覗き込んでいたソラとソニツクが同意し、明久は警官の言った事を考える。

その後、気になったチルノ達は文とはたてを除き、他にソロ、ムツツリーニとルイーダにデステイニーとマグナハート、フラン、お空、美鈴と鈴仙、妖夢、咲夜、栂（犬走）に異変解決専門家の霊夢と魔理沙と共にロウマンの館へと潜入をするのであった。

ネオス「不気味だね……」

ネクス「……………ホントに静か過ぎる……」

その途中で変身したネオスとネクスはロウマンの館を見てそう感想を言う。

妖夢「（ガタガタガタガタガタガタ）」

美鈴「妖夢さん、怖いんなら無理に付いて来なくて良いんですよ……」

妖夢「い、いえ……め、美鈴さんはわっ、私が守ります（ガタガタ）」

美鈴に引っ付きながら妖夢はそう言う。

ポン

妖夢「みよおおおおむぐっ!?!?」

マリオ「シーー！俺だよ俺！！」

ルイーダ「兄さん？どこ行ってたの？」

いきなり肩を叩かれて悲鳴をあげかけた妖夢の口を塞ぐマリオにルイーダは聞く。

マリオ「真王理事長の方の依頼を受けてロウマンの館に潜入しようとしてたんだよ…」

ソロ「マリオもそうだったのか…」

ソラ「んじゃあ入るか」

マリオの説明にソロが呟いた後のソラの言葉に全員はロウマンの館に改めて潜入する。

美鈴「血生臭いですね」

デステイニー「しかもそれが物凄いな…」

霊夢「きつと入って戻ってこなかった人達に警官隊の奴ね…」

中に入り、物凄い血生臭さに美鈴とデステイニーは顔を顰め、霊夢がそう推察する。

椀（犬走）「わふう…」

魔理沙「こりゃあまいったやうぜ…とっとと解決して出ようぜ」

フラン「そうだね」

その匂いに椀（犬走）は鼻を押さえて美鈴に抱き付き、魔理沙は帽子をかぶり直して言い、フランが同意する。

咲夜「それにしても…これじゃあ犬の匂いを嗅いでロウマンを探すと言っるのは無理ね」

椀（犬走）「わう！私は白狼天狗！！それに知らない人の匂いなんて分かりませんよ！」

マリオ「あっ、そうそう、ロウマンの外見は黒いシルクハットとマントと仮面をつけ赤い服を着た男だ」

肩を竦める咲夜に椀（犬走）は噛み付き、反論し、マリオが外見を言う。

その後メンバーは進むと謎のクリスタルのある間に着く。

チルノ「何あれ？」

マグナハート「何かありそうだな…」

鈴仙「……あら？」

咲夜「ん？」

それを見たチルノとマグナハートが呟いた後に鈴仙と咲夜が声を漏らす。

美鈴「どうしたんですか咲夜さんに鈴仙さん？」

それに気づいた美鈴が聞いて、2人が言おうとした時…

ソラ「どわっ！」

ルイージ&ネオス「うわっ!?!」

突如聞こえた3人の声にメンバーは振り返ると腕を押さえるソラとルイージに胸を押さえるネオスがいた。

マリオ「どうした!?!」

ソラ「何か、見えない何かに切られた」

ルイージ「咄嗟に動いたからかすり傷だけ…」

ネオス「もしかしてこれが…警官隊の生き残りが言っていた奴…!」

マリオの問いにソラとルイージはそう言い、ネオスが新聞で警官の言っていた事を理解する。

霊夢「これは…一筋縄じゃ行かないわね…」

それを見て霊夢は呟く。

第64話：血染めの魔術師・ロウマン 前編（後書き）

リュカ「続きます」

ネス「前中後の3編でやるからね」

スネーク「次回を待ってるよ！」

第65話：血染めの魔術師・ロウマン 中編（前書き）

スネーク「続きだ」

ネス「応援来る」

オリマー「それからゲストで亀鳥虎龍さんのキャラも登場するよ」

第65話：血染めの魔術師・ロウマン 中編

チルノ「うひゃあ!」

ソロ「うおっ!」

美鈴「っ!」

次々と来る攻撃にそれぞれギリギリ避けながら警戒していた。

魔理沙「全然姿が見えないな…」

お空「狙いが定まらないよ」

ソニック「こうなったら…変身!」

ソニックは擬人化するとすぐさまカリバーに変身し、左手を掲げる。

カリバー「来い!殺人絶超斧!!」

叫ぶと同時に左手に殺人絶超斧が現れ、それを握るとカオスエメラ
ルドが鎧と一体化し、マントは虹色に、鎧はメタリックパープルに
染まると額のクオーツが赤から灰色に輝く『アックスカリバー』へ
と変わる。

Aカリバー「はっ!!」

早速Aカリバーは殺人絶超斧を振るい、誰もいない場所に衝撃波を
放つ。

妖夢「みよん!!」

ただ、変化はなく、今度は妖夢が攻撃され、刀で防ぐ。

ネクサス「……………全然当たってない」

Aカリバー「やっぱり数うちや当たるは無理か…」

鈴仙「それだったらクリスタル狙って!!」

ネクサスの呟きにAカリバーは頭を掻くと鈴仙がピーター・ザ・ラビットを構えながら言う。

Aカリバー「クリスタル…あれか…エクス約束された…」

鈴仙の指示にAカリバーは殺人絶超斧を構え…

Aカリバー「アックス勝利の斧!!」

振るうと共に凄まじい衝撃波が放たれ、それはクリスタルをぶっ壊す。

すると…部屋の雰囲気が変わった。

Aカリバー「部屋の雰囲気が変わった…」

鈴仙「やっぱりね…」

咲夜「この間の空間があのクリスタルで変化していたみたいね…」

アックスカリバーから元に戻ったカリバーが言った後に鈴仙と咲夜がそう言う。

霊夢「…クリスタルが壊れた後に何か得体のしれない物が見えた気がするわ…」

チルノ「霊夢も？あたいもだよ」

椛（犬走）「私も見えました」

妖夢「なななななななんですかあれ…」

魔理沙「…お前はお前でそんなに怖いならなんで来た…」

腕を組んで霊夢がそう言い、チルノと椛（犬走）が同意して美鈴に抱きついて震えてる妖夢に魔理沙はそう言う。

Uメフィスト「皆無事か！」

オーズPC「ぷっ！」

そこにUメフィストになった溝呂木とオーズPCに変身したギルが来る。

が…後ろにデイケイドとフォーゼとWCJXとオーズにアंक、なのはとセイバーの他、1人の女性と2人の少女がいた。

ルイージ「久しぶりだね。また会う事になるなんてさ」

WCJX（上条）「そうだな」

WCJX「僕達も驚いてますよ」

マリオ「よう剣護」

剣護ディケイド「あの時ぶりだなマリオ」

アंक「ってかこいつがギル？」

オーズPC「ぷっ？」

ガラ「いつ、色々と違和感あるわね……」

セイバー「確かに同意ですね」

フォーゼ「色々といるな……」

羽美「あんた冷静過ぎでしょ！」

すず「落ち着きましょう」

なのは「まあ、落ち着き過ぎもどうなんだけどね……」

それぞれ自己紹介した後知ってる者同士や興味津々で見ているメンバーで進みながら話していた。

マリオ「それで溝呂木先生…結果は？」

Uメフィスト「ほとんど謎だらけだ…」

終えた後にマリオがそう聞き、聞かれたUメフィストは肩を竦める。

改蔵フォーゼ「ふむ…結果とは？」

マリオ「この館の主のロウマンについてだ。ちょっと調べて貰ったんだ」

Uメフィスト「真理事長の所で調べたが分かったのはロウマンと
言う奴は突然現れただけ…どの世界、どう言う生まれ…その他全然
不明だ」

改蔵フォーゼの問いにマリオは簡略に言い、Uメフィストはお手上
げと手を上げる。

ガラ「あら、広い場所に出たわね」

前を見てガラがそう言い、メンバーはその間に入る。

すると…

????「ようこそ、我が屋敷へ」

黒いシルクハットとマントと仮面をつけ赤い服を着た男が現れた。

それと同時に3つのクリスタルが出て来る。

羽美「誰？」

マリオ「この館の主であるロウマンだな？」

首を傾げる羽美の尻目にマリオが前に出て聞く。

ロウマン「いかにも、我が手品、如何かな？」

WCJX（上条）「何が手品だ！」

士郎オーズ「お前のやってる事は聞いた！楽しみに来ていた人達を殺した事は許されない事だ！」

咲夜「さっさと壊すわよ！」

鈴仙「そうですね！」

ロウマンの言葉に上条が叫び、士郎オーズが便乗して怒鳴った後に咲夜と鈴仙がそれぞれナイフと銃弾をクリスタルに放つが：

ガギン！！

その前に何かに阻まれる。

美鈴「弾かれた！？」

すず「いえ、どうやら特殊な壁が形成されてるようですね」

驚く美鈴の隣で何時の間にかバガミールを起動させて、取り出したパソコンを見てすずがそう言う。

アंक「なら士郎！空中から破壊しろ！」

士郎オーズ「分かった！」

それを聞いたアングが士郎オーズにクジャクとコンドルのメダルを
投げ渡す。

キーンキーンキーン！

士郎オーズドライバー「タカ！クジャク！コンドル！タージャー
ド
ル
」

士郎オーズはタジャドルコンボになり、オーズPCと共に飛ぼうと
するが…

オーズPC「ぷっ!?!」

士郎オーズTC「うわっ!?!」

空中に浮かんだ瞬間に2人は地面に叩き込まれる。

セイバー「大丈夫ですか士郎!?!」

士郎オーズTC「あっ、ああ…!」

ガラ「大丈夫?」

オーズPC「ぷっ」

Uメフィスト「どうやら…壁を超えないと無理だな…!」

空中を見て、Uメフィストはそう呟いた後にそれぞれ駆け出す。

チルノ「ぶっ!?!」

ソラ「あいたっ!?!」

お空「うにゅ!?!」

フラン「いたっ!?!」

マリオ「おうち!色々ミニゲーム思い出すな…」

それぞれぶつかりながらもなんとか越えて行き…

Uメフィスト「デヤッ!」

カリバー「エクスカリバー約束された勝利の剣!!!」

ディケイドライバー「ファイナルアタックライド!デ・デ・デ・ディケイド!!!」

剣護ディケイド「おりゃああああ!!!」

Uメフィストとカリバー、剣護ディケイドがクリスタルを破壊した。

魔理沙「めっちゃ打ったぜ…!」

霊夢「あんたが加速するからでしょう!」

マグナハート「ってか巻き込むな…!」

帽子を脱いで頭を押さえる魔理沙に巻き込まれた霊夢とマグナハートがそう言う。

改蔵フォーゼ「まあ、これでそちらで言うショーは終わりか？」

ロウマン「ノンノン、まだ終わっていません」

改蔵フォーゼの言葉にロウマンは指を振ってそう言った後に腕をばつと広げる。

ロウマン「あなた方に特別なショー見せてあげましょう」

そう言うと同時にロウマンは転移し、その後に間の真ん中に水晶が現れる。

剣護ディケイド「特別なショーね…」

霊夢「どうする？」

マリオ「乗らなきゃ、被害は増えるのは確かだろ？」

WCJX「そうですね」

なのは「それじゃあ…」

剣護ディケイドが呟いた後に霊夢は聞くとマリオはそう言い、ユノが同意してなのはが言った後にマリオは水晶に触れると光り輝く。

第65話：血染めの魔術師・ロウマン 中編（後書き）

ネス「後編へ続く！」

オリマー「ホントにね」

リュカ「どうなるかな？」

第66話：血染めの魔術師・ロウマン 後編（前書き）

スネーク「続きだ」

ネス「最後に待ち受けるは……」

リュカ「始まります」

第66話：血染めの魔術師・ロウマン 後編

光が晴れると共にマリオたちはさつきとは別の間にいた。

ロウマン「この先を通り最後の部屋で待ちます。くれぐれもフリークに殺されないように。クッククックク…」

どこからともなくロウマンの忠告が聞こえて来る。

ロウマン「後、途中柱や岩に包帯がある事を言って置くよ」

マリオ「こりゃあ親切に教えてくれてありがとう」

付け加えた事にマリオは礼を言うとそれではとロウマンの言葉は聞こえなくなる。

羽美「フリークって何？」

改蔵フォーゼ「聞くからに妨害キャラだろうな」

カリバー「やれやれ、妨害はキャラもありか…」

羽美の言葉に改蔵フォーゼがそう言い、カリバーは呟く。

霊夢「まあ…そんなの関係ないわ」

魔理沙「そうだな、此处は突き進むだけだぜ」

チルノ「だね！とつとと倒そう！」

霊夢が静かに言い、魔理沙とチルノが笑って言うと言つとメンバーは進む。その途中で赤白のしましま服とズボンを着て手斧を持ち顔は化け物の敵が現れた。

WCJX（上条）「あれがフリックか！」

なのは「一気に行くよ！ダイバインバスター！！！」

現れた敵に上条が言った後になのはが砲撃で倒そうとダイバインバスターで攻撃する。

が：フリークはそれを気にせず、なのはへ斧を振り下ろす。

マリオ「とう！」

そこをマリオが横からフリックを蹴り飛ばす。

WCJX「大丈夫なのは！？」

なのは「うっ、うん…」

霊夢「…こいつ等、無敵みたいね」

安否を聞くユーノになのはが頷く隣で霊夢がそう言う。

剣護^{ケイ}ディケイド「また厄介な敵だな…」

ソロ「確かにそうだな…」

「すず」「こいつ等はいくら攻撃してもダメですからさっさと手品師の所へ向かった方が良いでしょうね」

カリバー「だな…来い魔霸王零式砲!!」

劍護ディケイドにソロが同意した後にすずがそう言い、カリバーが同意した後に魔霸王零式砲を呼び出してそれを握るとカオスエメラルドが鎧と一体化し、マントは虹色に、鎧はメタリックスカイブルに染まると額のクオーツが赤から紫色に輝く『ガンカリバー』へと変わる。

Gカリバー「はっ!!」

チエンジと共にすかさずGカリバーは双銃モードで素早く走り、現れたフリックを後方に吹き飛ばす。

マリオ「全力でBダッシュユウユウユウ!!」

ルイージ「そこは普通に走れでしょおおおお!!」

マリオとルイージの言葉の後に全員がロウマンの待つ奥へと駆け出す。

ロウマンの言う通り、柱や岩があったがそれを避けたり、壊したりして進む。

セイバー「そろそろ手品師の待つ間でしょうか?」

ソロ「だろうな…気配感じるし」

フラン「うん」

セイバーがフリックを後ろに退けながら呟き、同じ様にしていたソロがそう言っているとフランは唸っていた。

マグナハート「どうしたフラン？」

フラン「あのね…あのロウマンって奴、違和感感じるんだ」

鈴仙「あなたも感じたの？私もあの男の波長を読み取れないのよね…」

すず「…もしかしたらあれは人を誘き寄せする仮の姿ではないでしょうか？」

妖夢「ででででは…ゆゆゆ幽霊ですかかかかかか？」

美鈴「妖夢さん…」

咲夜「こら半人半霊…」

霊夢「あんた…自分が一応幽霊の部類に入るの忘れてるでしょ…」

魔理沙「ってかマジでお前全然役に立ってないな…」

聞くマグナハートにフランは答えて鈴仙が同意した後にはすがすがしく言い、それに妖夢は美鈴に抱き付きながら震え、それに美鈴は頭を撫で、咲夜と霊夢と魔理沙は呆れる。

椛（犬走）「わふっ！ロウマンです！」

お空「それじゃあ最後の部屋に着いたんだね」

前を見ていた椛（犬走）とお空がそう言うと同時にロウマンが立つ、広い場所に着いた。

ロウマン「無事に着きましたか、では始めましょう特別なショーを……」

そう言うとロウマンはカードを投げて攻撃して来る。

剣護^{ディ}ケイドライバー「アタックライド！プラスト！」

剣護^{ディ}ケイド「この……！」

メダガブリュー「ゴックン！プットティラノ〜ヒッサ〜ツ」

オースPC「ぷっ！」

魔理沙「弾幕はパワーだぜ！恋符！『マスタースパーク』……！」

チルノ「氷龍符！『アイシクルドラゴン』……！」

椛（犬走）「わふ！狼掌符！『狼光拳』……！」

それを避けた後の剣護^{ディ}ケイドの^{ディ}ケイドブラストの後にオースPCのストレインドウムと魔理沙のマスタースパークにチルノの氷龍、椛（犬走）の狼を模した気弾がロウマンへと命中して行くが……

ロウマン「おやおや？何をしましたか？」

羽美「うそっ!?!」

ルイージ「無傷!?!」

Uメフィスト「こいつも無敵か!」

ダメージを受けてない様子に羽美とルイージ、Uメフィストが驚いた後に士郎オーズTCは羽美とガラ、すず、アंकを狙う何かに気づく。

士郎オーズTC「危ない!」

キーンキーンキーン!

士郎オーズドライバー「コブラ!カメ!ワニ!ブラカ!ワニッ」

すかさず事前に渡されていた爬虫類系メダルでブラカワニになると彼等を攻撃しようとしていた何かの攻撃を腕の盾で防ぐ。

魔理沙「どうするんだ霊夢!」

デステイニー「確かにこれじゃ不利すぎる!」

霊夢「……………」

魔理沙とデステイニーの問いに霊夢は無言で周りを見ると今まで出たクリスタルと同じのが5つあるのを見つけた。

霊夢「（もしかして……）皆！クリスタルを破壊して！！もしかしたら見えない何か分かるかもしれないわ！」

ネオス「分かった！」

ネクサス「……………了承」

ロウマン「！させるか！」

霊夢の言葉にメンバーが同意した後に狼狽したロウマンが攻撃をするが……

ネクサス「……………加速」

Gカリバー「クロックアップ！！」

剣護ディケイド「変身！」

剣護ディケイドライバー「カメンライド！カブト！アタックライド！クロックアップ！」

それより早く、ネクサスとGカリバーとカブトにカメンライドした剣護ディケイドが高速移動して全てのクリスタルを破壊した。

ロウマン「ぐあああああああ……！！！」

それにロウマンが消滅すると、今まで見えていなかった何かの姿を現す。

魔理沙「マスタースパーク!!」

改蔵フォーゼドライバー「ファイヤー!ガトリング!ファイヤー・オン!ランチャー・オン!ガトリング・オン!ファイヤー・ランチャー・ガトリング・リミットブレイク!!」

改蔵フォーゼFS「発射!」

それにすかさずなのははアクセルシューターを放ち、ファイヤーステイツとなった改蔵フォーゼFSが連続射撃でリアルロウマンを攻撃する。

士郎オーズドライバー「スキヤニングチャージ!」

オーズドライバーG「スキヤニングチャージ!」

士郎オーズBC「せいや!!」

ルイージ「ルイージロケット!!」

オーズPC「ぷっ!!」

怯んだりアルロウマンに士郎オーズBCのワーニングライドとルイージのルイージロケットが決まった後にブラステイングフリーザで動きを封じる

剣護ディケイド「これで終わりだ」

剣護ディケイドドライバー「ファイナルアタックライド!」

WCJX「さあ、お前の罪を数えろ!!」

プリズムビツカー「サイクロン! ヒート! ルナ! ジョーカー! マキシマムドライブ!!」

剣護^{ディ}ケイドライバー「ディ・ディ・ディ・ディケイド!!」

ゼロイドライバー「ファイナルアタックライド! ゼ・ゼ・ゼ・ゼロイド!!」

リュウケンドー「ファイナルキー発動!」

ゲキリュウケン「ファイナルクラッシュ!」

よるけるリアルロウマンに剣護^{ディ}ケイドとゼロイドに変身したソロはライドビツカーGMを構え、WCJXはプリズムビツカーを構え、ツインエッジゲキリュウケンを構えたリュウケンドーに変身したソラにその隣でマリオとGカリバーとチルノが構える。

剣護^{ディ}ケイド「ディメンションブラスト!」

ゼロイド「ディメンションシュート!」

WCJX「ビツカー! ファイナリリジョン!!」

リュウケンドー「ツインエッジゲキリュウケン! 超魔弾斬り!!」

マリオ「マリオファイナル!!」

Gカリバー「^{エクスリボルバー}約束された勝利の銃撃!!」

チルノ「陣符！『氷・龍・水の陣』！！」

8人の攻撃が一斉に放たれ、リアルロウマンは飲み込まれる。

リアルロウマン「うごわあああああああ！！！！」

叫び声の後、収まると共にリアルロウマンの姿はなく、それと同時に館が消える。

士郎オーズBC「館が消えた……」

WCJX（上条）「これは一体……」

マリオ「ん？」

周りを見て驚く士郎オーズBCと上条の言葉の後にマリオは自分の足元に蜘蛛の死体を見つける。

アंक「何だ？この蜘蛛？」

マリオ「……もしかしたら……こいつが一番の被害者だろうな……」

なのは「？どう言う事ですか？」

同じ様に気づいたアंकが疑問詞を浮かべ、見ていたマリオの言葉になのはは聞く。

マリオは一度黙祷し、少ししてそれを止める。

マリオ「こいつは元々は小さかったんだろ？が意思が芽生え、自分の食の欲望を満たしたいが為にやっちゃったんだろ？な……」

士郎「…食べたいって事が人を殺したって事か…」

すず「でしょうね」

マリオの言葉に変身を解いた士郎は呟き、すずが同意する。

その後、亡くなった人達を黙祷した後に士郎達は元の世界に戻り、ソラ達は学園に戻ったのであった。

第66話：血染めの魔術師・ロウマン 後編（後書き）

リュカ「と言う訳で真王さんからのリクエスト話でした」

オリマー「今回は色々大変だったね」

ネス「だね」

クツパ「次回を待ってるのだ！」

第67話：地獄のカービィリサイタル&憎怒の戦斧（前書き）

スネーク「ヴァーラガルザとなめ猫からのリクエストだ」

フォックス「まあ、なめ猫のは冒頭だけだけどな」

ネス「悪夢だ…」

リュカ「うん…」

第67話：地獄のカービィリサイタル&憎怒の戦斧

マリオ「…以上がロウマン事件の詳細です」

真王「そうか…」

理事長室でマリオは前回起こったロウマンの事件の詳細を話していた。

マリオ「後にロウマンの館があった場所に花束を置こうかと思いません」

真王「そうか…そう言えばマリオ、実は…ある事件が多数発覚している…」

マリオ「！それってもしかやマリグナント・チューマー・アポトシスと言う者や他にも幻想卿を襲った奴などの暗躍していた連中やチート能力を誇示してる連中、自分達が頂点の存在になると企む連中などが巨大な戦斧を持つ大男に全員抹殺される事件ですか？」

真王の言葉にマリオは驚いて聞く。

それに真王は頷く。

真王「その通りだ…詳しく調べた結果、『英雄殺し』という単語が真っ先に出てきた…」

マリオ「英雄殺し…か…どう言う奴なんでしょうね…」

腕を組んでマリオがそう言つと…

カービィ『皆〜〜二時間後に僕のコンサート開くから待っててね
！！ちなみに大丈夫だからね』

マリオ&真王「……………」

放送から流れた内容に2人は黙り…

マリオ「まあ…しばらくは保留ですね…」

真王「そうだな…」

そう言つて打ち切るのであった。

カービィ「待ってたよ〜」

笑顔で言うカービィにスマハツメンバーや一部のメンバーは落ち込んで
いる。

ソラ「なあ、擬人化姿で歌わないのか？」

カービィ「良いじゃんか〜久々に元のまんまで歌ったって！」

ソラとカービィの会話に一部が首を傾げるが…

カービィ」と言う訳で…レツツシングー!!」

そう言うと同時にカービィはマイクをコピーして歌いだす。

すると…

銀時「何この音痴いいいいいい!!?!?」

茸「うるさい」

神楽「新八以上の音痴ある!!」

新八「おいしいいいいい!!さりげなくこっちバカにしてるだろ!!」

オリマー「ホントにカービィ君は…」

耳を押さえて叫ぶ銀時の隣で茸は耳を押さえ、神楽の言葉に新八が叫んだ後にオリマーは耳を塞いで言う。

数分後

カービィ「フィニッシュ」

数人は気絶してる中、カービィは歌い終える。

クワットロ「うう…酷い歌でしたわ…」

ドゥーエ「メガネにヒビが入ってるわよクワットロ…」

スバル「うう…きつかったねティア」

ティアナ「ホントね…」

ウエンディ「きつかったッス」

それぞれ呻いてるメンバーを尻目にソラはステージの上に行く。

ソラ「と言う訳で…擬人化しろ」

カービィ「ブーブー」

マグナハート「ブーブーじゃねえよ!!」

フラン「頭ふらふら」

お空「うにゅ〜まだ響くよ」

エイン「…色々ときついですね」

エンジエ「確かに…」

唇を尖らせるカービィに頭を押さえてるフランとお空を宥めてるマグナハートが叫ぶ。

ちえっ！とカービィは残念がると擬人化してツバサクロニクルの小狼位の身長に首まで来るピンク髪、模様が付いたピンク色の半そでの上に黒いコートを羽織っている少年になる。

ソラ「と言う訳で歌い直すぞ星斗」

星斗「……ああ……」

ソロ「んじゃあやろうか」

不機嫌に答える星斗に2人は肩を竦めた後に歌う準備をする。

それにスマハツメンバー以外は不安がるがスマハツメンバーはやれやれと呆れる。

ソラ「んじゃあいくぜ!!」

ソロ「俺達のビックバン聞きやがれ!!」

星斗「…聞かせてやるよ」

そう言うと同時に3人は歌いだす。

それに耳を塞いでいた他のメンバーはきよんとんとする。

オットー「あれ?」

カイク「さつきより煩くない」

アンヘル「と言うか上手いな……」

チカ「何ですか?」

オリマー「カービィ君現星斗君は擬人化していると普通以上の上手さになるんだよ」

新八「何そのデメリット消し!?!」

デステイニー「言いたくなるはな…!」

ブリッツ「でござる…!」

ウイング「やれやれ」

不思議がるメンバーにオリマーが代表で言うと新八は叫ぶ。

その後、最初っからそれで歌えよ!とツッコまれたカービィもとい
星斗であった。

第67話：地獄のカービィリサイタル&憎怒の戦斧（後書き）

リユカ「と言う訳でなめ猫さんとヴァーラガルザさんからのリクエ
スト話でした」

ネス「七不思議だよね」

スネーク「ホントだな…」

ガノン「うんうん」

ワリオ「次回を待ってるよ!!」

第68話：やって来たペット&ピチユーが入学！（前書き）

スネーク「光を継ぐ者&なめ猫からのリクエストだ」

フォックス「何でなめ猫2連続？」

オリマー「内のキャラ設定を理由でリクエストを変えさせて貰った
お詫びと言う事で作者と一緒にやるらしいみたいだね」

冥王「なるほどなの」

ワリオ「始まるぞ！」

第68話：やって来たベット&ピチューが入学！

ジャステイス「久しぶりだねブリッツにデステイニー」

ブリッツ「お久しぶりでござるジャステイス殿」

とある日、超次元学園にデステイニー、ブリッツ、G P 3兄弟にウイングとデスサイズの様子を見に一部のSDガンダムメンバーが来た。

ちなみにその中でナタクがお前は正義か？と聞きに行っては挑んだり、ゴッドが様々な者達と挑んだりしている。

フリーダム「それにしても…デステイニー疲れてない」

デステイニー「はい…」

バスター「何か弄られてるのか？」

ブリッツ「そうではないでござる…ツッコミ疲れてござる…」

会話している中、フリーダムがデステイニーの顔色を見て聞き、バスターの疑問にブリッツが冷や汗掻いて言う。

デステイニー「もうな…この学園中にツッコミ所ありまくりな奴多いんですよ…マヨネーズを様々な奴に平然とかける奴とかロリコンとかブラコンとかシスコンとか変態とか平然と（ピー）な発言をする奴とか（ピー）を体言してる女神とか…何か何時の間にかツッコミ所感じ取るとどんな状況でもそこへ行ってツッコミするって言う

のが付いちゃって…」

フリーダム&ジャスティス「(うわぁ…:;)」

バスター「(つてか後半、思いつきりノクターンでしか出せない用語で本家の裏で出てる女神様だる絶対:;)」

ふつと哀愁を漂わせるデステイニーにフリーダムとジャスティスは冷や汗を掻き、バスターが後半の発言にツッコミを入れる。

ちなみに彼等以外に入学で来た者達がいる。

ピチュー「ピチュー！」

ピカチュウ「ピカピ！」

サトシ「久しぶりだなピカチュウにピチュー、ミュウツー！」

ミュウツー「ホントだな」

自分の腕にいるねずみポケモン2体にサトシより長身で紫色の膝まで来る髪に紫の瞳、ワンピースを着ている女性の姿でいるミュウツーに言う。

なぜこの2匹+ミュウツーがいるかと言うとピチューが超次元学園に入学したのでマリオを經由して真王理事長から許可を貰い、入学して来たのだ。

ルカリオ「(来たか…:;)」

ミュウツー「(負けないぞ)」

ティアナ「可愛いわね」

スバル「ねえねえ、この子達も擬人化出来るの？」

ピチューを見てそう言うティアナの後にスバルはサトシにそう聞く。

サトシ「ピカチュウはないけど…そう言えばピチューは…どうなんだろうな？」

ミュウツー「ああ…それならピチューは擬人化出来るぞ…ピチュー」

顎に手を当てるサトシに睨み合いを止めたミュウツーはそう言い、
ピチューはサトシから降りると体を光らせ…

…ロムやラム位の身長に黄色のワンピースを着た女の子になったピチューが立っていた。

ピチュー「ピチュー」

新八「って喋れないんかい!!!」

笑顔で言うピチューの言葉を聞いた瞬間に新八が入れてる中…

一部のメンバー「うっ!!」

笑顔を見たスマハツメンバーを除いた一部のメンバー(女の子好き女子やロリコン)は後ずさる。

ピチュー「ピチュー？」

ビビ「(何この汚してはいけないオーラは!!)」

ギルシア「(ぬおおおお!!色々と手が出せない!!!)」

サトシ「何で悶えてるんですか？」

幽香「サトシは知らなくて良い事よ」

天子「そうね」

悶えてるメンバーにサトシは首を傾げ、幽香はそう言い、天子とミユウツー、ルカリオは頷く。

ゆたか「可愛いねみなみちゃん」

みなみ「そうだねゆたか」

デュエル「そうだろそうだろ、ウチの子が一番かわいいよな」

マーク? 「なんの! ナンバー1はウチだっつーの!!」

こちらはゆたかとみなみでデュエルとマーク?が自分達のペットのバクウとバウンドドックを見ていた。

ゆたか「あつ、あの…」

みなみ「…喧嘩は駄目」

デュエル「安心しろ」

マーク? 「ああ…これはだな…」

デュエル&マーク? 「そう思えねえ飼い主は駄目だっ! ! って事だ
! ! !」

??? 「ギヤア」

慌てるゆたかと喧嘩だと思いつめようとするみなみにデュエルとマ
ーク? がズバアン! と言う擬音が聞こえる程叫ぶと後ろから何かの
鳴き声がし、2人は振り返ると…

鳥のような生物がいた。

マーク? 「何だこいつ?」

デュエル「誰かのペットか? どこから来たんだ?」

それにマーク? とデュエルがしゃがんでそのペットを見ていると後
ろからのバクウの音がする。

デュエル「どうしたバ…クウ! ?」

マーク? 「どうした?」

振り返って固まるデュエルにマーク? も振り返ると…

バクウ「?」

ハロ「ハロハロー」

そこに鼠の様な生き物を抱えたDXと緑、白、赤、蒼、マゼンタ、オレンジの6体のハロを抱えたターンAが来る。

数分後、DXが抱えた生物、モラちゃんがお腹空いてたので食堂でモラちゃんに食事前のミルクを上げた後にマグナハート経由でお空が呼んださとりにより来た理由を聞く。

溝呂木「…つまり、お前達…と言うかクウはそこにいるデュエルやマーク？が飼ってるバクウやバウンドドックに会いたい為に飼い主には無断で他のペット達と一緒にノアに頼んで来たと？」

さとりから聞いた理由に溝呂木は眉間を押さえて聞くと光のバクウことクウは頷く。

デュエル「そうだったのか…」

デステイニー「それだと心配してくないか？」

サンドロック「だよね」

マーク？「きつと飼い主は探してるんじゃないか？」

聞いていたデュエルは納得してデステイニーはもつともな事を言い、サンドロックも同意してマーク？がそう言う。

光ハロ「ハロハロー」

ラウラハロ「ドコドコー」

セシリアハロ「アソボアソボ」

シャルハロ「ヤッホー」

ジャステイス「それにしても凄いな…その光って人と話して見たいな」

鈴ハロ「スゴイスゴイ」

一夏ハロ「クスグッタイ」

第八ロ「クスグッタイクスグッタイ」

ソロ「それならさっきウルトラサインで連絡しといたから後で来ると思うぞ？」

ブリッツ「良かったでござるなジャステイス殿」

6体のハロを見て触ってそう感想を述べるジャステイスにソロはそう言い、ブリッツが言う。

サイサリス「ってか、ノアって奴大丈夫なのか？」

ゼフィランサス「確かに説教されるかもね」

ステイメン「可愛いよね」

モラちゃん「きゅきゅ」

ふと思った事を言うサイサリスにゼフィランサスはそう言い、ステイメンはモラちゃんを撫でていた。

マリオ「ただいま」

ソニック「ケルベロスの散歩終わったぜ」

そこにケルベロスの散歩に出ていた2人が来る。

デュエル「すまないな散歩に出て貰って」

マリオ「いや〜楽しかったし」

ソニック「YES」

礼を述べるデュエルにマリオとソニックはそう言う。

その後、光がモラちゃんの飼い主の千冬にホークの飼い主である山田と共に来て、メンバーに礼を述べた後に帰った。

光「ホントにすいません」

デュエル「いや、俺も満足だし」

ちなみに…ピチューはマスコットになり…オマケでナタクとゴッドも超次元学園に生徒として入った他…

ターンA「砂風呂屋兼パン屋ムーンレイスの開店です」

DX「砂風呂で和みたい人、パンを食べたい人は来てくれ」

ターンAとDXが真王に許可を貰って建物を建てていた。

デステイニー「……学園超えてるだろ此処……」

ウイング「超次元だしな」

デステイニー「誰が上手い事言えと後、上手くないし！」

最後にデステイニーはツツコミを入れるのであった。

第68話：やって来たペット&ピチューが入学！（後書き）

ネス「と言つ訳でなめ猫さんと光を継ぐ者さんからのリクエスト話でした」

クツパ「デステイニーは大変なのだ…」

リュカ「ですね…」

ワリオ「次回を待ってるよ！」

第69話：ちびデカ超次元学園！！（前書き）

マリオ「ケンからのリクエストだ」

クッパ「今回我輩達は…」

ジーノ「だね」

マロ「始まります！」

第69話：ちびデカ超次元学園！！

マリオ「お〜い統夜、呼んだ理由は何だ？」

とある日、マリオ達は統夜に呼ばれていた。

統夜「ああ、これだよこれ」

そう言つて統夜は後ろを指す。

マロ「これ…土管ですね」

クツパ「しかも我輩達の世界の奴なのだ」

統夜の後ろにあつた緑色の土管を見て、マロとクツパは言う。

ジーノ「読めたね。コレに入らないかだね？」

統夜「その通り」

ソニック「それなら入って見ようぜ」

と言う訳でメンバーは土管に入った。

統夜「おおっ…」

マロ「うわぁ…」

ジーノ「これは…」

ソニック「こりゃあ驚きだな」

土管を出た後に見えた光景に上記の4人は声が漏れ…

マリオ「いや〜懐かしいな〜」

クッパ「うむ…」

マリオとクッパは何時の間にか取り出したお茶を飲んで懐かしんでいた。

銀時「ふう…平和だな…」

そこに広がるは銀さん達生徒や学園が巨大化した世界だった。

マロ「どうなってるんですか!?!」

マリオ「ふう〜む、どうやら俺達が入った土管はちびでかアイランドの様に周りの物が大きくなる奴の様だな…」

クッパ「簡単に言うなら我輩達は土管を通った事で小さくなって逆に周りが大きくなった世界に来たと言う訳なのだ」

ジーノ「それじゃああの土管に入れば元に…」

驚くマロにマリオは呟き、クッパがそう説明し、ジーノが後ろを振り返ると…土管がなかった。

統夜「土管がねえ!？」

マリオ「あれ…一方通行の奴だったのか…!」

マロ「そつ、それじゃあ僕達は一生小さいままですか!？」

驚く統夜にマリオは冷や汗を掻き、マロは慌てながらそつ言つ。

クツパ「落ち着くのだ。きつと他の場所に土管があるのだ!」

ソニック「んじゃあさつさと探しに行こうぜ!」

クツパの言葉にソニックが言った後にメンバーはさあ行こうと思つた瞬間…

椀（犬走）「わふう〜」

マリオ&マロ&ジーノ「うわぁーーーーー!」

統夜&クツパ「のわぁーーーー!」

ソニック「NO………!」

練習で走りこみしてたのか走っていた椀（犬走）によって起きた風でメンバーは吹き飛んだ。

マリオ「久々の羽帽子!」

ソニック「変身!」

吹き飛ばされながらマリオはすかさず懐から羽帽子をかぶるとマロとジーノの手を掴み、ソニックはカリバーに変身すると統夜とクツパを掴む。

マリオ「このまま探すぞ」

カリバー「OK」

マリオの言葉にカリバーは了承した後にそれぞれ飛びながら周りを見る。

統夜「こう広いと探すの大変だな」

マロ「そうですね…」

額に手を当て、目をこらして探て言う統夜にマロは同意する。

ジーノ「ん？あれは…」

カリバー「土管みつけ！」

しばらくしてジーノとカリバーが土管を見つける。

マロ「これで戻れますね！」

クツパ「うむ」

マリオ「んじゃあ行くか」

と言う訳でメンバーは土管に入ろうとして…

ガンー!!

マリオ「……野球の球が飛んで来るとはこれいかに……」

全員が野球の球に顔面直撃してる中、マリオがそう言った後にそのまま土管の中に落ちる。

クド「わふう!? 皆さんどうしたんですか!?!」

ライム「どうしたの〜?」

ソニック「ちよつとな……」

マロ「魔物園の所にあっただんですね……」

邪王「ってかその大きな野球の球は何だ?」

巨大な野球の球の横で顔を抑えたメンバーに驚くクドとライムに呆れる邪王の姿があったのであった。

第69話：ちびデカ超次元学園！！（後書き）

マロ「と言っ訳でケンさんからのリクエスト話でした〜」

ジーノ「顔痛かったね…」

マリオ「うむ…」

ソニック「YES」

クッパ「次回を待ってるのだ！」

第70話：緊急事態発生。フェアリーを殲滅せよ（前書き）

スネーク「龍の骨からのリクエストだ」

ネス「今回は…」

リュカ「殲滅だね」

オリマー「始まるよ」

第70話：緊急事態発生。フェアリーを殲滅せよ

マリオ「はっ！」

ルイーダ「やつ！」

自分達に襲い掛かる等身大のLBXフェアリーを攻撃して撃破し、次のフェアリーを倒しに走る。

とある日、学園に等身大のLBXフェアリーが大量に降ってきており、セイタと駆け付けたジンとマリオ達はフェアリーの集団を殲滅に当たっていた。

デステイニー「ホントに数が多いな！」

デスサイズ「まったくだね」

アロンダイトを振るうデステイニーにビームサイズで切り裂いたデスサイズが同意する。

DX「よし！此処はツインサテライトキャノンで！」

ターンA「月光蝶しましょうか？」

ウイング「自爆……」

ゼフィランサス「ようし！サイサリスの核兵器で……」

デステイニー&サイサリス「止める」

名乗り上げる4人にデステイニーとサイサリスは止める。

ソロ「くそ、きりがないな…」

ゼロライザーを振るいフェアリーを殲滅しながらソロは呟く。

その傍らでゼロライザーから呼び出されたゼットン、バキシム、カブトザキラー、タイラント、メカザムの5体がフェアリーを殲滅している。

そんなソロの後ろで3体のフェアリーが襲い掛かる。

ソロ「っ！しまった!？」

???「ファイヤアアアアラリラット!!!!」

???2「シルバークロス!!」

???3「ジャンナツクル!!」

刹那、それに気づいたソロに襲い掛かるフェアリー3体を1体は1人の戦士がラリラットで吹き飛ばし、十字の光とロケットパンチが残りのフェアリーを撃破する。

魔理沙「おお！グレンファイヤーじゃねえか！」

グレンファイヤー「よう魔法使いの嬢ちゃん!!!つてか後ろに取られてるのかなソロちゃんよ?」

ソロ「うっせ」

魔理沙の言葉にラリラットをした戦士、グレンファイヤーは軽く挨拶し、ソロにそう言い、ソロはゼロライザーでグレンファイヤーの後ろにいたフェアリーを倒す。

ソロ「ミラーナイト！」

ミラーナイト「幻想脚奪還日振りですねソロ」

チルノ「それにジャンボット！何で此処に？」

ジャンボット「我々もこの学園に入学しに来たのだが…どうやら最初はこいつ等の殲滅だな」

来たソロとチルノが十字の光を放ったミラーナイトと左腕を戻しながらのジャンボットに気づき、話しかけ、ジャンボットはそう説明した後にバトルアックスを構える。

ジン「彼等は？」

レヴィ「ソロの仲間だぞ！…ってか、確かもう1人いた筈だけど…？」

グレンファイヤー「色々と準備で後から来る！…ってか、今（この話書いている日にちじゃあ）あいつが正式に出る2話はまだ出てないから出れないって言う事情もあるけど！」

デステイニー「メタ発言すなああ！…！」

セイタ「と言うかどういう意味ですか？」

ジンの問いにレインフォームとなったレヴィが答えて、首を傾げ、フェアリーを殴り飛ばしながらのグレンファイヤーの言葉にデステイニーがツツコミを入れ、セイタは冷や汗を掻く。

ソロ「負けてられないな…うおっ!？」

それを見た後にソロは気合を入れ直した途端、弓の次元器、スターエンドがソロの前に現れる。

ソロ「何で次元器が…」

いきなり現れたスターエンドにソロは戸惑って取ると言が消え、スターエンドは分離する。

ソロ「うおっ!?!これってピットの持つてる神弓と同じ双剣になるのか…と言うか本来は双剣の次元器だったのか？」

いきなりの事にソロは双剣へと変わったスターエンドを見て言うといきなりスターエンドは光り輝き、形状を変える。

ソロ「何だ…！イージスを使った時みたいに力が溢れるぜ!！」

あふれ出すスターエンドの力にソロは軽く振って構える。

ソロ「さあ！ブラックホールが吹き荒れるぜ!！」

そう言うとソロはフェアリーの集団へ駆け出す。

Bカリバー「わおう！ソロの奴、スターエンドに認められたのか？」
ブレイブ・オブ・ブレイカーを装着して戦うBカリバーはそれを見て
呟く。

ソロ「だりやりやりやりやり！！」

次々と来るフェアリーをソロはスターエンドで切り裂いて行く。

ソロ「はっ、はっ！！」

次にスターエンドを投げると念動力で上手く動かし、フェアリーを
切り裂いて行く。

そして戻って来たスターエンドを再び弓にすると現れた言を引き、
次々とフェアリーを打ち抜いて行く。

ジン「あれで最後だ！セイタ君！」

セイタ「はい！海道先輩！！！」

最後に残ったフェアリーを見てジンはそう言い、セイタも答えると
それぞれ必殺技の体制に入る。

ジン「必殺ファンクション！」

『アタックファンクション エクスプロージョン』

ジンは空中で周り、ゴッドランチャーを地面に叩きつけ、十字の火
炎が地面から湧き出て、フェアリーは吹き飛ばす。

第70話：緊急事態発生。フェアリーを殲滅せよ（後書き）

リユカ「と言う訳で龍の骨さんからのリクエスト話でした」

ネス「いや〜ウルティメイトフォーエス出たね〜」

スネーク「まあ、作者、これ書く前に来たウルトラマンゼロ外伝キラーザビートスターの第1話を見たんだよな…」

クツパ「それで入っちゃったのだ…」

オリマー「次回を待っててね！」

第71話：次元器大奪還！！（前書き）

スネーク「真王からのリクエストだ」

ネス「えーユートピアさんのリクエストは次回やります。なぜ真王さんのを先にやるのはタイトルとリクエスト内容で真王さんののを先にやって置いた方が良くないと作者が判断したからです」

リユカ「だからユートピアさん、少し待っててくださいm」
「m」

オリマー「と言う訳で始まるよ」

第71話：次元器大奪還！！

マリオ「此処が最後の次元器が眠る遺跡か…」

グレンファイヤー「どんな奴等が待ち受けてるんだろっな」

ミラーナイト「グレンファイヤー、我々の目的は次元器の保護だ」

目の前の遺跡の入り口を前にしてマリオは呟き、腕を回すグレンファイヤーにミラーナイトはそう言う。

なぜ彼等が此処にいるかと言うと残り一つの杖の次元器、ハイパーデイメンション超次元の杖の位置が判明したからだ。

場所は今マリオ達がいる離れ孤島の巨大遺跡。

上記の3人以外にソロ、ジャンボット、ソラ、ソニック、ルイージがいる。

ルイージ「これで次元器は全て揃うね」

ジャンボット「確かにそうだな」

ソニック「んじゃあ行くか！」

ソラ「おうー！」

ソロ「いっちょやりますか！」

それぞれ言った後に遺跡の中へと走り出す。

ガコン！

グレンファイヤー「いきなり落とし穴かよー！」 落ちかけたが浮かんで回避

ソラ「あぶな！」 落ちかけたがグレンに抱き付いてセーフ

…いきなり罠に嵌り掛けたが…

その後、マリオ達は襲って来る罠やモンスターを潜り抜け、ダイヤモンドロードが置かれている場所へと進んで行く。

グレンファイヤー「ふへえ…色々と歯ごたえのある奴もいたが罠は厄介だったな」

ジャンボット「主にマリオとかお前とかがな…」

マリオ「押ししてくれと言っているスイッチやあんな叩きたくなくなる様なブロックがあるといい…」

ルイージ「ホントに癖になって…」

頭を拭うグレンファイヤーにジャンボットはそう言い、顔を抑えるマリオにルイージはほろりと涙を流す。

ソラ「広いな…」

ジャンボット「此処が遺跡の保管場所かもしれないな」

周りを見て呟くソラにジャンボットはそう言う。

ミラーナイト「つまり…あそこにある祭壇に祀られてるのが最後の次元器：ハイパーディメンションロードか？」

周りを見ていたミラーナイトは奥にある祭壇の上に飾られている杖を見て呟く。

ソニック「そんじゃあ、最後の奴を取りますか」

ソロ「だな」

ルイージ「けど…何かありそうだよね…」

不安がるルイージの後にメンバーは祭壇へ近づくと…

祭壇の階段の左右にあった6体の像の目が輝いて動き出し、8人の前に立つ。

グレンファイヤー「何だ!？」

ミラーナイト「やはりそう事は行かない様だな…」

ジャンボット「どうやら次元器を守る番人の様だな…」

マリオ「だな…」

ソニック「だったらこいつ等を倒して最後の1つを手に入れますか！変身！」

現れた6体の守護像に驚くグレンファイヤーの隣でミラーナイトが構え、ジャンボットの分析にマリオは同意した後にソニックは擬人化した後にカリバーに変身する。

そして殺人絶超斧を呼び出すとアックスカリバーへ変わる。

アックスカリバー「チェンジ！」

殺人絶超斧「モードチェンジ！ハイパーモード！」

アックスカリバーの声と共に殺人絶超斧から音声がした後に斧の先端に槍が付いたハルバードタイプになる。

それと同時に6体の像の内、斧を持った像が前に出る。

Aカリバー「せやつ！！！」

相手の振り下ろした斧をAカリバーはハルバードとなった殺人絶超斧で壊した後に吹き飛ばす。

Aカリバー「次！」

殺人絶超斧を戻すと次にシャンバリガを呼び出し、掴むとメタリックブルーに染まり、額のクオーツは赤のままだが強く輝く『シャンカリバー』へと変わる。

S Yカリバー「チェンジ！」

シャンバリガ「モードチェンジ！マスターモード！！！」

その音声の後、見た目は変わってないがSYカリバーはシャンバリガの先端をこっちに向かって走る槍を持った像に向ける。

SYカリバー「伸びろ！シャンバリガ！！」

その言葉と共にシャンバリガが伸び、走って来ていた像を吹き飛ばす。

SYカリバー「今度は…」

ソロ「俺の番だ！！」

スターエンド「モードチェンジ！アルティメットモード！！」

シャンバリガを元に戻した後にスターエンドを呼び出すカリバーだが、取る前にソロが掴むとスターエンドはBRACHの石田 雨竜の持つ矢を白色に光ったのに変わった後にソロは弓を持つ像が放つ矢を避けて行き…

ソロ「食らえ！ウルティメイトアロー！」

そう言うと同時に矢を放つ。

それは弓を持つ像の弓だけを貫く。

ソロ「…この形になった瞬間に撃てば良い場所が分かるって…本当に次元器は扱いを間違えたらやばいな…」

カリバー「どんどん行くぜ！チェンジ！」

魔霸王零式砲「モードチェンジ！ハイパーモード！！」

それにソロはスターエンドを見て改めて注意しようと決意した後にカリバーは魔霸王零式砲を持ってガンカリバーになった後に魔霸王零式砲はモードチェンジする。

Gカリバー「…そこだ！」

魔霸王零式砲をスナイパーの様に構えるとGカリバーは銃を持った像の放った銃弾を相殺した後に像の持つ銃を打ち抜く。

それを見た後に魔霸王零式砲を元に戻した後にギャラギシアを呼び出してソードカリバーになる。

Sカリバー「チェンジ！」

ギャラギシア「モードチェンジ！スーパーモード！！」

次にギャラギシアをモードチェンジさせると剣先が縦と横垂直になり、それで剣を持った像の剣を柄の所まで切断して蹴り飛ばす。

カリバー「最後はこれだ！」

そして格闘家の様な像の前にカリバーはブレイブ・オブ・ブレイカーを装着してブレイブカリバーになる。

Bカリバー「チェンジ！」

ブレイブ・オブ・ブレイカー「モードチェンジ！アルティメットモ

「ドー!!」

音声と共にブレイブ・オブ・ブレイカーはゴールドレッドに輝く。

Bカリバー「行くぜ! 約束^{エクス}された!」

そして駆け出すとブレイブ・オブ・ブレイカーと同じ様にBカリバーの体もゴールドレッドに輝くと格闘家の様な像の突き出した右フックを同じ様に右フックで像の右腕を粉碎し…

Bカリバー「勝利^{ブレイカー}の拳!!」

最後に左腕を粉碎する。

デルフ「やったな相棒!」

マリオ「凄いなソニック! 何時の間にモードチェンジ出来る様にしてたんだ?」

デルフが言った後にマリオが駆け寄ってそう聞く。

カリバー「色々とな、カリバーンを通して次元器の意思と話したりして練習も入れてやったんだよ…次元器ってホントに難しかった…」

カリバーン「なかなか骨が折れたな…」

しみじみと1人と1振りの剣がそう言った後に祭壇に置かれていたハイパーデイメンションロードが浮かび上がるとカリバーの元に飛んで行き、それをカリバーは慌ててキャッチする。

近くで見ると水晶の中に宇宙が見える。

カリバー「これがハイパーデイモンシヨンロッド…ってか何で…」

マリオ「もしかしたら…お前達、もしかしてこの杖の持つ者に相応しい者を探していたのか？」

いきなり自分の手元に来た次元器にカリバーは戸惑うとマリオはそう聞く。

それに格闘家の様な像は頷いた後に腕を素早く再生させる。

それに続き他の守護像達も武器を修復させる。

ミラーナイト「再生した!？」

グレンファイヤー「おいおい!つまり試してたって事か!？」

ジャンボット「まあ、我々は戦ってないが…」

カリバー「そうだったのか…分かった。これは大事にするぜ!」

それぞれ驚くミラーナイトとグレンファイヤーと呟くジャンボットを尻目にカリバーはハイパーデイモンシヨンロッドを翳して言う。

それに満足したのか6体の守護像は動かなくなる。

その後、マリオ達は学園に帰還したのであった。

第71話：次元器大奪還！！（後書き）

ネス「と言う訳で真王さんからのリクエスト話でした」

リュカ「色々とカリバーが」

スネーク「やれやれ…何か言われても知らんぞ…」

ワリオ「次回を待つてろよ！」

第72話：罪の刻印（前書き）

スネーク「ユートピアからのリクエストだ」

ネス「今回はめっちゃシリアス…」

リュカ「だね」

第72話：罪の刻印

チルノ「あれ？楓どうしたの？」

学園の大浴槽で女子メンバーが入っているとチルノが楓の背中に蛇の刻印がある事に気づく。

楓「これですか？…何時の間にか出来てたんですよ。何でしょうか？」

魔理沙「おいおい、そりゃあ変わってるな」

アリス「ホントね…」

霊夢「（…嫌な予感がするわね）」

それに楓は悩んでいたらしくそう言い、魔理沙とアリスがそれを見て言い、聞いていた霊夢は楓の背中の刻印に嫌な予感を感じ取っていた。

ちなみに…

マグナハート「気持ち良いか？」

お空「うにゅ」

フラン「不動〜次私〜」

エンジエ「動かないの〜」

エイン「そうですね」

普通に女性で扱われているファルコモといマグナハートであった。

翌日

楓「（桜：どこ行ったの？）」

桜が行方不明になり、それに楓が一人捜していた。

すると…

????「音梨 楓だな？」

楓の目の前に男が現れて聞く。

楓「誰ですか？」

男 カオスゴッド「我が名はカオスゴッド。桜は預かった」

名乗った後そう言い、カオスゴッドはビー玉を取り出して見せる。

カオスゴッド「この中には桜の魂がある。返して欲しければ集めた次元器を全て気付かれずに持って来い」

楓「次元器を！？…分かりました」

カオスゴッドの要求に楓は驚いた後に迷う事無く了承した。

そうしなければきっとカオスゴッドはビー玉を壊すと分かっていたからだ。

その夜、楓は誰にも気づかれずに全ての次元器を持ち出してカオスゴッドの待つ場所へ向かった。

楓「気づかれずに持って来ました…」

カオスゴッド「確かに…だが、どうやら気づかれていた様だな…」

7つの次元器を見せる楓にカオスゴッドは確認して後ろを見て言い、それに楓は振り返ると…

マリオ「悪いが…人質を返して貰おうか？」

そこにマリオとウルティメイトフォースゼロにソラとチルノにカリバーがいた。

カオスゴッド「良く気づいたな」

マリオ「あのな…次元器の力が離れてたら普通に分かるちゅうの…」

カリバー「Hey、それ俺達含む一部だけだと思っぞ…」

カオスゴッドの言葉にそう返すマリオにカリバーはそうツッコミを入れる。

ソラ「椀をどこにやった!」

チルノ「あたい達が成敗してやる！」

ゲキリユウケンを構えるソラとバスタードチルノソードを構えたチルノが切っ先をカオスゴッドに向けて言う。

それにカオスゴッドはため息を付いた後に楓に振り向く。

カオスゴッド「戦え」

楓「…はい…」

グレンファイヤー「あんにやろう！か弱い女の子を利用しやがって！ぶっ倒す！ファイヤーステック！！」

その言葉に楓は次元器をギャラギシアとシャンバリガを構えるのにグレンファイヤーは怒った後にファイヤーステックを出そうとするが…

プスン

グレンファイヤー「あり？ファイヤー！ファイヤー！！」

炎が煙を出してなぜか消えたのにグレンファイヤーはあっけに取られた後に炎を出そうとするが全然出ない。

グレンファイヤー「全然出せねえ！？」

ミラーナイト「まさか！？…シルバークロス！」

炎を出せない事に驚愕するグレンファイヤーの隣でミラーナイトは必殺技を出そうとするが四散してしまう。

ソロ「これは！？まさかあの時と同じか！？」

グレンファイヤー「マジで！？」

その様子ソロはそう言い、グレンファイヤーは驚く。

ジャンボット「ならば私とソラとチルノに任せろ」

ソラ「だな！格闘戦なら大丈夫だぜ！」

チルノ「だね！」

マリオ「待て！あの男には俺が行く！皆は楓と次元器を！」

カリバー「あつ、マリオ！！」

飛び出そうとする3人にマリオはそう言うと楓を通り抜け、カオスゴッドに立ち向かう。

普通なら全員で行くのがセオリーだが、マリオは様々な敵や常識のない転生者に神と戦って来た経験からの直感で他の皆をあの男と戦わせては駄目だと判断した。

マリオ「はっ！」

そしてパンチを繰り出した瞬間にカオスゴッドが取り出したビー玉を見て、直感でその前で止める。

マリオ「やつ！」

今度はキックをして、カオスゴッドがその当たる場所にビー玉を持って行き、自分に割らせようとしてまたもその前で止める。

カオスゴッド「(ちっ!)」

マリオ「(やはり、この男!あのビー玉を俺達で誤って壊させてる光景を楓に見せる気か!楓が従うからに: 椀の魂が入っていると見え優しい彼女は従うしかない...)」

マリオにしか分からない程の苛立つカオスゴッドの表情にマリオは直感でそう感じ取ると割らない様に攻撃しようとするがカオスゴッドは巧みにその攻撃の前にビー玉を持って行く。

カオスゴッド「(さっさと見せろ!)」

そう心の中でカオスゴッドは呟くとマリオにパンチする。

それにマリオは合わせる様にパンチをぶつける。

ピシッ、パキン!

マリオ「(しまった!?)」

聞こえた音にマリオは顔を歪めるとカオスゴッドはその顔に笑みを浮かべ、パンチした右手を開くと壊れたビー玉を見せる。

カオスゴッド「おっと、こいつのせいで割ってしまった」

楓「あつ、ああ…」

ほとんど悪気もなくカオスゴッドはそう言うとそれを見た楓から黒いオーラが溢れだし、それにより楓の服の胸元が吹き飛び、その胸にユニコーンの刻印が現れる。

マリオ「あれは…?」

カオスゴッド「罪の刻印…少々惜しいが何個かは頂いて行くぞ」

楓の胸に現れたユニコーンの刻印にカオスゴッドは呟いた後にマリオから離れると楓に近づき、闇の中へと楓に剣、槍、斧の次元器と共に消える。

グレンファイヤー「待ちやがれ!!」

チルノ「楓が連れ去られちゃったよ!」

ミラーナイト「それもあります…全部集めた次元器の内3つ取られました」

ジャンボット「やばいな…持ち主じゃないとはいえ、次元器を悪用されたら…」

カリバーン「あー…その心配はないぞ」

虚空に叫ぶグレンファイヤーの後にチルノは言い、ミラーナイトとジャンボットの言葉にカリバーンはそう返した後…カリバーンの周りに光が出た後に持ち去られた筈のギアラギシアとシャンバリガに殺

人絶超斧が現れる。

カリバー「どうも俺が使った次元器は俺と持ち主と認められた奴以外が台座以外の遠くへ運ぼうとすると俺の所に自動的に戻って来るんだよ」

マリオ「…奴の目的は何なんだ…」

デステイニー「皆！」

説明するカリバーの隣でマリオはカオスゴツドの目的について考えているとデステイニーがウイングと共に来る。

石となった椀を抱えて…

ソラ「椀!？」

デステイニー「マリオに頼まれて探してたらこの姿で…」

ウイング「それでどうする?」

マリオ「…学園に戻ろう。そして奴の言ったのを調べよう」

石となった椀に驚くメンバーにデステイニーはそう言い、ウイングが聞くとマリオはそう答え、メンバーは学園に戻る。

…罪の刻印とは?そしてそれを刻まれた楓の運命は?

第72話：罪の刻印（後書き）

ネス「続きます」

リュカ「どうなるかな…」

ワリオ「次回を待ってろよ!!」

第73話：セレナとネプテューヌとネプギアと英雄殺し（前書き）

スネーク「十六夜 白爛からのリクエストだ」

ネス「登場するね」

リュカ「どうなるかな？」

第73話：セレナとネプテューヌとネプギアと英雄殺し

セレナ「は〜…」

休日、セレナはネプテューヌとネプギアと共にシヨッピングに行っていたがため息を付いていた。

ネプテューヌ「どうしたのセレナ？」

セレナ「ちよつとね…取り逃がしたのよね…」

ネプテューヌの問いにセレナはそう言う。

前回の時、セレナは偶然、楓を連れて行くカオスゴッドを発見して追跡したのだが途中で気づかれて逃げられてしまったのだ。

今現在、マリオ達はカオスゴッドの言う罪の刻印に椀の石化解除の作業をしている。

ネプギア「あの、そう気を負わずに今はシヨッピングしましょう」

セレナ「…そうね」

そんなセレナをネプギアは励まし、セレナが頷いた後…

????「お前等！超次元学園の奴等だな！」

????2「最強の俺達がお前等を倒してやる！」

目の前にそう名乗る連中が現れ、3人にいきなり襲い掛かる。

セレナ「いきなり過ぎるわね……」

ネプテユーン「こっちはショッピングに行こうと思ったのに……」

ネプギア「応戦しよう!」

3人がそれぞれそう言った後に応戦しようとした瞬間……

???「ぶるあああああああああ!!!!!!」

連中「ぎゃあああああああ!!」

突如、巨大な戦斧を持つ大男が現れて連中を薙ぎ倒す。

大男「屑が!最強を簡単に名乗ってんじゃねえ!!」

倒れた連中にそう吐き捨てた後、大男は3人に気づき、特にネプテユーンとネプギアを見る。

大男「…ほう…?ここにも、可能性を持つ者がいたか…?…ふむ、邪魔者の始末が終わったらじつくり楽しむとするか…」

セレナ「何を言ってるの…?貴方は何者!」

ネプテユーン「もしかして最近起きた暗躍してる連中やチート能力を誇示してる連中、自分達が頂点の存在になろうと企む連中が大量抹殺された事件を起こした人なの?」

ネプギア「どこから来たんですか？」

大男 バルバトス「……我が名は、バルバトス・ゲイティア。記憶するがいい……」

ネプテューヌとネプギアを見てそう言う大男にセレナは聞き、ネプテューヌとネプギアも聞くがそれには答えず、唯一、名前だけ答えただけ、すぐにどっかへ去ってしまう。

ネプテューヌ「バルバトス・ゲイティア……」

ネプギア&セレナ「……」

名前を呟くネプテューヌと共にネプギアとセレナはバルバトスの去った方を見ているのであった。

第73話：セレナとネプテューヌとネプギアと英雄殺し（後書き）

リユカ「と言う訳で十六夜 白爛さんからのリクエスト話でした」

スネーク「バルバトスの名前公開だな」

ネス「だね」

ワリオ「次回を待つてろよ！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5885x/>

超次元学園へようこそ！！『スマハツストーリー』

2011年12月19日14時51分発行